

2026.01.07 作成

2025 年 12 月新聞書評に掲載された本



クイーンと殺人とアリス

金子玲介 著

講談社

謎解きアイドルのオーディション。孤島で開催される最終審査に集まったのは、個性豊かな 8 人の候補生たち。しかし夢をかけた合宿は、常軌を逸した悪夢へと変わる。『メフィスト』連載を単行本化。

産経新聞 2025/12/07

2025:11./ 251p

978-4-06-541080-6

¥1,980〔税込〕



9 78 4065 410806



高宮麻綾の退職願

城戸川 りょう 著

文藝春秋

満を持して親会社・鶴丸食品に出向した高宮麻綾。新たなビジネスの立ち上げに奮闘するも、パワハラ疑惑をかけられ、早くも大ピンチ! さらに産業スパイが立ちはだかり...!? 「高宮麻綾の引継書」の続編。

産経新聞 2025/12/07

2025:10./ 317p

978-4-16-392031-3

¥1,760〔税込〕



9 78 4163 920313



デンマークの建築～サステナブルで快樂的なデザインで社会を導く～

蒔田 智則／森田 美紀／金田 泰裕／岡村 彩／宇田川 裕喜／山下 朋文 著

学芸出版社

ごみ処理施設にスキスロープを載せ、施設の悪いイメージを覆し…。遊び心にあふれ、街をポジティブに変える「サステナビリティ」というアイデアを取り込んだ、デンマークの建築プロジェクトを紹介する。

産経新聞 2025/12/07

2025:10./ 254p

978-4-7615-2952-9

¥2,970〔税込〕



9 78 4761 529529

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2025 年 12 月時点での税込み価格です。



現代ロシアの歴史認識論争～「大祖国戦争史観」をめぐるプーチン政権の思惑～

西山 美久 著

慶應義塾大学出版会

プーチン政権はいかにして「大祖国戦争史観」の正当化・宣伝を図っているのか。そしてそれは、ロシア・ウクライナ戦争にどう結びついているのか。膨大な資料をひも解き、その実態・ダイナミズムを明らかにする。

産経新聞 2025/12/07

2025:10./ 416p
978-4-7664-3048-6
¥3,960〔税込〕



妖精の女王～韻文訳～<上> 新装版

九州大学出版会

詩人エドモンド・スペンサーによってエリザベス 1 世に捧げられた長編叙事詩を、原文が持つ韻律の響きまで忠実に反映させ、格調高い七五調で翻訳。上には「ローリーへの手紙」および第 1 巻～第 3 巻を収録する。

産経新聞 2025/12/07

2025:10./ 408p
978-4-7985-0392-9
¥4,620〔税込〕



妖精の女王～韻文訳～<下> 新装版

九州大学出版会

詩人エドモンド・スペンサーによってエリザベス 1 世に捧げられた長編叙事詩を、原文が持つ韻律の響きまで忠実に反映させ、格調高い七五調で翻訳。下には第 4 巻～第 7 巻に加え、解説と年譜、登場人物索引を収録する。

産経新聞 2025/12/07

2025:10./ 434p
978-4-7985-0393-6
¥4,620〔税込〕



戦争の美術史(岩波新書 新赤版 2090)

宮下 規久朗 著

岩波書店

戦争に対峙した芸術家は、その体験をいかに作品に投影したのか。戦争に関する古今東西の絵画や彫刻、記念碑、写真や映画を、おおむね時代順に振り返り、美術と戦争との関係について考察する。カラー図版も約 150 点収録。

産経新聞 2025/12/07、朝日新聞 2025/12/13

2025:11./ 286p
978-4-00-432090-6
¥1,496〔税込〕



武家女人記

砂原浩太郎 著

集英社

娘として、母として、妻として、そしてひとりの女性として-。江戸時代、さまざまな身の上を生きる武家の女人たちをあざやかな筆致で描く時代小説集。「ぬばたま」など全 7 編を収録。『小説すばる』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/12/14

2025:12./ 253p
978-4-08-770017-6
¥1,980〔税込〕





福音派～終末論に引き裂かれるアメリカ社会～(中公新書 2873)

加藤 喜之 著
中央公論新社

独特の終末論的な世界観を持つアメリカの福音派は、いつから勢力を拡大し、政治的・文化的闘争に関与していったのか。アメリカの人種差別や中絶・同性婚問題、イスラエルとの関係などに福音派がいかに関わったのかを描く。

産経新聞 2025/12/14

2025:9./ 312p
978-4-12-102873-0
¥1,320〔税込〕



世界はハラスメントでできている～辛酸なめ子の「大人の処世術」～(光文社新書 1384)

辛酸 なめ子 著
光文社

「前髪切った?」もハラスメントに。もう何も話せません-。新型ハラスメントから、日本人の炎上癖、謎マナーまで、「令和の違和感」を生き延びるための処世エッセイ 22 本を収録。光文社新書 note 連載を再編集。

産経新聞 2025/12/14

2025:10./ 293p
978-4-334-10796-3
¥1,100〔税込〕



ハロー、マイ・ユーミン～荒井由実&松任谷由実&呉田軽穂歌詞集～

松任谷由実 著
ポプラ社

デビューから 53 年、ユーミンのすべてが 1 冊に! 「ひこうき雲」から提供曲まで、本人監修のもと全楽曲を再校正し、1 ページに 1 曲掲載した歌詞集。直筆歌詞&創作秘話も収録。愛蔵版も同時刊行。

産経新聞 2025/12/14

2025:11./ 659p
978-4-591-18743-2
¥4,180〔税込〕



ハロー、マイ・ユーミン～荒井由実&松任谷由実&呉田軽穂歌詞集～ 愛蔵版

松任谷由実 著
ポプラ社

デビューから 53 年、ユーミンのすべてが 1 冊に! 「ひこうき雲」から提供曲まで、本人監修のもと全楽曲を再校正し、1 ページに 1 曲掲載した歌詞集。直筆歌詞&創作秘話も収録。スペシャルブック付き。通常版も同時刊行。

産経新聞 2025/12/14

2025:11./ 659p
978-4-591-18744-9
¥11,880〔税込〕



土木～100 年後の日本を支える「人の力」～

山崎エリナ、土木学会 著
土木学会

橋梁点検、ダム建設、道路工事、川の清掃活動…。土木の世界に魅せられた写真家・山崎エリナによるフォトエッセイ。2023～2024 年に『土木学会誌』に掲載された表紙写真とエッセイを元に再構成。

産経新聞 2025/12/14

2025:11./ 101p
978-4-8106-1143-4
¥3,630〔税込〕





偽善医療(産経セレクト S-040)

藤井聡／木村盛世 著

産経新聞出版

医療関係者達のビジネスのために過剰なものとなっている、今日の医療。医師会の金儲け主義と薄利多売の構造、20人くらいのデータで政策決定…。「医療費の暴走」を生む巨悪の構造を明らかにする。

産経新聞 2025/12/14

2025:9./ 208p
978-4-8191-1461-5

¥1,100〔税込〕



ロココ・キッチン

川内有緒 著

講談社

みんな、なに食べて、どう生きてるんだろ？福島第一原発事故から14年、国道6号線(ロココ)を旅し、温かくておいしい記憶を綴る。再生と希望に出会うノンフィクション。『群像』連載を加筆修正し書籍化。

産経新聞 2025/12/14、東京・中日新聞 2025/12/21

2025:11./ 299p
978-4-06-540954-1

¥2,090〔税込〕



どうで死ぬ身の一躍り(角川文庫 に18-6)

西村 賢太 著

KADOKAWA

悲運の最期に散った大正期の私小説家・藤澤清造。その作品と人物像に魅かれ、すがりつく男の現世における魂の彷徨は、惨めながらも強靱な捨て身の意志を伴うものであった…。表題作ほか「墓前生活」「一夜」の全3篇を収録。

朝日新聞 2025/12/06

2019:3./ 256p
978-4-04-107647-7

¥880〔税込〕



槐と優(怪と幽 COMICS)

諸星 大二郎 著

KADOKAWA

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 214p
978-4-04-112909-8

¥1,870〔税込〕



朱鷺の墓<上>(角川文庫)

五木 寛之 著

角川書店

朝日新聞 2025/12/06

2010:8./ 506p



朱鷺の墓<下>(角川文庫)

五木 寛之 著

角川書店

朝日新聞 2025/12/06

2010:8./ 446p





ハックルベリ・フィンの冒険(角川文庫)

マーク・トウェイン、角川書店装丁室 著

角川書店

自由と開放の地を求め、相棒の黒人ジムとミシシッピ川を下る筏の旅に出るハックルベリ。様々な人種や身分の人々との触れ合いを通して、人間として本当に大切なものの、かけがえのない真実を見出してゆく。

朝日新聞 2025/12/06

2004:8./ 652p
978-4-04-214206-5

¥836〔税込〕



ユーージニア(角川文庫)

恩田 陸、祖父江 慎 著

角川書店

あの夏、白い百日紅の記憶。死の使いは、静かに街を滅ぼした。旧家で起きた、大量毒殺事件。未解決となったあの事件、真相はいったいどこにあったのだろうか。数々の証言で浮かび上がる、犯人の像はー。

朝日新聞 2025/12/06

2008:8./ 420p
978-4-04-371002-7

¥836〔税込〕



「あの戦争」は何だったのか(講談社現代新書 2780)

辻田 真佐憲 著

講談社

日本はどこで「間違えた」のか。そもそもいつ始まったのか。掲げた理想はすべて誤りだったのか。「大東亜」は日本をどう見ていたか。日本の近現代史の素朴な「なぜ」に答え、「あの戦争」を問い直す。

朝日新聞 2025/12/06

2025:7./ 286p
978-4-06-540499-7

¥1,155〔税込〕



定本 中世倭人伝(講談社学術文庫 2894)

村井 章介 著

講談社

苛烈な略奪をくりかえし諸国を悩ませた前期倭寇と、銀をめぐる密貿易で世界史に躍り出た後期倭寇。彼らは「倭服」を着て「倭語」を操る、民族を超えた集団だった。中世東アジアの海で躍動した多民族集団、倭人の世界を描く。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 337p
978-4-06-541390-6

¥1,650〔税込〕



うまれたての星

大島真寿美 著

集英社

1969年、人類が月面着陸した年。出版社に就職した牧子は、漫画雑誌の編集部配属され…。女の子が女の子のために物語を描き始めた“あの頃”を、あますところなく描き出す。『小説すばる』掲載を加筆・修正。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 637p
978-4-08-770016-9

¥2,750〔税込〕





ゼロの焦点 改版(新潮文庫)

松本 清張 著

新潮社

朝日新聞 2025/12/06

2008:12./ 481p
978-4-10-110916-9

¥935〔税込〕



夜明け前に会いたい(文春文庫 ゆ 8-5)

唯川 恵 著

文藝春秋

金沢で生まれ育ち、もと芸者の母と2人暮らしの希和子。友禅作家との恋が始まったかに思えた東京出張の夜、思いがけない事実打ちのめされ、最終の新幹線に飛び乗り…。純粋な恋がもたらす喜びと哀しみ、親子の情愛を描く。

朝日新聞 2025/12/06

2015:6./ 276p
978-4-16-790381-7

¥671〔税込〕



右近純情(文春文庫 真田武士心得 い 114-1 1)

井原 忠政 著

文藝春秋

叔父の裏切りで全てを失った鈴木右近は、両親の無念を晴らすための復讐を心に誓う。孤児となった彼を拾い、その成長を温かく見守る主君・真田信幸夫妻。主への忠義と仇討の狭間で、己の信義を貫くため、野太刀を振るう。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 275p
978-4-16-792406-5

¥803〔税込〕



友達だった人～絹田みや作品集～(熱帯 COMICS)

絹田 みや 著

光文社

朝日新聞 2025/12/06

2025:11./ 190p
978-4-334-10818-2

¥880〔税込〕



廃線だけ～昭和の棄景～

丸田 祥三 著

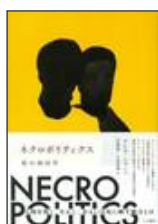
実業之日本社

廃線写真のパイオニアにして唯一無二の存在であり続ける写真家・丸田祥三が、幼き頃から昭和末期にかけて撮り続けてきた、幻のような、しかし、確実にそこにあった「昭和の棄景」136点を収録する。本体は背表紙なし糸綴じ。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 164p
978-4-408-33854-5

¥3,850〔税込〕



ネクロポリティクス～死の政治学～

アシル・ンベンベ、岩崎 稔、小田原 琳 著

人文書院

人間性を蝕み剥奪するこの世界において、共同体を考え直すことは可能か。ファノンの精神医学的な分析をもとに、フーコーの生政治の概念を発展させ、政治から民主主義がどう退出し、憎しみの社会へと変質しているのかを論じる。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 337p
978-4-409-04129-1

¥4,950〔税込〕





飼い犬に腹を噛まれる

彬子女王 著

P H P 研究所

私は自他共に認める事件体質である。ささいなことから、めまいがするような大事件まで、日常的にいろいろ起こる。彬子女王殿下のエッセイ集。ほしよりことのスペシャル対談も収録。『京都新聞』連載他を加筆・補整。

朝日新聞 2025/12/06

2025:9./ 237p
978-4-569-85993-4

¥1,485〔税込〕



恋文の技術 新版(ポプラ文庫 も 3-2)

森見 登美彦 著

ポプラ社

大学から遠く離れた実験所に飛ばされた男子大学院生が、無聊を慰めるべく、文通武者修行と称してかつての仲間たちに手紙を書きまくる。手紙のうえで友人の恋の相談に乗り、妹に説教を垂れ…。ほろにが可らしい書簡体小説。

朝日新聞 2025/12/06

2024:11./ 334p
978-4-591-18382-3

¥869〔税込〕



贈り物の本

牟田都子／青木奈々 著

亜紀書房

人と人をつなぎ、心に消えない灯りをともしもの。読むと、大切な誰かの思い出がよみがえる。「贈り物」をテーマに、作家・ミュージシャン・俳優・漫画家など 37 人が、忘れられない記憶を綴った書き下ろしエッセイ集。

朝日新聞 2025/12/06

2025:12./ 154p
978-4-7505-1899-2

¥2,200〔税込〕



かんじ〜こびとがつくるもじとことば〜

すずき てつお 著

アリス館

書き物をしていた先生が眠ったすきに、こびとたちが文字作りをはじめました。まずは「木」「水」などの簡単な漢字から。難しい漢字も、組み合わせれば作れます。できた漢字を積み上げて文章にしたら…。

朝日新聞 2025/12/06

2025:12./ 39p
978-4-7520-1162-0

¥1,870〔税込〕



志記<1> 遠い夜明け(ハルキ文庫 時代小説文庫 た 19-33)

高田 郁 著

角川春樹事務所

文化元(1804)年、黒兼藩で代々藩医を務める家系に生まれた蔵源美津と、備前刀を手掛ける刀鍛冶の一族に生まれた高越暁。医学と鍛刀という女には困難とされる道を選んだふたりの人生が、19の初夏、江戸で交錯し…。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 311p
978-4-7584-4752-2

¥792〔税込〕





<永遠のミサ>西洋中世の死と奉仕の会計学

印出 忠夫 著

教育評論社

中世ヨーロッパ社会において、キリスト教と財産や富の関わりはいかなるものであったのか。信徒たちから募った金銭や祈り、善行という「預金」を社会に適切に振り分ける「銀行」としての教会を視座に、その関係性を再考する。

朝日新聞 2025/12/06

2025:10./ 272p
978-4-86624-123-4

¥3,850〔税込〕



ゆっくり歩く(シリーズケアをひらく)

小川公代 著

医学書院

ウルフ、ギリガン、芥川、ハン・ガン、日蓮、カフカ…。文学を通じて縦横無尽に「ケア」を語ってきた著者が、パーキンソン病と診断された母に導かれて到達した新ケア論を綴る。

朝日新聞 2025/12/06、毎日新聞 2025/12/06、読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 287p
978-4-260-06283-1

¥2,200〔税込〕



伊藤熊太郎〜海を渡った天才博物画家〜

福地 毅彦 著

山と溪谷社

海洋調査船に絵師として乗船した伊藤熊太郎は、その後米国に渡り、米国水産局で魚類の博物画を描き続けた。熊太郎が遺した「魚譜」について考察し、経歴に空白が多い熊太郎の謎に迫る。「魚譜」収録の絵 31 枚をすべて掲載。

朝日新聞 2025/12/06、毎日新聞 2025/12/20

2025:9./ 246p
978-4-635-06369-2

¥2,970〔税込〕



敗北を抱きしめて〜第二次大戦後の日本人〜<上> 増補版

ジョン・ダワー 著

岩波書店

敗戦の惨状の中を歩み始めた民衆は、「平和と民主主義」への願いを抱きしめて、上からの革命に力強く呼応した。奇蹟的な「敗北の物語」を描いた二十世紀の叙事詩。ピューリッツァー賞受賞作品。2001 年刊の増補版。

朝日新聞 2025/12/13

2003:11./ 412p
978-4-00-024420-6

¥3,300〔税込〕



敗北を抱きしめて〜第二次大戦後の日本人〜<下> 増補版

ジョン・ダワー 著

岩波書店

天皇制を抱擁し、憲法を骨抜きにし、戦後改革の巻き戻しに道をつけて、占領軍は去った。日米合作の「戦後」がここに始まる。ピューリッツァー賞受賞作。大量の図版を追加した、2001 年刊の増補版。

朝日新聞 2025/12/13

2003:11./ 476p
978-4-00-024421-3

¥3,520〔税込〕





アメリカにおけるリベラルな伝統(岩波文庫 白 38-1)

ルイ・ハーツ 著

岩波書店

<リベラルな国>として出発したアメリカ。自立的な個人と財産権とを核心に持つロッキンのリベラリズムが、絶対的なイデオロギーとして君臨したありさまを、建国期からの歴史に探る。アメリカ理解に欠かせない古典的名著の新訳。

朝日新聞 2025/12/13

2025:10./ 510p
978-4-00-340381-5

¥1,650〔税込〕



オーロラが見られなくても

近藤史恵 著

KADOKAWA

美しい街を歩いて、未知の料理と出会い、自分のためだけに時間を過ごす旅。人生に疲れた5人に、心地よい風が吹く-。おいしくて幸せな旅の短編集。『小説野性時代』他掲載に書き下ろしを加え単行本化。

朝日新聞 2025/12/13

2025:11./ 205p
978-4-04-116320-7

¥1,870〔税込〕



何でも見てやろう(講談社文庫)

小田 実 著

講談社

留学生時代の著者が、笑顔とバイタリティーで欧米・アジア 22ヶ国を貧乏旅行して、先進国の病根から後進国の凄惨な貧困まで、ハラにこたえた現実を、見たまま感じたままに書いたベスト&ロングセラーの快著。

朝日新聞 2025/12/13

1979:7./ 458p
978-4-06-131583-9

¥924〔税込〕



戦争みたいな味がする

グレイス・M・チョー、石山 徳子 著

集英社

在韓米軍基地周辺で働いていた母親は、アメリカ人男性との結婚を機に渡米し、新生活を切り拓いていくが...。戦争、移民、家族と食。母娘の記憶から現代社会の論点を浮き彫りにする、コリア系アメリカ人社会学者による回想録。

朝日新聞 2025/12/13

2025:7./ 437p
978-4-08-789021-1

¥3,080〔税込〕



研修生

多和田 葉子 著

中央公論新社

日本を飛び出しドイツの書籍取次会社で研修生になった「わたし」。新生活の戸惑いのなか重ねるのは、多様なひとたちとの身近な交流。やがてゆるやかに、未来への糸口が見えてきて-。『読売新聞』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/12/13

2025:10./ 508p
978-4-12-005960-5

¥2,970〔税込〕





戦後史 1945-2025～敗戦からコロナ後まで～(中公新書 2881)

安岡 健一 著

中央公論新社

アジア・太平洋戦争による壊滅から経済大国化したものの、「失われた 30 年」で低迷する日本。東アジアとの関係、都市と農村、家族とジェンダーに着目しながら、戦後日本の軌跡を描く。日本国憲法などの資料も収録。

2025:11./ 408p
978-4-12-102881-5

¥1,430〔税込〕



朝日新聞 2025/12/13



痛いところから見えるもの

頭木 弘樹 著

文藝春秋

なぜ痛みは人に伝わりづらいのか？潰瘍性大腸炎から腸閉塞まで、絶望的な痛みとともに生きていた著者が、同じ体験していない人にも共感してもらえるよう、「痛み」という個人的な体験を文学作品を多用しながら語る。

2025:9./ 318p
978-4-16-392017-7

¥1,870〔税込〕



朝日新聞 2025/12/13



肉は美し

アグスティナ・バステリカ 著

河出書房新社

かつてない食糧危機のため、人肉食が合法化された近未来の世界。食肉処理工場の重役マルコス、家庭飼育用のメスをなりゆきで譲り受けるが、非合法となる「人間扱い」をはじめてしまい…。ディストピアホラーSF。

2025:10./ 237p
978-4-309-20935-7

¥2,750〔税込〕



朝日新聞 2025/12/13



非色(河出文庫 あ 35-1)

有吉 佐和子 著

河出書房新社

終戦直後黒人兵と結婚し、幼い子を連れニューヨークに渡った笑子だが、待っていたのは貧民街ハレムでの半地下生活だった。人種差別と偏見にあいながらも、「差別とは何か?」を問い続け、逞しく生き方を模索し…。

2020:11./ 420p
978-4-309-41781-3

¥990〔税込〕



朝日新聞 2025/12/13



近現代アイヌ文学史論～アイヌ民族による日本語文学の軌跡～<現代編>

須田茂 著

寿郎社

戦後から今日までのアイヌ民族による文学・言論活動の歴史を述べる。文芸誌『コブタン』連載「近現代アイヌ文学史稿」の現代編に相当する論考と『逍遙通信』に掲載した論考をまとめる。

2025:9./ 559p
978-4-909281-68-5

¥3,190〔税込〕



朝日新聞 2025/12/13



デラシネの花～ネクラでひきこもりの少年が、なぜ「聞き書き作家」になったか～<上>

小田 豊二 著
木星舎

満州から引き揚げてきた孤独な少年の教師はラジオだった。後年、演芸に造詣が深い名インタビュアー、聞き書き作家、文筆家となった著者が、大学時代の南米放浪、記者時代の篠山紀信との過激な取材など、青春の軌跡を描く。

朝日新聞 2025/12/13

2025:8./ 218p
978-4-909317-49-0

¥1,980〔税込〕



デラシネの花～ネクラで孤独な少年が、なぜ「聞き書き作家」になったか～<下>

小田 豊二 著
木星舎

落語家、歌舞伎役者、小説家、俳優、編集者…。人間国宝から市井の人まで数々の出会いが、戦後 80 年を駆け抜けた著者の人生を彩る。他者の人生に触れる「聞き書き作家」になるまでの半生と、名手たちの名言等を紹介する。

朝日新聞 2025/12/13

2025:10./ 218p
978-4-909317-50-6

¥1,980〔税込〕



ウクライナの形成～革命期ロシアの民族と自治～

村田 優樹 著
東京大学出版会

ウクライナ民族運動と、リベラルを中心とするロシアの解放運動の交差を軸にして、領域政治単位としての「ウクライナ」が構想され、議論され、実現するまでの歴史をたどる。

朝日新聞 2025/12/13、毎日新聞 2025/12/20、朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 328p
978-4-13-021088-1

¥3,960〔税込〕



物語の近代～王朝から帝国へ～

兵藤 裕己 著
岩波書店

ものがたりの言語空間は「近代」とどのように出会ったのか。中世から近世・近代にいたる物語の後景にある「もの」を前景化し、近代を形成した「物語」、近代の「物語」にあらがう「もの」のゆくえについて論じる。

朝日新聞 2025/12/20

2020:11./ 332p
978-4-00-025326-0

¥3,080〔税込〕





小泉八雲東大講義録～日本文学の未来のために～(角川ソフィア文庫 C102-5)

池田 雅之 編

ラフカディオ・ハーン 著

KADOKAWA

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が生き生きと、懇切丁寧に、文学の価値と面白さを説く。西洋が遠い存在だった明治期、将来、日本の学問や文学を背負って立つ学生たちに深い感銘を与えた、最終講義を含む名講義 16 篇。

朝日新聞 2025/12/20

2019:8./ 395p
978-4-04-400486-6

¥1,188〔税込〕



やりなおし世界文学(新潮文庫 つ-34-4)

津村記久子 著

新潮社

「ボヴァリー夫人」は前代未聞のだめな女? 「ねじの回転」は家具を組み立てる人の話? 古今東西の 92 作を取り上げ、物語の味わいをふだん使いの言葉で綴る、軽やかで愉快的世界文学案内。

朝日新聞 2025/12/20

2025:11./ 487p
978-4-10-120144-3

¥935〔税込〕



失われた貌

櫻田 智也 著

新潮社

山奥で、顔を潰され、歯を抜かれ、手首から先を切り落とされた死体が発見された。事件報道後、警察署に小学生が訪れ、死体は「自分のお父さんかもしれない」と言う。彼の父親は 10 年前に失踪し、失踪宣告を受けていた…。

朝日新聞 2025/12/20

2025:8./ 297p
978-4-10-356411-9

¥1,980〔税込〕



反骨魂～後藤亘「ミスターFM」と呼ばれた男～

延江 浩 著

文藝春秋

日本の FM 放送の誕生に尽力し、FM 東京でラジオの黄金時代を牽引した後、経営破綻の危機にあった TOKYO MX を見事に蘇らせた後藤亘。どんな逆境をも好機と捉える、大胆で柔らかな経営術に迫る評伝。

朝日新聞 2025/12/20

2025:10./ 252p
978-4-16-392033-7

¥1,760〔税込〕



ボヴァリー夫人(光文社古典新訳文庫 KA フ 10-4)

フローベール 著

光文社

田舎町の医者シャルルとの退屈な結婚生活にエマは倦んでいた。理想と現実とのギャップ、満たされない心…。彼女はやがて夫の目を盗んで情事を重ね、散財をくり返し、膨大な借金を抱えて…。近代フランス文学の傑作を新訳。

朝日新聞 2025/12/20

2025:11./ 731p
978-4-334-10843-4

¥1,870〔税込〕





松本清張と水上勉(筑摩選書 0313)

藤井 淑禎 著

筑摩書房

ともに社会派ミステリ作家として出発した松本清張と水上勉に共通点が多いのはなぜか。修業時代から最晩年まで、好一対であった昭和の2大作家の歩みとその名作を読み解く。

朝日新聞 2025/12/20

2025:9./ 224p
978-4-480-01831-1

¥1,870〔税込〕



蒋介石〜「中華の復興」を実現した男〜(ちくま新書 1873)

家近 亮子 著

筑摩書房

半植民地化されていた近代中国の国際的地位を飛躍的に押し上げたが、毛沢東と対立し、中華人民共和国では長く「人民の公敵」とされてきた蒋介石。親日家として戦後日本の運命を変えた蒋介石の素顔を描く。年表も収録。

朝日新聞 2025/12/20

2025:8./ 512p
978-4-480-07701-1

¥1,540〔税込〕



遊びの詩(ちくま文庫 た2-7)

谷川 俊太郎 編

筑摩書房

ひとさじのおかしみを溶かしこんだ悪口のうた、酩酊状態の言葉たちが踊るナンセンス詩...。国民的詩人・谷川俊太郎が撰んだ、北原白秋、工藤直子、筒井康隆らによる遊びごころはじける45篇のアンソロジー詩集。

朝日新聞 2025/12/20

2025:11./ 161p
978-4-480-44065-5

¥880〔税込〕



革命を鎮圧せよ〜アメリカが市民に仕掛けた戦争〜(サピエンティア 78)

バーナード・E. ハーコート 著

法政大学出版局

国内でいかなる反乱もないにもかかわらず、植民地の対反乱戦をモデルに自国市民を統治する新しいパラダイム<反革命>。9・11後アメリカに生まれた<反革命>の歴史的な系譜をたどり、その統治の論理を明らかにする。

朝日新聞 2025/12/20

2025:9./ 352p
978-4-588-60378-5

¥4,620〔税込〕



中島梓と「やおい」の時代〜「1968年」の「革命」を視座として〜(未発選書 第33巻)

金子 亜由美 著

ひつじ書房

「革命」は、資本主義によって「実現」され、「やおい・BL」は、今やひとつの文化となったが...。「1968年」の歴史と「やおい・BL」の歴史を接続する。同人誌『G-W-G(minus)』掲載に加筆修正。

朝日新聞 2025/12/20

2025:10./ 368p
978-4-8234-1310-0

¥3,740〔税込〕





ラフカディオ・ハーンの耳、語る女たち～声のざわめき～

西 成彦 著

洛北出版

近代日本が切り捨てた口承文芸の調べ、民衆の暮らしの音、小泉セツの怪談語り、ハーンの耳を圧倒し…。聲の旅人、ハーン(小泉八雲)の作品と生涯をたどる。図版・写真も豊富に収録。

朝日新聞 2025/12/20

2024:9./ 395p
978-4-903127-35-4

¥2,970〔税込〕



ウロボロスの環

小池真理子 著

集英社

前の夫を若くして亡くし、必死で幼い娘を育ててきた彩和。俊輔との再婚は、人生の安泰が約束された幸福な瞬間だった。だが夫には秘密が…。廻り続ける「生」への不安を克明に描いた長編小説。『小説すばる』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/12/20、朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 570p
978-4-08-770021-3

¥2,750〔税込〕



植物哲学～自然と人のよりよい付き合い方～(講談社選書メチエ 830)

川原 伸晃 著

講談社

人為なき自然は人を癒さない、人は植物に対してもっと「不真面目」でいい。「哲学する園芸家」が、その特異な経験から紡ぎ出す、「自然とよりよく生きる」ための言葉と実践。

朝日新聞 2025/12/20、日本経済新聞 2025/12/20

2025:10./ 244p
978-4-06-541284-8

¥2,090〔税込〕



細長い場所

絲山秋子 著

河出書房新社

個であることをやめるとき。名前も記憶も肉体も失って、気配や残像となったわたしたちの心は、最後に誰と、どんな場所を訪れるのか。切なくも美しい旅の物語。『文藝』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/12/26

2025:11./ 182p
978-4-309-03244-3

¥2,200〔税込〕



一人娘

グアダルーペ・ネットテル 著

現代書館

20代のころ、「子どもは産まない」と誓い合ったラウラとアリナ。ラウラはその意志を貫くが、アリナは結婚し、子どもを身ごもる。やがてアリナにイネスという子が生まれるが、イネスには重度の障害があって…。

朝日新聞 2025/12/26

2025:11./ 270p
978-4-7684-5983-6

¥3,080〔税込〕





やねの上のカールソン(リンドグレン・コレクション)

アストリッド・リンドグレン／イロン・ヴィークランド 著

岩波書店

スウェーデンのストックホルムに住んでいる、やさしい男の子リッレブロールと、自信たっぷりで、くいしんぼうの空飛ぶおじさんカールソンの、はちゃめチャドキドキ、ゆかいなお話。

朝日新聞 2025/12/27

2025:12./ 213p
978-4-00-115741-3

¥2,200〔税込〕



シオニズム〜イスラエルと現代世界〜(岩波新書 新赤版 2087)

鶴見 太郎 著

岩波書店

パレスチナにユダヤ人の民族的拠点をつくるという思想・運動である「シオニズム」。ホロコースト以前に東欧で生まれ、建国後はイスラエルを駆動し続ける思想の起源と変遷を、国際社会との関わりの中で描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 302p
978-4-00-432087-6

¥1,232〔税込〕



ちきゅうちょうさだん

大串 ゆうじ 著

偕成社

はるか遠くの星「ピスタチオ星」から調査団がやってきた。彼らの任務は、地球にある物をできるだけたくさん集めること。チャンスは10回。彼らはある条件を決めて、物を集めはじめ…。書き込み欄あり。

朝日新聞 2025/12/27

2025:12./ 32p
978-4-03-352230-2

¥1,760〔税込〕



海風クラブ

呉 明益 著

KADOKAWA

タロコ族の少年と、人買いから逃げる漢人の少女が、山の洞穴(実は巨人の身体)の中で出会う。時が経ち、陽光と涼風に恵まれた小さな集落に、巨大なセメント工場が建設されることになり…。壮大で不思議な物語。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 478p
978-4-04-114688-0

¥3,080〔税込〕



刻印〜満蒙開拓団、黒川村の女性たち〜

松原 文枝 著

KADOKAWA

岐阜県黒川村の満蒙開拓団は、終戦直後、村の女性たちを敵のソ連軍に差し出し、性暴力にさらした。なぜ女性たちが被害を訴えながらも「なかったこと」にされてきたのか。事実が史実として刻印され、尊厳を回復するまでを追う。

朝日新聞 2025/12/27

2025:8./ 229p
978-4-04-116313-9

¥1,870〔税込〕





養生する言葉

岩川 ありさ 著

講談社

大江健三郎、ハン・ガン、津村記久子、文月悠光、「ブルーロック」「君と宇宙を歩くために」…。文学研究者が会った、人生に寄り添ってくれる「言葉」と「物語」。『群像』連載に加筆修正。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 250p
978-4-06-538445-9

¥1,760〔税込〕



科学的思考入門(講談社現代新書 2765)

植原 亮 著

講談社

有害な情報から身を守り、無意識のバイアスを避けるには。情報過剰社会を生きるうえで必須の「免疫」-日常・仕事で威力を発揮する「科学的思考」を、豊富な例や問題でわかりやすく解説する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 326p
978-4-06-538771-9

¥1,210〔税込〕



怖い話名著 88～乱歩、キングからモキュメンタリーまで～

朝宮 運河 著

講談社

令和の日本のホラーブームをきっかけに、新たにホラー小説に興味を抱いた人たちに向けて、「これぞ名著」という作品を国内・海外織り交ぜて 88 冊紹介する。澤村伊智、背筋との対談も収録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:8./ 223p
978-4-06-540379-2

¥1,540〔税込〕



昏い時代の読書～宮嶋資夫から野坂昭如へ～(講談社選書メチエ 828)

道旗 泰三 著

講談社

ルールも理性も足元から崩れていく世界の片隅で、それでも、ものを書き、読むことの意味とは？ 宮嶋資夫、太宰治、坂口安吾、桐山襲、野坂昭如。救いを求めて挫折した 5 人の作家の軌跡を描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:8./ 266p
978-4-06-540667-0

¥2,420〔税込〕



言語化するための小説思考

小川 哲 著

講談社

「伝える」ではない、「伝わる」言葉や文章を生み出すために、小説家はいつも何を考えているのか。直木賞作家・小川哲が、自分の脳内にあるものを言語化する方法を解説する。『群像』連載を書籍化。小説「エデンの東」も収録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 189p
978-4-06-541043-1

¥1,210〔税込〕





匂いに呼ばれて

関口涼子 著

講談社

香りは過去をよみがえらせる。良い思い出も、そうでないものも。すべての香りに物語がある。時代も距離も超えて、美しく哀しい記憶の旅へといざなうショートストーリーズ。著者自身による、フランス語版の邦訳。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 251p
978-4-06-541217-6

¥2,200〔税込〕



はじめての日本国債(集英社新書 1248)

服部 孝洋 著

集英社

国債の仕組みがわかれば、日本経済で起こっている変化も理解できる。日本における国債の仕組みを入り口に、債券や証券、日銀の市場操作等の金融政策、銀行や生命保険の運用などを解説する。日本経済の見方が身につく入門書。

朝日新聞 2025/12/27

2025:1./ 270p
978-4-08-721348-5

¥1,100〔税込〕



百日と無限の夜

谷崎 由依 著

集英社

切迫早産で入院中の「わたし」のもとを訪れた一人の女。彼女は能「隅田川」に登場する女物狂いだった。彼女を案内人に、「わたし」と“班女”の時空を超えた道行きは続き…。出産幻想文学。『すばる』掲載を加筆修正し書籍化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 297p
978-4-08-770010-7

¥2,420〔税込〕



探偵小石は恋しない

森 バジル 著

小学館

ミステリオタクの探偵・小石は、名探偵のように華麗に事件を解決する日を夢見ているが、事務所へ届け依頼は9割9分が色恋調査。ところが事件は、思いもよらないところで発生して…。『STORY BOX』連載を改題改稿。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 325p
978-4-09-386763-4

¥1,870〔税込〕



秘儀<上巻>(新潮文庫 エ-9-1)

マリアーナ・エンリケス 著

新潮社

<闇>の力を借りアルゼンチンの政財界の裏側で暗躍する<教団>と、それを司るブラッドフォード家。生贄を捧げる儀式で<闇>を呼びだす霊媒として利用され続けてきたファンは、息子ガスパルも同じ力を有することに気づき…。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 586p
978-4-10-241061-5

¥1,265〔税込〕





秘儀<下巻>(新潮文庫 エ-9-2)

マリアーナ・エンリケス 著

新潮社

<教団>創立家に生まれながら一族の残虐さに反発し、不審死を遂げた母ロサリオ、霊媒行為が心臓疾患を悪化させ死を迎えた父ファン。両親を失ったガスパルは、避け続けてきた教団と相まみえることを決意し…。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 590p
978-4-10-241062-2

¥1,265〔税込〕



独占告白渡辺恒雄<平成編> 日本への遺言

安井浩一郎 著

新潮社

読売新聞の主筆を40年にわたって務めた、戦後政治最後の証言者・渡辺恒雄。政界再編の舞台裏、憲法改正、「たかが選手」発言…。インタビューや関係者の証言を交え、平成期の渡辺恒雄を描く。NHKスペシャル番組を書籍化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 315p
978-4-10-354882-9

¥2,090〔税込〕



家守綺譚<上>

近藤 ようこ／梨木 香歩 著

新潮社

時は明治時代、亡友の家の「家守」として暮らすことになった綿貫征四郎。彼を待っていたのは、草木の繁る庭、河童や人魚がやってくる池で…。梨木香歩の名作「家守綺譚」を漫画で描く。『波』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 261p
978-4-10-356471-3

¥1,870〔税込〕



家守綺譚<下>

近藤 ようこ／梨木 香歩 著

新潮社

亡友の家の「家守」として暮らすことになった文筆家の綿貫征四郎。季節はめぐり、冬から春に。そして綿貫は、亡友の物語を書こうとする。梨木香歩の名作「家守綺譚」を漫画で描く。『波』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 243p
978-4-10-356472-0

¥1,815〔税込〕



日本政治思想史(新潮選書)

原 武史 著

新潮社

天皇が今なお権力の主体であるのはなぜか。儒学・国学・超国家主義など従来の思想史に「空間」と「時間」という補助線を取り入れ、江戸時代から現代にいたる「政治の根本」、日本固有の政治思想の本質を明らかにする。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 336p
978-4-10-603929-4

¥2,035〔税込〕





女性戦士の歴史

サラ・パーシー 著

中央公論新社

圧政からの解放、独立、革命のために立ちあがった女性戦士たち。伝説の英雄から無名兵士まで、その闘いと数奇な運命をたどり、時代の波に翻弄された戦闘方法と処遇の変容を描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:6./ 477p
978-4-12-005921-6

¥4,730〔税込〕



大日本いじめ帝国〜戦場・学校・銃後にはびこる暴力〜

荻上チキ／栗原俊雄 著

中央公論新社

戦時下、いじめは大量生産されていた。兵士、子ども、銃後の人々は、いかなる差別・暴力に晒されたのか。自殺率世界一の日本軍、牢獄のごとき学童疎開…。証言者たちの実体験と時代背景を整理し、陰惨さの実相に迫る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 215p
978-4-12-005928-5

¥1,870〔税込〕



遺伝子は不滅である

リチャード・ドーキンス 著

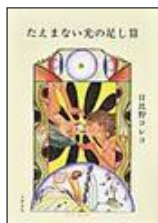
早川書房

樹皮やコケそっくりに擬態するトカゲ、陸から海へ戻ったクジラ、超音波を使うイルカとコウモリの意外な共通点…。驚異に満ちた進化の物語の数々を、美しいカラーイラストとともに紹介。「遺伝子視点」で生命史全体を俯瞰する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 383p
978-4-15-210444-1

¥4,950〔税込〕



たえない光の足し算

日比野 コレコ 著

文藝春秋

美容外科のポスターに啓示を受け花を食べる“異食の道化師”菌、「みんなのひと」になりたい“抱擁師”ハグ、デビューしたばかりの“プロの軟派師”弘愛。若者たちの生を、鮮烈な文章で描く。『文学界』掲載を単行本化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 158p
978-4-16-392013-9

¥1,980〔税込〕



コメ危機の深層(日経プレミアシリーズ 535)

西川邦夫 著

日経B P社

国民に大きな影響を及ぼした令和のコメ騒動。コメはなぜ不足したのか？ 輸入米はどうなるのか？ 流通に問題はあるのか？ 気鋭の専門家が令和のコメ騒動の背景を読み解き、将来を見据えたコメの適正価格を探る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 279p
978-4-296-12507-4

¥1,210〔税込〕





アザー・オリンピックズ～排除と混迷の性別確認検査導入史～

マイケル・ウォータース 著

勁草書房

スポーツにおける性別確認検査は、どのような歴史的背景の中で、誰によって、何を目的に導入されたのか。そのきっかけとなったアスリートとは誰だったのか。激動の時代に生きた選手や競技役員たちのもつれた物語を描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:6./ 342p
978-4-326-65449-9

¥3,520〔税込〕



FREE～歴史の終わりで大人になる～

レア・イピ 著

勁草書房

社会主義下の粛清と困窮の中にあっても自由への期待に満ちた少女時代は、抗議行動の高まりで一変。自由選挙と市場開放に続く構造改革、移民増加等は激しい暴動に発展し…。気鋭の哲学者がアルバニアでの少女時代を綴る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 337p
978-4-326-85204-8

¥3,300〔税込〕



奔放な生、うつくしい実験～まつろわぬ黒い女たち、クィアでラディカルなものたちの親密な歴史～

サイディヤ・ハートマン、ハーン 小路 恭子 著

勁草書房

20世紀の変わり目、アメリカ北部の都市部では、若い黒人女性による公然たる叛乱が繰り広げられていた。アフリカ系アメリカ人の活動に対する人種主義的統制の試みと、それを乗り越えてゆく黒人たちの自由な生の実践を綴る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 512p
978-4-326-85206-2

¥3,960〔税込〕



男性学入門～そもそも男って何だっけ?～(光文社新書 1359)

周司あきら 著

光文社

男性とは、男らしさとは何か？歴史的・文化的・社会的な規範に縛られた、つくられた存在としての男性の「当たり前」を疑う男性学。その解説を通して、多角的な視点から社会のあり方や課題を考える一冊。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 261p
978-4-334-10648-5

¥990〔税込〕



両膝を怪我したわたしの聖女

アンドレア・アプレウ 著

国書刊行会

スペイン・カナリア諸島に暮らす、10歳の「わたし」とイソラ。「わたし」にとって、イソラは聖女のように絶対的な存在だった。ふたりは夏休みの退屈しのぎのため、不潔にして乱暴、猥雑で危うい遊びにつぎつぎ手を染め…。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 205p
978-4-336-07771-4

¥3,190〔税込〕





至上の幸福をつかさどる家(アジア文芸ライブラリー)

アルンダティ・ロイ 著

春秋社

ゲストハウスの主となったヒジュラーのアンジュム、著者の幻影とも思われるティロー、そのパートナーのムーサー。現代インド史の出来事を寓話的に織り交ぜ、凝り固まった世界の周縁で生きる人々の姿を詩情あふれる文章で描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 497p
978-4-393-45508-1
¥4,180〔税込〕



脱領域の読書〜あるロシア研究者の知的遍歴〜

塩川 伸明 著

人文書院

学問論から、歴史学と政治学、文学と政治、ジェンダーとケア、歴史の中の個人まで。長年ソ連・ロシア研究に携わってきた著者が自らの学問的基盤を振り返り、その知的遍歴をたどる読書録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 308p
978-4-409-24172-1
¥3,520〔税込〕



食権力の現代史〜ナチス「飢餓計画」とその水脈〜

藤原 辰史 著

人文書院

ソ連の住民 3000 万人の餓死を目標としたナチスの「飢餓計画」はどこへ向かったか。第一次大戦から第二次大戦を経て、イスラエルのガザの虐殺までの現代史を、食を通じた権力の歴史、「施設化」した飢餓の歴史として描く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 322p
978-4-409-51108-4
¥2,970〔税込〕



無駄にしたいくなかった話

水村 美苗 著

筑摩書房

創作への意識、暮らしの可笑しみ、家族への想い、文学や日本語のこと…。多様で複雑で加速度的に変化する世界をどう見つめ、何を感じ、どんな言葉を紡いだのか。エッセイ、評論、書評、日記、未発表講演録を収録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 379p
978-4-480-81587-3
¥2,530〔税込〕



アーノルド・ローベルものがたり〜がまくんとかえるくんとぼく〜

エミー・キャスナー 著

文化出版局

時代が変わっても愛され続ける子どもの本の作家、アーノルド・ローベル。彼は物語を、心で感じたように、目で見たとおりに書き…。アーノルド・ローベルの人生と仕事を描いた絵本。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 40p
978-4-579-40501-5
¥1,760〔税込〕





誰のために何のために建築をつくるのか

伊東 豊雄 著

平凡社

自然と共存する現代建築は可能か。人にやさしい現代建築とは何か。そして建築家は誰のために、何のために建築をつくるのか。世界的建築家が現代建築のあり方を自由に思索する。図版も多数収録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:4./ 165p
978-4-582-54481-7

¥2,750〔税込〕



「ふつう」の私たちが、誰かの人権を奪うとき〜声なき声に耳を傾ける 30の物語〜

チェ・ウンスク 著

平凡社

どうか助けてください。韓国・国家人権委員会の調査官が見た、差別や冤罪、性暴力、拷問事件の裏側。読み書きができず告訴状を提出できない老齢の囚人など、法と制度の隙間からこぼれ落ちる人々の声を聴く。

朝日新聞 2025/12/27

2024:11./ 209p
978-4-582-82725-5

¥2,420〔税込〕



ミロのことば〜私は園丁のように働く〜

イヴォン・タイヤンディエ 編

ジュアン・ミロ 著

平凡社

20世紀の動乱と戦争と弾圧の時代を生き、狂気が支配する世界の中で悲観をユーモアと希望に満ちた芸術に昇華し、真の人間とはどうあるべきかを問い続けた芸術家ジュアン・ミロ。そのインタビューを収録する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 95p
978-4-582-83984-5

¥2,750〔税込〕



求職者支援訓練のジェンダー分析〜受講者のつながる場とエンパワーメント〜

林 亜美 著

法律文化社

求職者支援訓練の女性受講者に着目し、ナイラ・カビールのエンパワーメントの概念を分析枠組みとして、受講後の仕事や生活、意識の変化や影響を明らかにする。今後の政策改善に資する知見も提示。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 272p
978-4-589-04384-9

¥6,820〔税込〕



コンパートメント No.6

ロサ・リクソム 著

みすず書房

フィンランド人の寡黙な少女と、ロシア人の出稼ぎ夫。ソ連崩壊直前の春、モスクワからウランバートルへ向かう寝台列車の同じ部屋に乗りあわせたふたりは、偶然にまかせて旅をして…。ロードノベル。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 215p
978-4-622-09795-2

¥3,630〔税込〕





クロコダイルに魅せられて

福田 雄介 著

みすず書房

オーストラリアの政府機関で野生ワニの保全に全力を尽くす、唯一無二のワニ研究者はいかにして誕生したのか。淡々とした筆致ながらも、熱い思いがじっくりと伝わるワニ研究エッセイ。『みすず』連載に書き下ろしを加え書籍化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 208p
978-4-622-09824-9

¥2,860〔税込〕



祖国のために死ぬこと 新装版

エルンスト・ハルトヴィヒ・カントロヴィチ／甚野尚志 著

みすず書房

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 232p
978-4-622-09826-3

¥4,620〔税込〕



“女は自衛しろ”というならば～女性による反撃は正当か？～

エリザベス・フロック 著

明石書店

アメリカ、インド、シリアで、男(社会)からの攻撃に武力で反撃した3人の女性。彼女たちがとった行動は、結局のところ彼女たちを救ったのか、それとも逆に傷つけたのか。その結果、制度に何らかの変化はあったのかを問う。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 420p
978-4-7503-5964-9

¥2,750〔税込〕



優しくない地球でひとが生きのびるための80の処方箋

品田 知美 著

亜紀書房

「食物網」「発酵」「移住・定住」など、生きのびるために知っておきたい原理を、シンプルな角度で切り取りながら解説。さらに「からだの声を聴く」「お茶の時間」など、自身が暮らしの場で実践している日常の断片を紹介する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 255p
978-4-7505-1890-9

¥2,420〔税込〕



開運えんぎもの図鑑

高野 紀子 著

あすなろ書房

どうして「赤」はおめでたい？ 武士に人気だった昆虫とは？ 福だるま、お節料理、飾り熊手、招き猫、おめでたい数など、全250種の縁起ものを、イラストで紹介する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 45p
978-4-7515-3267-6

¥1,760〔税込〕





#東京アパート

吉田 篤弘 著

角川春樹事務所

隣の天使から届けられる悪魔のケーキ。ベランダに置かれた大きな桃…。東京のアパートで暮らすさまざまな人びとの夢やさみしさ、ささやかな幸福と奇跡を描く物語。『Web ランティエ』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 341p
978-4-7584-1490-6

¥1,980〔税込〕



江戸東京の坂道～凸凹から読み解く都市の成り立ち～

岡本 哲志 著

学芸出版社

東京都心、武蔵野台地と低地が交わる「きわ」に多く存在する坂道は、交通や社会階層の境界となり、多彩な空間を生み出してきた。山手線内側に位置する7つの台地を舞台に、江戸東京の坂道が土地利用にどう影響したか読み解く。

朝日新聞 2025/12/27

2025:8./ 248p
978-4-7615-2938-3

¥2,750〔税込〕



スコットランドと<開かれた>ナショナリズム～分離独立・福祉・移民～

高橋 誠 著

慶應義塾大学出版会

2014年の住民投票以来、分離独立に揺れるスコットランド。分離独立・福祉・移民をめぐる言説を丹念に紐解くことで、現代スコットランドのナショナリズムの動態を描き出す。

朝日新聞 2025/12/27

2025:5./ 352p
978-4-7664-3034-9

¥6,930〔税込〕



たからぶねの七ふくじん

岡田 よしたか 著

B L 出版

七人のかみさまを乗せて海をすすむ、たからぶね。みんなのところへ、福を授けにいくのです。かみさまたちは、ふねの上ではおだやかに過ごしていると思いきや、いつもドタバタにぎやかです。ある時、嵐がやってきて…。

朝日新聞 2025/12/27

2025:12./ 32p
978-4-7764-1186-4

¥1,760〔税込〕



政党経営文化論

岡野 裕元 著

成文堂

国会・地方議会の議員をめぐる候補者リクルートや候補者予備群・議員教育の実態などについて、政治学・経営組織論の観点から特に政党組織文化の役割に着目し、多くの各党議員・職員の証言を基に分析。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 216p
978-4-7923-3450-5

¥2,750〔税込〕





地質学者のように考える～タイムフルネス、新たな時間認識～

マーシャ・ビョーネルード／江口あとか 著

築地書館

地質学者が描き出す地球の過去とは。山脈の形成や侵食のような遅いプロセスと、地震や火山のような速いプロセスが重なり合う多様な時間とは-。地質学者とともに壮大な地球の時間をたどり、未来につながる地球と時間を考える。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 254p
978-4-8067-1693-8

¥2,970〔税込〕



旧きものの衝撃～1900 年以降のテクノロジーとグローバル・ヒストリー～

デイヴィッド・エジャトン 著

名古屋大学出版会

日々の暮らしや巨大産業、軍事も、「新型」だけでは成り立たず、慣れ親しんだ品々や技術を、修理・改良して使い続けている。先進国から最貧困地域まで、新旧入り混じるテクノロジーの進化をたどり、歴史像を刷新する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:7./ 304p
978-4-8158-1198-3

¥5,940〔税込〕



リトルトーキョーは語る～凝集・越境・包摂の日系アメリカ史～

南川 文里 著

名古屋大学出版会

「モデル・マイノリティ」の物語からこぼれ落ちる者たちは、在米日系コミュニティといかに交わり、何を残したのか。国境・人種をこえた多層的な語りに耳を傾け、新たなアプローチで歴史像を書き換える。

朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 330p
978-4-8158-1215-7

¥5,940〔税込〕



ヤービと氷獣(Tales of Madguide Water 3)

梨木香歩 著

福音館書店

湖沼地帯マッドガイド・ウォーターの静かな冬。そこで暮らす小さな生きものヤービたちと私たち人間、それぞれに伝わる「ふしぎ」は、皆を思いがけない冒険にいざないます…。マッドガイド・ウォーターシリーズ第3弾。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 212p
978-4-8340-8836-6

¥2,200〔税込〕



OSECHI～Food for the New Year～

内田有美／アーサー・ビナード／満留邦子 著

福音館書店

黒豆、数の子、なます、昆布巻き、伊達巻き、松風焼き…。日本の伝統食であるおせち料理を紹介しながら、そこに込められた願いをリズムカルなことばで伝えます。英語で楽しむ、おせちの絵本。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 34p
978-4-8340-8875-5

¥1,760〔税込〕





半分姉弟<1>(torch comics)

藤見 よいこ 著

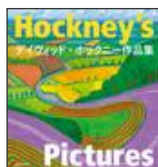
リイド社

「ハーフ」と呼ばれる人々の日常と溢れる感情を鮮やかに描いた、わかりあえなさ
手を繋ぐ群像劇。アイデンティティに揺れるすべての人へおくる、共生を模索する希
望の物語。

朝日新聞 2025/12/27

2025:4./ 190p
978-4-8458-6787-5

¥880〔税込〕



Hockney's Pictures〜デイヴィッド・ホックニー作品集〜

デイヴィッド・ホックニー 著

青幻舎

60 年以上にわたるホックニーの創造性を目の当たりにできる作品集。油彩や素描、
水彩、版画、写真作品の変遷と多様性を紹介するとともに、近年の最新作を取り上げ
る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:2./ 496p
978-4-86152-971-9

¥4,730〔税込〕



フクロウ〜地球上で最も謎めいた鳥の科学〜

ナショナル ジオグラフィック 編

ジェニファー・アッカーマン 著

日経ナショナルジオグラフィック社

獲物の位置を瞬時に「数学」で特定する、無音で飛翔する、樹木に擬態する…。フク
ロウの驚異の能力と生態を最新科学で解き明かし、その個性豊かな生き様から、「知
性」とは何かを問いかけるサイエンス・ノンフィクション。

朝日新聞 2025/12/27

2025:9./ 467p
978-4-86313-600-7

¥3,630〔税込〕



建築の解像〜出会ったモダニズム〜

堀越英嗣 著

左右社

建築家・堀越英嗣が描く、体験的モダニズム。東京都庁、赤坂プリンスホテルといっ
た丹下健三後期の代表作や、イサム・ノグチと協働して実現したモエレ沼公園などの
設計に携わってきた著者の貴重な回想と分析、自作解題を収録。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 641p
978-4-86528-498-0

¥6,930〔税込〕



ガラパゴスを歩いた男〜朝枝利男の太平洋探検記〜

丹羽典生 著

教育評論社

「ガラパゴス探検の日本人のパイオニア」でありながら、ほぼ無名の人物である朝枝
利男。その生涯とガラパゴス諸島の探検に、彼の残した膨大な写真・スケッチを交え
ながら迫る。

朝日新聞 2025/12/27

2025:1./ 253p
978-4-86624-110-4

¥2,640〔税込〕





オマルの日記～ガザの戦火の下で～

最所篤子 編

オマル・ハマド 著

海と月社

ありのままのガザとは-。イスラエル侵攻下のガザ地区で、避難生活を送るパレスチナ人青年・オマル。彼が英語での X への投稿を始めた 2024 年 4 月から、停戦が成立した 2025 年 1 月までのポストの日本語訳を収録する。

朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 204p
978-4-903212-89-0

¥1,980〔税込〕



飛脚は何を運んだのか～江戸街道輸送網～(ちくま新書 1841)

巻島 隆 著

筑摩書房

江戸時代を“脚”で下支えした飛脚。その成り立ちから制度の変遷、ビジネス化成功の裏話、やり取りされた手紙の内容まで、江戸時代の輸送の全貌を解き明かす。

朝日新聞 2025/12/27、日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 411p
978-4-480-07668-7

¥1,430〔税込〕



博士が愛した論文～研究者 19 人が語る“偏愛論文”アンソロジー～

橋本 幸士、高井 研、片岡 龍峰、須藤 靖、川上 和人、仲野 徹、鳥居 啓子、羽馬 哲也、石本 健太、藤井 一至、丸山 宗利、西本 昌司、四本 裕子、鎌田 浩毅、小林 快次、大内 正己、伊藤 由佳理、小林 武彦、石原 安野 著
日経ナショナルジオグラフィック社

たくさんの論文を読んできた、書いてきた。だが、わたしには生涯忘れられない一編がある。この論文に出会っていなかったら-。最前線で活躍する研究者 19 人による、偏愛論文アンソロジー。

朝日新聞 2025/12/27、日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 254p
978-4-86313-664-9

¥2,420〔税込〕



暗闇の眼玉～鈴木六林男を巡る～

高橋修宏 著

ふらんす堂

静謐な抒情、苛烈なりアリズムと社会批判、独自の「群作」と「季語情況論」…。現代の(戦後の)俳句にとって、鈴木六林男とは如何なる存在であったのか。戦後俳句に鋭い異和として屹立しつづけた六林男俳句について論じる。

朝日新聞 2025/12/28

2025:3./ 242p
978-4-7814-1720-2

¥3,080〔税込〕



彼女たちは楽園で遊ぶ

町田 そのこ 著

中央公論新社

高校を退学し、突然、新興宗教に入会した美央。美央を取り戻そうと潜入する凜音。東京から<特別>になるために施設にやってきた初花。凜音が奔走するなか、町では若者の不審死が連続し…。女子高生たちの青春xホラー。

東京・中日新聞 2025/12/07

2025:10./ 339p
978-4-12-005958-2

¥2,090〔税込〕





ジャスティス・マン

佐藤 厚志 著

文藝春秋

接客のプロを自負する中年ホテルマン・大山茂。悪をくじく特撮ヒーローに己を重ね、日課のジャスティス体操を欠かさず…。そんな彼がひとたび「客」となった時、その正義感が暴走する! 『文学界』掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/12/07

2025:11./ 175p
978-4-16-392044-3

¥2,200〔税込〕



9 7 8 4 1 6 3 9 2 0 4 4 3



みんな大きくなったよ

本上まなみ 著

ミシマ社

ふるさと庄内、賑やかな家族、東京での仕事、子どもと暮らす京都…。山や川、畑で遊び、美味しいものを作って食べ、北へ南へ旅に出る。本上まなみが綴る、時間旅行のようなエッセイ集。

東京・中日新聞 2025/12/13

2025:9./ 222p
978-4-911226-24-7

¥2,090〔税込〕



9 7 8 4 9 1 1 2 2 6 2 4 7



地上の楽園

月村 了衛 著

中央公論新社

1959年、在日朝鮮人への暴力がはびこる街で、平等を実現し「地上の楽園」と称される北朝鮮への帰国運動が過熱。帰国船に乗った玄勇太は、食事の貧弱さなどから「楽園」への違和感を覚え…。『中央公論』連載を加筆、修正。

東京・中日新聞 2025/12/20

2025:10./ 477p
978-4-12-005959-9

¥2,530〔税込〕



9 7 8 4 1 2 0 0 5 9 5 9 9



現代ストリップ入門

武藤大祐／夏堀うさぎ 著

書肆侃侃房

第二次大戦直後に生まれ、つねに変容してきたストリップ。座談会、インタビュー、論考、ルポ、エッセイ、漫画などで、ストリップの現在に多様な視点からアプローチする。読書案内、踊り子のカラー口絵も収録。

東京・中日新聞 2025/12/21

2025:10./ 311p
978-4-86385-705-6

¥2,530〔税込〕



9 7 8 4 8 6 3 8 5 7 0 5 6



豊臣家の女たち(岩波新書 新赤版 2086)

福田 千鶴 著

岩波書店

寧(北政所)と茶々(淀殿)はしばしば対立する妻と愛妾のように描かれるが、彼女たちは本当に敵対していたのだろうか? 豊臣家の栄枯盛衰に、妻、母、姉妹、養女、奥女中など欠くことのできない女性たちのまなざしから迫る。

読売新聞 2025/12/07

2025:10./ 278p
978-4-00-432086-9

¥1,166〔税込〕



9 7 8 4 0 0 4 3 2 0 8 6 9



**ラジオな日々～何者でもない若者が何者かになろうとする物語～(朝日文庫
ふ 21-2)**

藤井 青銅 著

朝日新聞出版

ラジオ業界のレジェンド、放送作家・藤井青銅。彼が無名の新人時代にラジオの世界で出会った、さまざまな個性の人物。ラジオが輝いていた時代の空気を伝える、80年代ラジオ・グラフィティ。書下ろし等を加えた文庫版。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 271p
978-4-02-262124-5

¥990〔税込〕



絶縁病棟(小学館文庫 か 46-4 「病棟」シリーズ 4)

垣谷 美雨 著

小学館

3回の離婚で人生を考え直し、趣味を謳歌しながらアルバイトとして働くキワミ医師。ある日、外来に女性医師が担当でないと嫌だという70代の女性患者が現れ…。『STORY BOX』連載を改題、改稿。

読売新聞 2025/12/07

2025:10./ 300p
978-4-09-407497-0

¥759〔税込〕



もうしばらくは早歩き

くどう れいん 著

新潮社

新幹線、車、飛行機、ローラースケート、台車、たらい船、象、そして自分の足。多彩な移動手段を使った先に立ち現れるさまざまな風景。一歩ふみ出すエッセイ集。『小説新潮』連載に書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 201p
978-4-10-356531-4

¥1,760〔税込〕



玉三郎の「風を得て」

真山 仁 著

文藝春秋

長年にわたる対話を元に、坂東玉三郎の半生を小説形式で描いた「秘すれば花」、世阿弥「風姿花伝」にちなみながら、彼の哲学と美学の深淵に迫った「その風を得て」を収録。貴重な写真も満載。『文藝春秋』ほか掲載を書籍化。

読売新聞 2025/12/07

2025:9./ 180p
978-4-16-392020-7

¥1,760〔税込〕



シベリア鎮魂歌～香月泰男の世界～(文春学藝ライブラリー 歴史 48)

立花 隆 著

文藝春秋

シベリアでの抑留体験と戦争の不条理を描き続けた画家・香月泰男。収容所を訪ね歩き、香月の体験の足跡を追いながら、「シベリア・シリーズ」という壮大な絵巻物の意味を問い直す。シリーズ全作品をカラーで収録。

読売新聞 2025/12/07

2023:2./ 512p
978-4-16-813104-2

¥1,870〔税込〕





音の世界のそのことを

吉田秀和 著

音楽之友社

音楽批評の最高峰! 「日本のクラシック音楽批評を確立した」吉田秀和が、95〜98歳の晩年に執筆した『レコード芸術』連載を単行本化。人生と仕事を回顧するロング・インタビューも併録。

読売新聞 2025/12/07

2025:10./ 271p
978-4-276-21204-6

¥2,750〔税込〕



社会人 1年目の社会学

鈴木洋仁 著

インプレス

なぜたった1分でも遅刻をすると怒られるのか? なぜ元気よく挨拶をする人は評価が高いのか? 働き始めたばかりの社会人が感じる、素朴で切実な「なぜ?」に、社会学の視点から答える。

読売新聞 2025/12/07

2025:10./ 263p
978-4-295-41140-6

¥1,815〔税込〕



ギフテッド(光文社文庫 ふ 32-2)

藤野 恵美 著

光文社

フリー翻訳者の凜子は、中学受験をする姪の莉緒の「伴走」を頼まれた。莉緒は賢いが、同年齢の集団に馴染めずストレスを抱えている。凜子も学業は優秀だったが、人間関係の問題で勤め先を退職した過去があり…。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 326p
978-4-334-10832-8

¥968〔税込〕



江戸の刑事司法〜「御仕置例類集」を読みとく〜(ちくま新書 1885)

和仁かや 著

筑摩書房

物の怪憑きに責任能力はあるのか? 放火と失火ではどのくらい罪の重さが違う? 江戸幕府の役人たちの議論を記録した「御仕置例類集」から5つの事件を取り上げ、それらを題材に江戸時代の法的思考を解き明かす。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 186p
978-4-480-07718-9

¥990〔税込〕



見知らぬ人を認識する〜パレスチナと語りについて〜

イザベラ・ハンマード／岡真理 著

みすず書房

ガザのジェノサイドに抗して、言葉をめぐる闘争が行われている。暴力を支える語りをいかに解体するか。サイドを手掛かりに、他者によって認識が変わる瞬間を描き出す。岡真理による解説も付す。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 147p
978-4-622-09775-4

¥2,970〔税込〕





臨床談義:松木邦裕との Q&A～学会では聞けない質問を松木先生にぶつけてみた～

岩倉 拓、佐藤幸江 編

岩倉拓／佐藤幸江 著

金剛出版

精神分析の知見と視点を学ぶことを目的として開始された松木邦裕セミナー。そのなかから、学会では聞けない質問を含め、ユーモアとペースを交えた 58 の対話を収録する。松木邦裕のエッセイと著書の紹介も掲載。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 234p
978-4-7724-2138-6

¥3,520〔税込〕



リミナルスペース～新しい恐怖の美学～

ALT236 著

フィルムアート社

人の気配のない地下鉄の通路、寂れたショッピングモール、夜の遊園地…。インターネットを中心に爆発的に広がった 2020 年代を代表する新しい恐怖の美学、「リミナルスペース」誕生の過程とその影響を体系的に掘り下げる。

読売新聞 2025/12/07

2025:9./ 187p
978-4-8459-2400-4

¥3,740〔税込〕



温泉街リノベーション～公民連携&星野リゾートで挑む「オソト天国」長門湯本温泉の 10 年～

木村 隼斗、のかた あきこ 著

旅行読売出版社

温泉街を「点」ではなく「面」でまるごと生まれ変わらせる。温泉街リノベーションを掲げ、大胆な挑戦を始めた長門湯本温泉。その 10 年のあゆみを紐解き、温泉街リノベーションに挑んだ人々の喜びや葛藤、希望、悩みを記す。

読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 239p
978-4-89752-350-7

¥2,200〔税込〕



ニッポンの移民～増え続ける外国人とどう向き合うか～(ちくま新書 1882)

是川 夕 著

筑摩書房

移民は日本にとって救世主なのかリスクなのか。日本は欧米のように分断されるのか。移民なしではこの国はもたないのか。エビデンスを基に、移民政策の歴史と未来について考察し、移民をめぐる議論に一石を投じる。

読売新聞 2025/12/07、朝日新聞 2025/12/13、東京・中日新聞 2025/12/14

2025:10./ 250p
978-4-480-07710-3

¥1,012〔税込〕



韓国インスタントラーメンの世界

チ ヨンジュン、中川 里沙 著

原書房

日本で生まれたインスタントラーメンは、海を渡って韓国でも発展し愛されてきた。大ブームを巻き起こしたものの、一時の販売でなくなってしまったもの、定番商品となったもの。韓国から世界へと羽ばたいた国民食の歴史にせまる。

読売新聞 2025/12/07、日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 281p
978-4-562-07574-4

¥2,420〔税込〕





世界終末戦争<上>(岩波文庫 赤 796-6)

バルガス＝リョサ 著

岩波書店

19世紀末ブラジルの最貧地帯。キリストの再来をおもわせるコンセレイロおよびその使徒たちと、彼らを殲滅しようとする中央政府軍の死闘を描く。歴史上実際に起きた「カヌードスの反乱」をモチーフにした大作。

読売新聞 2025/12/14

2025:7./ 558p
978-4-00-327966-3

¥1,507〔税込〕



世界終末戦争<下>(岩波文庫 赤 796-7)

バルガス＝リョサ 著

岩波書店

主人対奴隷、白人対混血、中央対地方、理性対非理性-。19世紀末ブラジルの最貧地帯。キリストの再来をおもわせるコンセレイロおよびその使徒たちと、彼らを殲滅しようとする中央政府軍の死闘を描く。

読売新聞 2025/12/14

2025:8./ 593p
978-4-00-327967-0

¥1,573〔税込〕



30の短編集

小説トリッパー編集部 著

朝日新聞出版

朝井リョウ、伊坂幸太郎、江國香織、小池真理子、田中慎弥、三浦しをん、米澤穂信...。人気作家30人による、「30」をテーマにしたアンソロジー。『小説トリッパー』掲載を加筆修正。

読売新聞 2025/12/14

2025:11./ 374p
978-4-02-252113-2

¥1,980〔税込〕



さよならの保険金

額賀 凜 著

KADOKAWA

漁師だった父の遭難事故で、家族と就職先を一度に失った麻海は、保険調査員の叔父のもとに転がり込む。見習い調査員となった麻海は、詐欺が疑われる事案の調査をする中で、生と死、お金にまつわる様々な家族の思いにふれて...

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 204p
978-4-04-116337-5

¥1,760〔税込〕



アレルギーの科学～なぜ起こるのかどうして増えているのか～(ブルーバックス B-2312)

森田 英明、足立 剛也 著

講談社

人の体を守る免疫は、なぜ無害なはずのものに過剰に反応するのか。その「しくみ」をわかりやすく解説するとともに、アレルギー患者増加の背景や疾患ごとの特徴から、病態解明や治療法の開発の研究最前線までをまとめる。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 334p
978-4-06-541495-8

¥1,320〔税込〕





黒川能～1964 年、黒川村の記憶～

船曳 由美 著

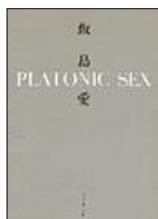
集英社

子供たちの能の稽古、榊屋敷の神事、稚児の大地踏、明け方までつづく演能…。月山の麓に 500 年以上続く悠久の王祇祭。1964 年に黒川能と出会った女性編集者が、村の内側から哀惜込めて描きあげた、当時の黒川村の記録。

読売新聞 2025/12/14

2020:1./ 389p
978-4-08-789013-6

¥3,960〔税込〕



Platonic sex(小学館文庫)

飯島 愛 著

小学館

家出、援助交際、AV 出演……。人気タレント・飯島愛が自らの過去を赤裸々に綴った自伝的エッセイ。100 万部を超えるベストセラーを記録し、台湾語版、韓国版も発売。相次いでドラマ化、映画化も決定した話題作がついに文庫化した。

読売新聞 2025/12/14

2001:8./ 333p
978-4-09-402396-1

¥523〔税込〕



世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド<上> 新装版(新潮文庫 む-5-4)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/12/14

2010:4./ 471p
978-4-10-100157-9

¥935〔税込〕



世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド<下> 新装版(新潮文庫 む-5-5)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/12/14

2010:4./ 410p
978-4-10-100158-6

¥825〔税込〕



あの胸が岬のように遠かった～河野裕子との青春～(新潮文庫 な-89-2)

永田 和宏 著

新潮社

熱く、性急で、相手に誠実であろうとした故に傷つけあったふたり。未公開日記と手紙 300 通から初めて明かされる、歌人夫婦・河野裕子と永田和宏の蒼き愛の物語。

読売新聞 2025/12/14

2024:11./ 395p
978-4-10-126382-3

¥825〔税込〕



検事の心得～元東京地検特捜部長の回想～

伊藤 鉄男 著

中央公論新社

そのとき、検察の内部で何が起きていたか。数々の重要事件に関わった元東京地検特捜部長が、約 36 年間の検事生活を辿りながら、検事の仕事や生活など、検察の実際の姿を紹介する。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 270p
978-4-12-005964-3

¥1,980〔税込〕





昭和絶滅危惧職業の人々

秋山真志 著

中央公論新社

飴細工師、俗曲師、銭湯絵師、幫間、見世物師、蠟人形師、チンドン屋、流し…。今や風前の灯となった職業とそれに従事する人たち 8 人に密着し、仕事の流儀と人間の魅力に迫る。

読売新聞 2025/12/14

2025:11./ 250p
978-4-12-005971-1

¥2,090〔税込〕



9 7 8 4 1 2 0 0 5 9 7 1 1



老人と海(中公文庫 ヘ7-1)

ヘミングウェイ 著

中央公論新社

ひとり小舟で海へ出た老漁師は、見たこともない巨大カジキとの死闘を繰り広げ…。1953 年の初訳以来、版を重ねてきた本篇に、鮎川信夫、北方謙三ら日本の作家たちのヘミングウェイ評、年譜を併録する。

読売新聞 2025/12/14

2025:5./ 253p
978-4-12-207658-7

¥880〔税込〕



9 7 8 4 1 2 2 0 7 6 5 8 7



世界はなぜ日本カルチャーに熱狂するのか～NHK スペシャル「新ジャポニズム」～

NHK スペシャル「新ジャポニズム」制作班 著

NHK 出版

マンガ、ボカロ、日本食、和のデザイン…。世界で幅広く受容されている日本カルチャー。その本質的な理由を読み解く。NHK スペシャル「新ジャポニズム」第 1 集～第 4 集の内容を再構成し、識者による書き下ろし解説を付す。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 229p
978-4-14-081999-9

¥1,870〔税込〕



9 7 8 4 1 4 0 8 1 9 9 9 9



登山大名<上>

諸田玲子 著

日経 B P 社

四代将軍・家綱の世。公儀の執拗な締め付けに苦しむ岡藩の領主となった久清は、軍事訓練中に賊に襲われた娘を救う。娘は行方をくらますが…。安里英晴の挿絵約 50 点もカラーで収録。『日本経済新聞』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 319p
978-4-296-12178-6

¥2,200〔税込〕



9 7 8 4 2 9 6 1 2 1 7 8 6



登山大名<下>

諸田玲子 著

日経 B P 社

岡藩の取り潰しをもくろむ幕府の執拗な探察・密謀。なぜそこまで久清を追い詰めるのか。やがて、亡父が隠し通したその出生の秘密が明らかになり…。安里英晴の挿絵約 50 点もカラーで収録。『日本経済新聞』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 311p
978-4-296-12562-3

¥2,200〔税込〕



9 7 8 4 2 9 6 1 2 5 6 2 3



モンテ＝クリスト伯<1>(光文社古典新訳文庫 KA テ 6-1)

アレクサンドル・デュマ 著

光文社

若き船乗りエドモン・ダンテスは、美しいメルセデスとの結婚の直前、嫉妬した同僚の謀略に遭って逮捕される。島の監獄で 14 年にわたる禁固生活を強いられるが、ある日、他の囚人が壁を削る音に気づき…。文豪の代表作を新訳。

読売新聞 2025/12/14

2025:6./ 519p
978-4-334-10690-4

¥1,540〔税込〕



薔薇の名前<上>

ウンベルト・エーコ 著

東京創元社

読売新聞 2025/12/14

1990:1./ 413p
978-4-488-01351-6

¥2,530〔税込〕



AI時代に仕事と呼べるもの～「あなただけ」の価値を生み出し続ける働き方～

三浦慶介 著

東洋経済新報社

AI時代に本当に価値を持つのは、AI活用のスキルではなく、AIを使いこなすための本質的な仕事スキルと経験を得ること。「AI時代でも仕事で成果を出す」ための具体的な方法論を伝授する。

読売新聞 2025/12/14

2025:11./ 341p
978-4-492-55855-3

¥1,980〔税込〕



考察する若者たち(PHP新書 1445)

三宅香帆 著

PHP研究所

映画やドラマ、漫画をただ楽しむだけではなく、考察して“答え”を得ることで「報われたい」令和の若者たち。「鬼滅の刃」「変な家」、考察動画、ChatGPTなどを取り上げ、令和日本の深層を読み解く。

読売新聞 2025/12/14

2025:11./ 243p
978-4-569-86017-6

¥1,100〔税込〕



細菌万歳!～細菌たちが地球を守る～

マリー＝モニク・ロバン 著

法政大学出版局

「微生物・細菌」の存在が地球と人間生活にとっていかに重要であるかを、インタビューと調査を交える独自の手法により明らかにする。「なぜ新型コロナウイルスが、次々と世界を襲うのか?」の続編。

読売新聞 2025/12/14

2025:8./ 284p
978-4-588-76209-3

¥3,850〔税込〕





お悩み相談そんなこともアラナ(MOE BOOKS)

ヨシタケ シンスケ 著

白泉社

生きる希望とはどんなもの？ 夫婦仲よく過ごすコツは？ 元気がない歴 50 年のヨシタケシンスケが、「元気がない人の考え方」で、数々のお悩みに答える。『月刊 MOE』掲載に描きおろしを加え再編集。

読売新聞 2025/12/14

2025:10./ 157p
978-4-592-73327-0

¥1,760〔税込〕



タコの心身問題〜頭足類から考える意識の起源〜

ピーター・ゴドフリー＝スミス 著

みすず書房

進化は「まったく違う経路で心を少なくとも 2 度、つくった」。1 つはヒトを含む脊索動物、もう 1 つはタコやイカといった頭足類。知能の高さゆえの行動など、人間とはまったく異なる心と知性をもつ頭足類の生態を明らかにする。

読売新聞 2025/12/14

2018:11./ 320p
978-4-622-08757-1

¥3,300〔税込〕



HACK

橘玲 著

幻冬舎

バンコクで退屈な日々を送るハッカーの樹生は、違法資金のマネーロンダリングの依頼を受けることに。同じ頃、失踪した元アイドルがバンコクにいることを知り-。二重三重に仕組まれた罠と裏切り。大金を手に入れるのは誰だ!?

読売新聞 2025/12/14、日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 440p
978-4-344-04528-6

¥2,200〔税込〕



馬のころ〜人の相棒になれた理由〜(岩波科学ライブラリー 339)

瀧本 彩加 著

岩波書店

顔や音声で多彩な感情を表現し、相手の些細な表情や声色の変化も見逃さない馬。馬どうしはもとより、人とも絆を築けるのはなぜか。馬のコミュニケーション能力に焦点を当て、その新たな魅力を紹介する。

読売新聞 2025/12/21

2025:11./ 158p
978-4-00-029739-4

¥1,760〔税込〕



疑似科学から科学をみる

マイケル・D. ゴーディン 著

岩波書店

占星術や錬金術、骨相学、優生学、創造論、心霊研究、水の記憶…。「疑似科学とは何か」をめぐる繰り返されてきた論争を事例ごとに振り返り、科学の本質を考え直す。読書案内も収録。

読売新聞 2025/12/21

2025:11./ 174p
978-4-00-061728-4

¥2,310〔税込〕





私の戦後 80 年、そしてこれからのために

岩波書店編集部 著

岩波書店

「戦後 80 年」となる 2025 年は、“生身の戦後”を語り得る最後の節目。戦争体験者の 100 歳から 19 歳の大学生まで、さまざまな世代の、多様なバックグラウンドを持つ 45 人が「いま語りたいこと」を寄せたメッセージ集。

読売新聞 2025/12/21

2025:12./ 222p
978-4-00-061737-6

¥2,200〔税込〕



南回り、北回りの遭遇、列島のホモ・サピエンス〜新・日本旧石器文化の成立〜(朝日選書 1052)

国武貞克、佐藤宏之（考古学） 著

朝日新聞出版

アフリカで誕生した新人ホモ・サピエンスは、ユーラシア大陸の北回りと南回りで拡散し、日本列島にたどりついた。両者はどう融合し、日本列島固有の後期旧石器文化が完成したのか。最新の発掘調査成果から解き明かす。

読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 185p
978-4-02-263143-5

¥1,705〔税込〕



月夜の森の梟(朝日文庫 こ 44-1)

小池真理子 著

朝日新聞出版

作家夫婦は病と死に向きあい、どのように過ごしたのか。残された著者は、過去の記憶の不意うちに苦しみ、その後を生き抜く。心の底から生きることを励ます喪失エッセイ。林真理子の解説も収録。

読売新聞 2025/12/21

2024:2./ 191p
978-4-02-265137-2

¥770〔税込〕



光炎の人<上>(角川文庫 き 44-1)

木内 昇 著

KADOKAWA

日露戦争の行方に国内の関心が集まっていたころ。徳島の貧しい農家に生まれた少年は、電気の可能性に魅せられていた。電気は必ず世を変えるという確信を胸に、少年は大阪へ渡る決心をする…。

読売新聞 2025/12/21

2019:9./ 436p
978-4-04-108211-9

¥924〔税込〕



光炎の人<下>(角川文庫 き 44-2)

木内 昇 著

KADOKAWA

大阪の工場ですべてを技術開発に捧げた音三郎は、製品化という大きなチャンスを手にする。だが、それは無惨にも打ち砕かれてしまう。東京へ移った彼は、無線開発の分野で頭角をあらわすが…。

読売新聞 2025/12/21

2019:9./ 423p
978-4-04-108212-6

¥924〔税込〕



田中角栄研究～全記録～<上>(講談社文庫)

立花 隆 著

講談社

読売新聞 2025/12/21

1982:8./ 435p



9 7 8 4 0 6 1 3 4 1 6 8 5 .



神都の証人

大門 剛明 著

講談社

突然、父親を奪われた少女に救いは訪れるのか？ 事件の謎は、戦前から令和まで引き継がれる。世代を超えて社会の歪みと戦い続ける者たちの行き着く先とは、いったい何なのか-。『小説現代』掲載を加筆改稿。

読売新聞 2025/12/21

2025:7./ 498p

978-4-06-539159-4

¥2,585〔税込〕



9 7 8 4 0 6 5 3 9 1 5 9 4 .



「もう一度歩ける」に挑む～救命救急センター「チーム井口」の覚悟～

高梨ゆき子 著

講談社

1年に200人以上の脊髄損傷の患者を受け入れている、川越の埼玉医大高度救命救急センター。「脊髄損傷早期手術」に挑む熱き医師たちと、患者に取材を重ねた医療ノンフィクション。

読売新聞 2025/12/21

2025:9./ 255p

978-4-06-541219-0

¥1,980〔税込〕



9 7 8 4 0 6 5 4 1 2 1 9 0 .



エンド・オブ・ライフ(集英社文庫 さ 58-2)

佐々 涼子 著

集英社

多くの患者を看取ってきた看護師の友人が癌になった。「看取りのプロ」の死への向き合い方は、意外なもので…。最期の日々を共に過ごすことで見えて来た「命の閉じ方」とは。在宅での終末医療の現場を描くノンフィクション。

読売新聞 2025/12/21

2024:4./ 321p

978-4-08-744633-3

¥858〔税込〕



9 7 8 4 0 8 7 4 4 6 3 3 3 .



シリアの家族

小松由佳 著

集英社

シリアの沙漠で出会った総勢70人の大家族。シリア難民の妻、そして二児の母となった写真家が、激動のシリアを生きた市井の人々の、等身大の姿を描くノンフィクション。『kotoba』連載を大幅に加筆修正・再構成。

読売新聞 2025/12/21

2025:11./ 316p

978-4-08-781773-7

¥2,420〔税込〕



9 7 8 4 0 8 7 8 1 7 7 3 7 .



花神<上> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

周防の村医から一転して官軍総司令官となり、維新の渦中で非業の死をとげた、日本近代兵制の創始者大村益次郎の波瀾の生涯を描く。

読売新聞 2025/12/21

2002:6./ 472p
978-4-10-115217-2

¥935〔税込〕



花神<中> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2025/12/21

1976:9./ 511p
978-4-10-115218-9

¥935〔税込〕



花神<下> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2025/12/21

2002:3./ 553p
978-4-10-115219-6

¥990〔税込〕



未完のファシズム～「持たざる国」日本の運命～(新潮選書)

片山 杜秀 著

新潮社

天皇陛下万歳! 大正から昭和の敗戦へと、時代が下がれば下がるほど、日本人はなぜ神がかっていったのか。第一次世界大戦に衝撃を受けた軍人たちの戦争哲学を読み解き、近代日本のアイロニカルな運命を描き出す。

読売新聞 2025/12/21

2012:5./ 346p
978-4-10-603705-4

¥2,090〔税込〕



民度～分極化時代の日本の民主主義～(中公新書 2876)

善教 将大 著

中央公論新社

人々の生活や文化程度、民主政治への成熟度を意味する民度。様々なデータや方法論から、党派性、投票行動、テレビ・新聞・SNSの影響までを取り上げて分析し、日本人の政治意識・行動を追い、民主主義の現在地を描き出す。

読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 256p
978-4-12-102876-1

¥1,265〔税込〕



悲しい火だるま～評伝・三好十郎～

片島 紀男 著

N H K 出版

読売新聞 2025/12/21

2003:5./ 574p





「奇譚クラブ」の絵師たち 新装版(河出文庫 め 2-1)

濡木痴夢男 著

河出書房新社

戦後まもなく誕生した風俗雑誌『奇譚クラブ』。縛り絵師にとどまらず、編集から執筆まで八面六臂の活躍で、三島由紀夫、澁澤龍彦をも魅了した同誌を築き上げた喜多玲子を軸に、盟友が貴重な『奇譚クラブ』秘史を綴る。

読売新聞 2025/12/21

2025:12./ 296p
978-4-309-42235-0

¥1,100〔税込〕



花々の言葉～世界ではじめての花言葉辞典～

シャルロット・ド・ラトゥール夫人 著

国書刊行会

19世紀フランスにおける花言葉ブームの最大の人気作品を翻訳。語り手である「わたし」のエピソードを交えつつ、季節ごとの花言葉とその由来、博物学、神話、文学、植物学の知識を、優美な筆致で綴る。

読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 368p
978-4-336-07418-8

¥3,300〔税込〕



自分の中に毒を持て～あなたは“常識人間”を捨てられるか～(青春文庫 お-50)

岡本 太郎 著

青春出版社

瞬間瞬間を生きているか。ほんとうの自分を貫いているか。「才能なんて勝手にしやがれた」「ダメ人間なら、そのマイナスに賭けてみろ」今も鋭く問いかける、生涯芸術家岡本太郎からのメッセージ。カラー口絵付き。

読売新聞 2025/12/21

2017:12./ 246p
978-4-413-09684-3

¥814〔税込〕



誘拐(ちくま文庫)

本田 靖春 著

筑摩書房

読売新聞 2025/12/21

2005:10./ 361p
978-4-480-42154-8

¥924〔税込〕



真知子(ちくま文庫 の 21-1)

野上 弥生子 著

筑摩書房

帝大で社会学を聴講する真知子は、プチ・ブルジョアの体面を取り繕う滑稽な日常にいらだちを覚える。そんな彼女を焚きつけるように現れたのは、革命運動に信念を燃やす美貌の男・関。真知子は関と激しく魅かれ合うが...

読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 377p
978-4-480-44059-4

¥1,100〔税込〕





アンチ・アクション〜日本戦後絵画と女性の画家〜 増補改訂(ちくま学芸文庫 ナ 36-1)

中嶋 泉 著

筑摩書房

草間彌生、田中敦子、福島秀子…。戦後、歴史の中で見落とされていった女性の美術家たち。彼女らを再解釈し、美術史の書き換えを行った画期的著作を改訂し、「ポスト・アクション」に迫った補論を付して文庫化。

読売新聞 2025/12/21

2025:9./ 555p
978-4-480-51319-9

¥1,870〔税込〕



世界の食器図鑑〜歴史・技法・名品〜

玄馬 絵美子／米山 明泉 著

平凡社

彩り豊かな欧州のプレートから趣深い日本の茶碗まで。陶磁器(やきもの)を中心とした食器の歴史、製造方法、技巧、おもなメーカーや陶産地、装飾美術などを、和洋の名作を写真で比較しながらやさしく解説する食器図鑑。

読売新聞 2025/12/21

2025:9./ 223p
978-4-582-24740-4

¥4,400〔税込〕



無党派層の研究

田中 愛治、遠藤 晶久 著

有斐閣

政治的関心が高く、政治的知識も豊富な「積極的無党派層」。時に選挙結果を左右しうる存在となる日本の無党派層を多角的に実証分析し、国際比較を通じて、民主主義における無党派層の役割を明らかにする。

読売新聞 2025/12/21

2025:11./ 332p
978-4-641-14938-0

¥4,510〔税込〕



子規選集<1> 子規の三大随筆

正岡 子規 著

増進会出版社

読売新聞 2025/12/21

2001:10./ 485p
978-4-87915-770-6

¥3,850〔税込〕



落とされなかった原爆〜投下候補地の戦後史〜(中公選書 162)

鈴木 裕貴 著

中央公論新社

原爆が落とされるかもしれない、小倉、新潟、横浜、京都。この史実は、いかに発掘され、受け止められ、継承されてきたか。47都道府県の被団協に注目し、広島・長崎以外の被爆問題も考える。

読売新聞 2025/12/21、毎日新聞 2025/12/27

2025:11./ 280p
978-4-12-110164-8

¥2,200〔税込〕





永遠平和のために(岩波文庫 青 625-9)

カント 著

岩波書店

カントは、常備軍の全廃・諸国家の民主化・国際連合の創設など具体的提起を行ない、さらに人類の最高善＝永遠平和の実現が決して空論にとどまらぬ根拠を明らかにして、人間ひとりひとりに平和への努力を厳粛に義務づける。

読売新聞 2025/12/28

1985:1./ 146p
978-4-00-336259-4

¥693〔税込〕



非暴力主義の誕生～武器を捨てた宗教改革～(岩波新書 新赤版 2049)

踊 共二 著

岩波書店

宗教改革の渦中、幼児洗礼を拒むキリスト教の一派が誕生した。異端として迫害されながらも聖書の教えを守り、非暴力を貫いた彼らの信仰は、戦争の止まない現代に何を語りかけるのか。500年にわたる愛敵と赦しの軌跡を辿る。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 238p
978-4-00-432049-4

¥1,034〔税込〕



歴史のなかの貨幣～銅銭がつないだ東アジア～(岩波新書 新赤版 2057)

黒田 明伸 著

岩波書店

歴代中国王朝が鑄造した数千億枚の銅銭は、やがて海を越え、中世東アジアの政治・経済・社会に大きなインパクトをもたらした。銅銭はなぜ各国政府の保証なしに商取引の回路を成り立たせてきたのか。東アジア貨幣史の謎に迫る。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 236p
978-4-00-432057-9

¥1,056〔税込〕



日本人拉致(岩波新書 新赤版 2064)

蓮池 薫 著

岩波書店

突如自由を奪われ、独裁体制下で生きた24年。なぜ北朝鮮に拉致されたのか。「マインドコントロール」「革命教育」の現実とは。国家的犯罪行為に翻弄された当事者が、知り得たすべてを記す。『世界』連載を加筆修正。

読売新聞 2025/12/28

2025:5./ 228p
978-4-00-432064-7

¥1,034〔税込〕



パンチラインの言語学

川添愛 著

朝日新聞出版

文学、映画、アニメ、漫画でひととき印象に残る「名ゼリフ＝パンチライン」。そこに隠れた言語学的魅力を、気鋭の言語学者が解説する。『web TRIPPER』連載を加筆修正し単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 197p
978-4-02-252075-3

¥1,760〔税込〕





司書正<巻 1>(HARTA COMIX)

丸山 薫 著

KADOKAWA

数多の書物を誦んじるといふ、驚くべき力を持つ「司書正」。王国の繁栄を支えるその存在は国家機密とされ、それを知るのは、ごくわずかな者だけだった。しかしひとりの少女キビが「司書正」に触れたとき、物語は大きく動き出す。

読売新聞 2025/12/28

2023:1./ 222p
978-4-04-737175-0

¥792〔税込〕



司書正<巻 2>(HARTA COMIX)

丸山 薫 著

KADOKAWA

国家最大のスキャンダルを巡り、宮廷内の陰謀が絡まり合う！人間の欲望に天が与える運命とは？丸山薫が描き出す、壮大で緻密な古代中国宮廷劇、待望の第二巻。

読売新聞 2025/12/28

2024:2./ 190p
978-4-04-737632-8

¥836〔税込〕



司書正<巻 3>(HARTA COMIX)

丸山 薫 著

KADOKAWA

美しく聡明な時期国王の突然の死。国家最大の謎を巡り、欲望と陰謀が絡まり合っていく。丸山薫が描き出す壮大で緻密な古代中国王宮劇、待望の第三巻！

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 174p
978-4-04-738110-0

¥792〔税込〕



異教のローマ～ミトラス教とその時代～(講談社選書メチエ 820)

井上 文則 著

講談社

キリスト教化する前、ローマ帝国は多彩な信仰で賑わい、なかでもミトラス教は際立った勢力を誇っていた。なぜミトラス教は最終的にキリスト教に敗れたのか。最新の研究成果を踏まえ、失われた宗教の全貌に迫る。

読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 255p
978-4-06-538007-9

¥2,145〔税込〕



情熱

桜木 紫乃 著

集英社

40年ぶりに再会を果たした同級生のカメラマンとスタイリスト、「ポケたら関係解消」が条件の70代ホストと美容師…。生き惑う大人たちの物語全6編。『すばる』『小説新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 184p
978-4-08-770007-7

¥1,815〔税込〕





南海王国記

飯嶋 和一 著

小学館

「信」の失われた世界に、再び「信」を取り戻すため武人として生きる決意をした青年。1661年、西洋人がフォルモサと呼んだその島に青年が建てた国は、僅か22年の間だけ輝き…。『STORY BOX』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 507p
978-4-09-386758-0

¥2,530〔税込〕



天使も踏むを畏れるところ<上>

松家 仁之 著

新潮社

敗戦から15年、空襲で焼け落ちた明治宮殿の跡地に、皇居「新宮殿」造営の大プロジェクトが動き出す。村井俊輔を中心に、「象徴天皇」にふさわしい宮殿のありかたを懸命に模索する人びとを描く。『新潮』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 545p
978-4-10-332814-8

¥2,970〔税込〕



天使も踏むを畏れるところ<下>

松家 仁之 著

新潮社

皇室の伝統と民主社会の節点を探りながら、「新宮殿」の設計は佳境を迎えようとしている。建築家・村井俊輔を支える者、反目する者、立ちちはだかる壁…。理想の建築をめぐる人間ドラマを描く大長篇。『新潮』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 545p
978-4-10-332815-5

¥2,970〔税込〕



わたしの人生(CREST BOOKS)

ダーチャ・マライーニ 著

新潮社

わたしは忘れない。日本で、9歳にしてもっとも死に近づいたときのことを。イタリアを代表する作家が、戦時下の日本での抑留体験を綴った回想録。警官による屈辱的な扱い、生命を脅かすほどの飢餓など封印していた過去を記す。

読売新聞 2025/12/28

2024:11./ 166p
978-4-10-590197-4

¥2,145〔税込〕



アメリカの新右翼〜トランプを生み出した思想家たち〜(新潮選書)

井上 弘貴 著

新潮社

アメリカの左右両極の間に起きた思想戦争の内幕を追いながら、テック右派、宗教保守、ネオナチなどの思想家たちが、なぜリベラルな価値観を批判し、社会をどのように作り変えようとしているのかを読み解く。

読売新聞 2025/12/28

2025:6./ 205p
978-4-10-603932-4

¥1,705〔税込〕





生きる言葉(新潮新書 1083)

俵 万智 著

新潮社

日本語の足腰をどう鍛えるか。恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AI など、さまざまなシーンでの言葉のつかい方を、歌人・俵万智ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。

読売新聞 2025/12/28

2025:4./ 235p
978-4-10-611083-2

¥1,034〔税込〕



帝国陸軍〜デモクラシーとの相剋〜(中公新書 2863)

高杉 洋平 著

中央公論新社

日露戦争勝利の栄光、大正デモクラシーと軍縮、激しい派閥抗争、急速な政治化…。なぜ組織は暴走し、破滅したのか？ 陸軍という組織を通し、軍と社会が影響を与え合った軌跡を描く。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 256p
978-4-12-102863-1

¥1,210〔税込〕



昭和天皇の敗北〜日本国憲法第一条をめぐる闘い〜(中公選書 155)

小宮 京 著

中央公論新社

昭和天皇が「象徴」を受け入れたという「聖断」は存在するのか。憲法改正の過程をつぶさに検証し、昭和天皇の真意を明らかにするとともに、日本政府、GHQ、学者らの激しい攻防を描き、戦後がいかに始まったかを問い直す。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 296p
978-4-12-110154-9

¥2,200〔税込〕



習近平研究〜支配体制と指導者の実像〜

鈴木 隆 著

東京大学出版会

長期政権を築いた習近平とは、どのような人物なのか。彼が最高実力者となった軌跡を豊富な資料から渉猟し、中国共産党の支配、中国政治の本質に迫る。これまでに発表した学術論文や雑誌掲載記事などをまとめて書籍化。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 656p
978-4-13-030194-7

¥7,700〔税込〕



南洋標本館

葉山 博子 著

早川書房

大正 11 年、日本統治下の台湾。陳と生田はともに植物学者を志していた。だが、養父母の期待を背負った陳は東京帝大医学部へ入学。生田が採集旅行に出かける一方、陳は陸軍軍属の技師としてニューギニア探検へと向かう…。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 529p
978-4-15-210441-0

¥2,420〔税込〕





人間には12の感覚がある～動物たちに学ぶセンス・オブ・ワンダー～

ジャッキー・ヒギンズ 著

文藝春秋

同じ地球上で共に暮らし、「感覚を持つ存在」である人間を含む動物たち。個々の感覚がどのように違い、それが世界観、世界の理解の仕方にどう影響しているのか、またそれが人間にとって何を意味するのかを考察する。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 432p
978-4-16-391998-0

¥2,860〔税込〕



激しく煌めく短い命

綿矢 りさ 著

文藝春秋

京都に暮らす久乃は、中学校の入学式で出会った同級生の縁にひと目で惹かれた。ふたりは周囲の偏見にも負けず、手さぐりで愛をはぐくんでいくが、あることがきっかけで決定的に引き裂かれ…。『文藝界』掲載を改稿し単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 634p
978-4-16-392009-2

¥2,585〔税込〕



やなせたかしの生涯～アンパンマンとぼく～(文春文庫 か68-3)

梯 久美子 著

文藝春秋

自分の顔を食べさせる前代未聞のヒーロー「アンパンマン」の作者・やなせたかしは、「手のひらを太陽に」を作詞するなど、詩人としても知られる。生きることを肯定し、光にむかって歩き続けたその生涯を、評伝の名手が綴る。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 269p
978-4-16-792346-4

¥770〔税込〕



イン・ザ・メガチャーチ

朝井リョウ 著

日経BP社

「神がいないこの国で人を操るには、“物語”を使うのが一番いいですよ」 ファンダム経済を築く者、のめり込む者、のめり込んでいた者…。三者三様の視点から、“物語”の功罪を炙り出す。『日本経済新聞』連載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 444p
978-4-296-12104-5

¥2,200〔税込〕



熊はどこにいるの

木村 紅美 著

河出書房新社

暴力から逃れた女を匿う山奥の家に暮らす、リツとアイ。津波ですべてを失ったサキと、災後の移住者であるヒロ。震災から7年の地で、身元不明の幼子をめぐり、4人の女たちの運命が、いま、動き出す。『文藝』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 186p
978-4-309-03946-6

¥1,980〔税込〕





きみはメタルギアソリッドV:ファントムペインをプレイする

ジャミル・ジャン・コチャイ 著

河出書房新社

ビデオゲームと一族の戦禍の歴史が融け合う魔術的冒険、バラバラになった息子の肉片を縫い合わせる母親…。新世代作家による痛みと笑いのイスラム・マジックリアリズム短篇集。表題作など全 12 篇を収録する。

読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 268p
978-4-309-20920-3

¥2,750〔税込〕



聊齋本紀

閻 連科 著

河出書房新社

絵画の中で生を得る絵師、人間の心臓を食べて転生する妖女、狐と人間の交歓など、千夜一夜物語のごとく紡がれる世にも不思議な 36 の物語を収録。清代の古典怪異短篇集「聊齋志異」を再創作し、オリジナルの物語を加える。

読売新聞 2025/12/28

2025:5./ 451p
978-4-309-20925-8

¥5,280〔税込〕



ババヤガの夜(河出文庫 お 46-1)

王谷 晶 著

河出書房新社

愛ではない。愛していないから憎みもしない。憎んでないから一緒にいられる-。暴力を唯一の趣味とする新道依子は、腕を買われ暴力団会長の一人娘を護衛することになり…。バイオレンスアクション。

読売新聞 2025/12/28

2023:5./ 204p
978-4-309-41965-7

¥748〔税込〕



熊になったわたし〜人類学者、シベリアで世界の狭間に生きる〜

ナスターシャ・マルタン 著

紀伊國屋書店出版部

カムチャツカの森で先住民族を研究するフランスの人類学者が、熊に襲われて大けがを負う。その日を境に西洋とシベリアの世界観、人間と獣の世界の境界が崩壊し…。九死に一生を得た人類学者の変容と再生の軌跡。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 206p
978-4-314-01211-9

¥2,200〔税込〕



ひのえうま〜江戸から令和の迷信と日本社会〜(光文社新書 1348)

吉川徹 著

光文社

高度経済成長只中の 1966 年、日本の出生数が統計史上最低を記録した。その原因となったのが 60 年に一度の干支、丙午(ひのえうま)にまつわる迷信だった。迷信が成立した江戸期にまでさかのぼり、社会現象として読み解く。

読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 245p
978-4-334-10553-2

¥990〔税込〕





最後のあいさつ

阿津川辰海 著

光文社

30 年前の国民的ドラマ「左右田警部補」は、主演俳優・雪宗衛が妻殺しの容疑で逮捕され、打ち切りとなる。時を経て、同様の手口の殺人が確認されたいま、関係者の時間が再び動き出す。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 414p
978-4-334-10745-1

¥1,980〔税込〕



シッダールタ(光文社古典新訳文庫 KA へ 3-4)

ヘッセ 著

光文社

身分を捨てて巡礼に出たシッダールタ。解脱者ブッダとの邂逅、友との別れ、遊女カマラーとの快樂生活を経て、それでも心の渇きは満たされず…。自己の解放と世界の真理を求めた男の魂の遍歴を描く。2025 年上演舞台の原作。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 248p
978-4-334-10773-4

¥990〔税込〕



関東大震災 虐殺の謎を解く～なぜ発生し忘却されたのか～(筑摩選書 0308)

渡辺 延志 著

筑摩書房

関東大震災で多くの朝鮮人が殺されたのはなぜか。虐殺はなぜ忘却されたのか。陸軍の記録、小学生の作文、海軍練習艦の無線傍受録、隠されていた閣議の決定、恩赦をめぐる行政文書などを読み解き、徹底追及する。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 330p
978-4-480-01828-1

¥2,090〔税込〕



新しいリベラル～大規模調査から見てきた「隠れた多数派」～(ちくま新書 1861)

橋本 努／金澤 悠介 著

筑摩書房

21 世紀以降の日本のリベラルがどのような変遷をたどったのかを分析するとともに、7000 人を対象とする社会調査から、日本において最多数を占めることが明らかとなった「新しいリベラル」の実態と可能性を探求する。

読売新聞 2025/12/28

2025:6./ 350p
978-4-480-07692-2

¥1,320〔税込〕



商人の戦国時代(ちくま新書 1871)

川戸 貴史 著

筑摩書房

中央権力が衰退し混迷する戦国時代。幕府、朝廷、大名など様々なプレイヤーが乱立するなか、商人たちは何を頼り生き延びたのか？史料に現れる、余りに人間的なエピソードの数々から、乱世を生き延びる戦略を紹介する。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 318p
978-4-480-07704-2

¥1,155〔税込〕





魔窟～知られざる「日大帝国」興亡の歴史～

森 功 著

東洋経済新報社

日本一のマンモス私大、日本大学。中興の祖「古田重二良」の呪縛、田中英壽体制の地下水脈、アメフト部薬物事件…。日大の権力と闇に光を当て、その歴史に迫る。『デジタル中央公論』『ファクタ』連載を大幅に加筆し書籍化。

読売新聞 2025/12/28

2024:12./ 356p
978-4-492-22425-0

¥1,980〔税込〕



スティグリッツ資本主義と自由

ジョセフ・E・スティグリッツ 著

東洋経済新報社

超富裕層による搾取をどう食い止めるのか？ トランプ後の世界はどこへ向かうのか？ 公正で自由な社会を推進するのはどのような経済なのか？ ノーベル賞経済学者が、これからの経済社会に関するビッグピクチャーを描く。

読売新聞 2025/12/28

2025:6./ 512p
978-4-492-31564-4

¥3,080〔税込〕



数理とデータで読み解く日本政治

浅古 泰史、善教 将大 著

日本評論社

数理モデルとデータを駆使し、日本の政治・経済の問題と政策決定過程の謎を解く！ 第一線で活躍する政治学者と経済学者が日本が抱える困難な問題の原因を探り、日本人が進むべき道を考察。数理分析・データ分析の方法も解説。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 308p
978-4-535-54083-5

¥2,860〔税込〕



カップルセラピーの教科書<上> ふたりのキッチン編

三田村 仰 著

日本評論社

ふたりの今の関係性にはワケがある！ 心理的支援法「カップルセラピー」の本格的テキスト。上は、カップルセラピーを行ううえで知っておくべき実用的な知識や、基礎的な研究とそこから生まれた介入プログラムを解説。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 326p
978-4-535-56434-3

¥3,520〔税込〕



カップルセラピーの教科書<下> ブロッコリーの花言葉編

三田村 仰 著

日本評論社

ふたりの今の関係性にはワケがある！ 心理的支援法「カップルセラピー」の本格的テキスト。下は、代表的なカップルセラピーや日本文化との関係、さらに著者自身が開発・効果検証を行った介入プログラムについて解説。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 342p
978-4-535-56448-0

¥3,520〔税込〕





ドリーミング・ザ・ビートルズ～世界を魅了した不滅のバンドの物語～

ロブ・シェフィールド 著

白水社

ビートルズの4人が互いの存在を必要としたように、僕らもまたビートルズが存在を必要としているのだ。ローリング・ストーン誌の看板コラムニストが、5歳のころから魅せられてきたビートルズとその音楽について語る。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 380p
978-4-560-09151-7

¥3,960〔税込〕



涙の箱

ハン・ガン 著

評論社

ある村にひとりの子どもが住んでいた。その子は、みんながまるで予測も理解もできないところで涙を流した。ある日、涙を集めている男が、子どもを訪ねてきて…。ノール文学賞作家ハン・ガンがえがく、大人のための童話。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 85p
978-4-566-02489-2

¥1,650〔税込〕



アンチ・アンチエイジングの思想～ポーヴォワール『老い』を読む～

上野千鶴子 著

みすず書房

人はなぜ老いを恐れるのか。ポーヴォワールの「老い」を通して、あらゆる角度から老いの現実を照らし、自己嫌悪させる社会のからくりを暴く。老い衰え、自立を失った人間が生きる社会を構想する。『みすず』連載を書籍化。

読売新聞 2025/12/28

2025:4./ 317p
978-4-622-09730-3

¥2,970〔税込〕



競争なきアメリカ～自由市場を再起動する経済学～

トマ・フィリボン 著

みすず書房

自由市場の国アメリカでは、一握りの企業への集中が高まったことで、様々な物・サービスの市場で価格が上昇している。なぜ競争の欠如が賃金・投資の減少、生産性・成長の低下、格差の拡大をもたらすのかを示す。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 416p
978-4-622-09754-9

¥4,950〔税込〕



クビライ・カンの驚異の帝国～モンゴル時代史鶏肋抄～(叢書・知を究める 27)

宮 紀子 著

ミネルヴァ書房

アジア、ヨーロッパ、そしてアフリカ(アフロ・ユーラシア)、世界を跨ぎ、人・物・情報が縦横無尽に交流していたモンゴル時代を、マクロ、ミクロ、さまざまな視点から、時に現代・日常生活に引き付けつつ紐解く。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 354p
978-4-623-09846-0

¥3,080〔税込〕





ポストヒューマニズムデザイン～私たちはデザインしているのか？～

ロン・ワッカリー 著

明石書店

人間中心のデザインはこれまで気候変動や環境破壊、抑圧等を生み出してきた。従来のデザインにおける暗黙の了解を解体し、ドゥルーズやラトゥール、インゴルドなどの思想を現実的なデザイン実践と接続する。

読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 387p
978-4-7503-5952-6

¥3,630〔税込〕



みえないもの

イリナ グリゴレ 著

柏書房

娘たちと過ごす青森の日々、ふとよみがえる故郷ルーマニアの記憶、そして、語られてこなかった女たちの物語。虚実を超えて、新たな地平を切り開く渾身のエッセイ集。『水牛』ほか掲載を加筆し書籍化。

読売新聞 2025/12/28

2025:4./ 237p
978-4-7601-5630-6

¥1,980〔税込〕



あの国の本当の思惑を見抜く地政学

社会部部長 著

サンマーク出版

なぜ、国によって行動が異なるのか。何が国を「その国らしい」行動に突き動かすのか。その根源には、常に地理がある。「海と陸」というシンプルな切り口を中心に、不変の地政学の法則を解説する。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 335p
978-4-7631-4188-0

¥1,980〔税込〕



石油が国家を作るとき～天然資源と脱植民地化～

向山直佑 著

慶應義塾大学出版会

宗主国から単独独立を果たした東南アジアのブルネイ、中東のカタールとバーレーン。石油資源が植民地期の政治に与えた影響と、それにより誕生した「本来存在しないはずの国家」の形成メカニズムを解明する。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 296p
978-4-7664-3004-2

¥4,620〔税込〕



独裁と喝采～カール・シュミット<民主主義>論の成立～

松本 彩花 著

慶應義塾大学出版会

20世紀最大の論争的政治思想家カール・シュミットの民主主義論を精緻に検討。ルソー、ボダンらとの思想的対話を通して、同一性・主権独裁・指導者への喝采などの核心概念がなぜ生まれたのかを解明する。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 528p
978-4-7664-3009-7

¥6,600〔税込〕





精神分析の深みへ

藤山 直樹 著

金剛出版

営みとしての精神分析、精神分析的実践という出来事、夢見ること、精神分析家になること、空間論、設定論、そして精神分析の未来と生存の考察へ。精神分析家の思索と経験、生成変化をまとめた、渾身の第4主著。

読売新聞 2025/12/28

2025:11./ 240p
978-4-7724-2145-4

¥4,180〔税込〕



私が弁証法的行動療法を作らなければならなかったわけ〜自傷・自殺未遂を乗り越えた少女が起こした奇跡〜

マーシャ・M・リネハン 著

星和書店

心の問題を抱え、精神病棟に入院していた少女は、退院後、自分と同じように苦しむ人々を地獄から救い出すと誓い、弁証法的行動療法(DBT)の開発者となった。その苦難に満ちた人生と、DBT 誕生の背景を明らかにする。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 460p
978-4-7911-1162-6

¥2,640〔税込〕



ユリイカ〜詩と批評〜<第57巻第16号12月臨時増刊号> 総特集大貫妙子

青土社

女性シンガーソングライターのパイオニアとして、シティ・ポップのアイコン的存在として、純粋な音楽の探究者として……さまざまな大貫妙子の輪郭を描き出していく総特集。

読売新聞 2025/12/28

2025:11./ 229p
978-4-7917-0471-2

¥1,980〔税込〕



行為する意識〜エナクティヴィズム入門〜

吉田 正俊、田口 茂 著

青土社

これまで展開されてきた科学的意識論の手法を紹介し、問題点を吟味した上で、「予測」という概念を「オートポイエーシス」「エナクティヴィズム」を参照しながら掘り下げる。意識を「行為」として捉え、多角的な視点で描く。

読売新聞 2025/12/28

2025:5./ 368p
978-4-7917-7715-0

¥3,300〔税込〕



哲学史にしおりをはさむ

熊野 純彦 著

青土社

哲学の芽となる日常の経験、忘れられつつある哲学史のひとコマ、師や畏友との出逢い…。読むこと書くことに生きてきた稀代の哲学史家が、研究のなかから紡ぎだし、折々の縁にむすんできたテキストをまとめる。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 352p
978-4-7917-7735-8

¥2,860〔税込〕





「滅び」と生きる～宮崎県椎葉村における種間関係の動態～

合原 織部 著

京都大学学術出版会

環境破壊が進むなかで、山村ではどのような種の関わり合いが生じているのか、人々はいかに生業や被害対策を実践しているのか。種の交渉をミクロに見つめ、不安定な世界を生き抜く知恵と技をつむぐ。

読売新聞 2025/12/28

2025:5./ 272p
978-4-8140-0591-8

¥3,740〔税込〕



眠りの市場にて～歌集～

笹川 諒 著

書肆侃侃房

いつだって造語のようなすずしさと秋は来るのださびしくはない 青空にブローチの針を刺すような痛みのことをうまく言えない 第2歌集。『短歌人』『西瓜』ほか掲載を書籍化。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 138p
978-4-86385-677-6

¥2,200〔税込〕



自転車～人類を変えた発明の200年～

ジョディ・ローゼン 著

左右社

自転車ブームを支えた植民地下コンゴのゴム農園、イギリス軍を苦しめたボーア軍の自転車部隊…。自転車をめぐる言説、文化、社会の様々な側面を論じ、自転車の200年の歴史と現代の世界で果たしている役割を解き明かす。

読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 520p
978-4-86528-451-5

¥4,950〔税込〕



台湾の歴史大全～基礎から研究へのレファレンス～

春山 明哲／松田 康博／松金 公正／川上 桃子 編

藤原書店

オランダ、清朝、日本、アメリカ、中国など諸勢力の狭間を生きてきた台湾。先史時代から現代に至る歴史を、通史と事典的記述を両軸に気鋭の執筆陣が描く、台湾の歴史・地域研究の入門書。

読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 459p
978-4-86578-446-6

¥4,840〔税込〕



人文学を社会に開くには。～パブリックヒューマニティーズから考え・行動する～

菊池 信彦 著

文学通信

人文学をどのように社会へ発信するか。各分野の研究者だけでなく、図書館のキュレーター、企業の代表取締役などの知見も交え、理論と実践の両面から、日本におけるパブリックヒューマニティーズ/公共人文学の現在地を示す。

読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 303p
978-4-86766-086-7

¥3,300〔税込〕





インド映画はなぜ踊るのか

高倉 嘉男 著

作品社

インド映画はなぜこんなに長いの？ なぜ主役は圧倒的に強いの？ なぜ歌って踊るの？
新旧のインド映画約 200 本を取り上げ、作品の背景にある言語・文化・社会などを解説し、9 つの「なぜ」に答える。

読売新聞 2025/12/28

2025:10./ 397p
978-4-86793-109-7

¥2,970〔税込〕



明日も、森のどこかで

上田 大作 著

閑人堂

森のどこかで、厳しくも美しい野性の日常と、命をつなぐ特別な瞬間が日々繰り返されている。北海道の自然を 20 年にわたって記録してきた写真家による、野生動物の息づかいを感じるエッセイ。本体は背表紙なし。

読売新聞 2025/12/28

2025:9./ 191p
978-4-910149-06-6

¥2,970〔税込〕



匿名への情熱～政治と知的世界をつないだブレーン 楠田實～

和田 純 著

吉田書店

「知のサロン」を主宰し、愚直に政治に理念と言力を求め、現実主義の中道保守を貫いた。 「五五年体制」を主舞台に、知的な「政治ブレイン」として保守政治の脱皮と新生に腐心した楠田實の評伝。

読売新聞 2025/12/28

2025:8./ 708p
978-4-910590-30-1

¥3,960〔税込〕



いくつもの武蔵野へ～郊外の記憶と物語～

赤坂 憲雄 著

岩波書店

昔も今も東京を生かしてきたのは、西側に広がる武蔵野の土、水、人。幼き日の原風景を遡り、文学やアニメ等から武蔵野をめぐる知の脈脈を掘り起こす。土地に根ざすことなき民俗学の試み。『東京人』ほか掲載を書籍化。

日本経済新聞 2025/12/06

2025:10./ 286p
978-4-00-061725-3

¥3,080〔税込〕



人はなんで生きるか～他四篇～ 改版(岩波文庫 赤 619-1)

トルストイ 著

岩波書店

本書に収められた 5 つの短編は、トルストイ晩年の執筆になる民話である。この頃作者は、宗教的・道徳的傾向を著しく深めていた。そして苦悩に満ちた実生活を代価として購ったかけがえのない真実が、幾多の民話となって結晶していった。

日本経済新聞 2025/12/06

1965:7./ 190p
978-4-00-326191-0

¥638〔税込〕





新耳袋～現代百物語～<第 1 夜>(角川文庫)

原 浩勝、中山 市朗、祖父江 慎 著

角川書店

百話を完結させると怪しいことが起こると語り継がれる「百物語」。自ら蒐集した怪異現象の数々によって「百物語」のスタイルを現代によりがえらせ、一大怪談ブームの火付け役となった稀代の怪談実話集!

日本経済新聞 2025/12/06

2002:6./ 307p



9 784043653010



ニッポン華僑 100 万人時代～新中国勢力の台頭で激変する社会～

日本経済新聞取材班 著

KADOKAWA

美大受験へ殺到する中国人、中華街化するアキバ・上野・道頓堀…。日本の経済・伝統は喰われるのか? 日本永住を目指す中国の中間層の実態に、データと写真から迫る。『日本経済新聞』連載を基に書き下ろし書籍化。

日本経済新聞 2025/12/06

2025:10./ 269p

978-4-04-607707-3

¥1,980〔税込〕



9 784046077073

人生の親戚(新潮文庫)

大江 健三郎 著

新潮社

日本経済新聞 2025/12/06

1994:8./ 267p



9 784101126173



サッチャー～「鉄の女」の実像～(中公新書 2879)

池本 大輔 著

中央公論新社

20 世紀後半を代表する政治家、サッチャー。その政策は「英国病」を克服したと言われる一方、新自由主義の急先鋒と批判も招いた。彼女の激動の生涯を追い、経済から外交までの政策を俯瞰し、彼女の「遺産」を浮き彫りにする。

日本経済新聞 2025/12/06

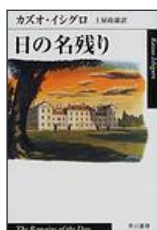
2025:10./ 336p

978-4-12-102879-2

¥1,375〔税込〕



9 784121028792



日の名残り(ハヤカワ epi 文庫)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

短い旅に出た老執事が、美しい田園風景のなか古き佳き時代を回想する。長年仕えた卿への敬慕、執事の鑑だった亡父、女中頭への淡い想い、二つの大戦の間に邸内で催された重要な外交会議の数々……。遠い思い出は輝きながら胸のなかで生き続ける。

日本経済新聞 2025/12/06

2001:5./ 365p

978-4-15-120003-8

¥1,650〔税込〕



9 784151200038



権力と栄光(ハヤカワ epi 文庫)

グレアム・グリーン 著

早川書房

日本経済新聞 2025/12/06

2004:9./ 461p



9 784151200298



西洋の敗北～日本と世界に何が起きるのか～

エマニュエル・トッド 著

文藝春秋

戦争は“世界のリアル”を暴く試金石で、すでに数々の「真実」を明らかにしている。米国と欧州は自滅した。日本が強えられる「選択」は？ エマニュエル・トッド地政学の決定版。

日本経済新聞 2025/12/06

2024.11./ 413p
978-4-16-391909-6

¥2,860〔税込〕



希望の国のエクソダス(文春文庫)

村上 龍 著

文芸春秋

2002年。一斉に不登校を始めた中学生がネットビジネスを展開し、遂には世界経済を覆した！ 閉塞した現代日本を抉る超大型長篇。

日本経済新聞 2025/12/06

2002.5./ 452p
978-4-16-719005-7

¥979〔税込〕



サツ飯～刑事も黙るしみしみカツ丼～(文春文庫 う 40-1)

上田健次 著

文藝春秋

PR 会社に勤める桜花は、自他共に認める食いしん坊。警察職員向け広報誌の連載担当になり、県警本部総務部の長山と街のそば屋に向う。カツ丼を作る店主に取材して、桜が呟いた一言とは…？

日本経済新聞 2025/12/06

2025.11./ 287p
978-4-16-792442-3

¥825〔税込〕



税の日本史(祥伝社新書 722)

諸富徹 著

祥伝社

古代から現代まで、日本では税はどう扱われ、税制はどのように変化してきたのか。時の為政者・納税者は、税をどう捉えたのか。財政学の第一人者が、税の歴史を経済成長や産業構造の変化と共に読み解き、新税を提案する。

日本経済新聞 2025/12/06

2025.11./ 284p
978-4-396-11722-1

¥1,100〔税込〕



石油の帝国～エクソンモービルとアメリカのスーパーパワー～

スティーブ・コール 著

ダイヤモンド社

すべてはアラスカ沖原油流出事故から始まった！ アメリカ最大最強の企業「エクソンモービル」が世界で繰り広げた資源獲得競争の知られざる裏側を余すところなく描き出す迫真の国際ドキュメンタリー。

日本経済新聞 2025/12/06

2014.12./ 642p
978-4-478-02910-7

¥3,300〔税込〕





ウクライナ動乱～ソ連解体から露ウ戦争まで～(ちくま新書 1739)

松里 公孝 著

筑摩書房

現地調査に基づき、ユーラシア世界の現代史を深層分析。ユーロマイダン革命、ロシアのクリミア併合、ドンバスの分離政権と戦争、ロシアの対ウクライナ開戦準備など、その知られざる実態を内側から徹底解明する。

2023:7./ 512p
978-4-480-07570-3

¥1,430〔税込〕



日本経済新聞 2025/12/06



暁星

湊かなえ 著

双葉社

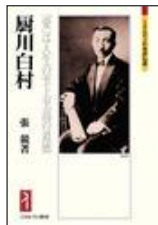
現役の文部科学大臣で文壇の大御所作家でもある清水義之が、男に刺されて死亡した。逮捕された男・永瀬暁は週刊誌に手記を発表しはじめる。そこには、清水が深く関わっているとされる新興宗教に対する恨みが綴られていて…。

2025:11./ 370p
978-4-575-24856-2

¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2025/12/06



厨川白村～「愛」は人生の至上至高の道德～(ミネルヴァ日本評伝選)

張 競 著

ミネルヴァ書房

ラヴ・イズ・ベスト-。大正日本のベストセラー作家・厨川白村が紡ぎ出した、この国の恋愛のかたちは、東アジアにも影響を与えた。現代へと続く文化的礎石を作った白村の生涯をはじめて解き明かす。

2025:9./ 434p
978-4-623-09971-9

¥4,180〔税込〕



日本経済新聞 2025/12/06



LIFTOFF～イーロン・マスクとスペース X の挑戦:2002-2008 年～

Eric Berger 著

化学同人

航空宇宙産業で確固たる地位を確立した、イーロン・マスク率いるスペース X。創業から、会社存続を賭けた崖っぷちの状況の中での小型ロケット「ファルコン 1」の打ち上げ成功までを描く。

2025:9./ 380p
978-4-7598-2408-7

¥3,080〔税込〕



日本経済新聞 2025/12/06



苦痛の心理学～なぜ人は自ら苦しみを求めるのか～

ポール・ブルーム、夏目 大 著

草思社

ホラー映画、激辛料理、過酷な登山、SM…。本来良くないはずの体験から人が喜びを得る場合があるのはなぜか。人が苦痛を求める理由を科学的に解明する、「逆説的幸福論」。

2025:11./ 387p
978-4-7942-2804-8

¥3,300〔税込〕



日本経済新聞 2025/12/06



食すぎる世界～なぜ私たちは不健康と環境破壊のサイクルから抜け出せないのか～

ヘンリー・ディンブルビー／ジェミマ・ルイス 著

英治出版

令和の米騒動、恵方巻やオマケ付き食品の廃棄、給食のない夏休みの子どもの栄養不足、気候変動による猛暑…。食にまつわるニュースの背景にある、巨大で複雑な「食」の舞台裏に切り込む。

日本経済新聞 2025/12/06

2025:10./ 380p
978-4-86276-343-3

¥2,640〔税込〕



戦中派～死の淵に立たされた青春とその後～(講談社現代新書 2794)

前田啓介 著

講談社

アイツが死んで、オレが生きた。生き残ったことの後ろめたさ…。戦没者が最も多かった1920～1923年生まれの子供たち。青春を戦争に翻弄され、戦後経済成長の原動力となった数奇な世代の昭和史を描く。

日本経済新聞 2025/12/06、朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 510p
978-4-06-537687-4

¥1,650〔税込〕



キテレツ絵画の逆襲～「日本洋画」再発見～

三浦 篤／森村 泰昌 著

新潮社

明治初期の写真画、裸体画問題、戦時中の戦争画と前衛絵画…。近代洋画から滲みでる奇妙な混乱と違和感が唯一無二の輝きに反転する！近代洋画を愛する著者2人が、ゲストたちと繰り広げた討論集。『芸術新潮』連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/12/06、読売新聞 2025/12/14

2025:9./ 198p
978-4-10-355582-7

¥2,750〔税込〕



三頭の蝶の道

山田 詠美 著

河出書房新社

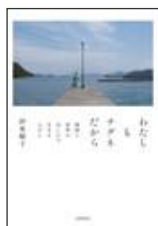
「男とか女とかじゃないのよ、文学に魅入られているか、いないか、なのよ」女性作家が「女流」と呼ばれた時代、文学に身を捧げた女たちの創作の業を描く。

Amazon オーディオブック配信を書籍化。

日本経済新聞 2025/12/06、読売新聞 2025/12/28

2025:10./ 233p
978-4-309-03962-6

¥1,980〔税込〕



わたしもナグネだから～韓国と世界のあいだで生きる人びと～

伊東順子 著

筑摩書房

北朝鮮出身の元NATO軍軍医、中国朝鮮族の映画監督…。韓国を拠点に活動する著者が、海を渡ったコリアンや在韓の華僑たちに話を聞き、個人史と韓国史・世界史の交差を描く。『ウェブちくま』連載等に基づき下ろしを加える。

日本経済新聞 2025/12/06、毎日新聞 2025/12/13、朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 253p
978-4-480-81589-7

¥2,090〔税込〕





吉本隆明全集<38> 書簡Ⅱ・Ⅲ

吉本隆明 著

晶文社

長く深い時間の射程で考えつづけた思想家・吉本隆明の全貌と軌跡。38は、穴戸恭一宛全書簡、および著者の執筆・言論活動の重要な舞台となった『試行』の直接購読者とのやりとりなど、330通余りの書簡を収録する。

日本経済新聞 2025/12/06、毎日新聞 2025/12/20

2025:10./ 571p
978-4-7949-7138-8

¥8,360〔税込〕



アメリカ史とレイシズム(岩波新書 新赤版 2083)

中條 献 著

岩波書店

アメリカ合衆国の歴史においては、黒人への差別が「人種」という分類概念を生み、その概念がさらなる抑圧を生み出してきた。奴隷制度から現代に至るまで、レイシズムとの複雑な絡み合いから合衆国の歩みをとらえる。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 260p
978-4-00-432083-8

¥1,056〔税込〕



雨の日の心理学～こころのケアがはじまったら～

東畑 開人 著

KADOKAWA

臨床心理士による、家庭や職場で誰かをケアする人が元気であるためのやさしい授業。こころのケアの本質から小手先の技術までを惜しみなく紹介し、日常で使える「きく技術」「おせっかいの技術」なども掲載する。

日本経済新聞 2025/12/13

2024:9./ 347p
978-4-04-114887-7

¥1,760〔税込〕



ナショナリズムとは何か～帰属、愛国、排外主義の正体～(中公新書 2880)

中井 遼 著

中央公論新社

自国民や自民族をめぐる心情を高め、再生産するナショナリズム。国民国家誕生からの歴史を一望し、豊富な事例から、ナショナリズムがいつ生まれ、帰属意識・愛国心・排外意識がいかに広まるかの全容を描く。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 304p
978-4-12-102880-8

¥1,210〔税込〕



ソシオパス～「怪物」と呼ばれて～

パトリック・ガーニエ 著

早川書房

幼少期からトラブルが絶えなかった著者が、病と向き合う中で見出した希望とは。臨床心理学博士であり、自らもソシオパスである著者が、実体験をもとに、知られざるソシオパスの実像と人間の本質を描き出す。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 473p
978-4-15-210472-4

¥3,960〔税込〕





相手の本音を引き出す会話の正解

チャールズ・デュヒッグ 著

早川書房

アドバイスをしたつもりが「共感が欲しかった」と言われてしまう原因は、話の内容ではなく、会話の種類のズレにあった。「伝わる会話」とは何か。NASA の採用面接から SNS の炎上まで、あらゆる会話を科学で解明する。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 281p
978-4-15-210473-1
¥2,970〔税込〕



職場を襲う「新型うつ」

NHK 取材班 著

文藝春秋

とつぜん休む、職場にいる時だけうつ症状が出る…。若者に急増する「新型うつ」とはいかなる病気なのか？ なぜ今、増えているのか？ 新型うつを生み出す「社会の病」の本質と対策について考える。NHK スペシャルを書籍化。

日本経済新聞 2025/12/13

2013:4./ 203p
978-4-16-376290-6
¥1,430〔税込〕



豊臣家の包丁人

木下 昌輝 著

文藝春秋

屑として捨てられていた雉の内臓を使った汁、戦の前に即席のかまどで焼いた下魚の蒲鉾、秀吉と秀長の故郷の味…。豊臣家の天下統一の陰には、凄腕の料理人がいた！戦国時代の料理に光をあてた天下取り物語。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 428p
978-4-16-392036-8
¥2,200〔税込〕



善良なウイルス～世にも数奇なファージ医療の歴史～

トム・アイルランド、野中 香方子 著

文藝春秋

地球には「善良」なウイルスが満ちている。その名は「ファージ」。細菌を倒すウイルスである。薬剤耐性菌が跋扈する人類の危機を前に救世主として注目を集めている。ファージ研究の数奇な運命とその最前線を解き明かす。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 373p
978-4-16-392046-7
¥2,970〔税込〕



女二人のニューギニア(河出文庫 あ 35-4)

有吉 佐和子 著

河出書房新社

そこは全く文明に侵されておらず、野豚 3 匹と女ひとりの価値は一緒!? 文化人類学者で友人の畑中幸子が住むニューギニアの奥地を訪ねた有吉佐和子の、驚きの連続と抱腹絶倒の滞在記。平松洋子による解説付き。

日本経済新聞 2025/12/13

2023:1./ 285p
978-4-309-41939-8
¥990〔税込〕





結婚共犯者(光文社文庫 さ 44-1)

櫻 いいよ 著

光文社

薫子は結婚式の二次会で知り合った匡臣と結婚した。匡臣が一番大切な人なのは薫子ではないし、薫子にとっての結婚は愛する人と結ばれることではなかったが、愛は確かに存在した…。結婚式を舞台に「幸せとは何か」を描く。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 306p
978-4-334-10838-0

¥858〔税込〕



ファシストは未来を支配するためにいかに過去を改竄するのか

ジェイソン・スタンリー 著

白水社

トランプ、プーチン、人種・移民・集団殺戮など不都合な「歴史の抹消」、洗脳と情報操作、学校教育への干渉…。米国の言語哲学者が極右独裁主義の策動を徹底検証する、「反ファシズム」入門。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 270p
978-4-560-02482-9

¥2,640〔税込〕



豊臣家族(PHP 文芸文庫 歴史小説傑作選 ほ 3-4)

細谷 正充 編

今村 翔吾／木下 昌輝／澤田 ふじ子／白石 一郎／宮本 昌孝／谷津 矢車 著

PHP 研究所

豊臣一家の栄枯盛衰を描くアンソロジー。秀吉の弟・秀長が、己の初恋の苦い顛末を通してその生涯を回顧する「小一郎と天下と藍と」、秀吉の正室・おねの視点で豊臣家の最期を描く「ゆめの又ゆめ」など全6編を収録する。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:7./ 283p
978-4-569-90497-9

¥957〔税込〕



さよならジャバウォック

伊坂 幸太郎 著

双葉社

結婚直後の妊娠と夫の転勤。その頃から夫は別人のように冷たくなった。そして今、自宅マンションの浴室で夫が倒れている。私が殺したのだ。途方に暮れていたところ、大学時代のサークルの後輩・桂凍朗が訪ねてきて…。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 338p
978-4-575-24852-4

¥1,870〔税込〕



半うつ～憂鬱以上、うつ未満～

平 光源 著

サンマーク出版

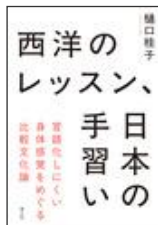
仕事も家事もできるし、病院に行くほどではないけれど、憂鬱を超えた不快感がある。そんな「半うつ」について解説し、その対処法を具体的に紹介する。半うつチェックリスト付き。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:9./ 231p
978-4-7631-4254-2

¥1,650〔税込〕





西洋のレッスン、日本の手習い～言語化しにくい身体感覚をめぐる比較文化論～

樋口桂子 著
青土社

人が人に対して言葉にできない情報を伝える高度なコミュニケーションの場である「レッスン」という観点から、言語と身体とでなされるコミュニケーションの本質を考える。言語化しにくい身体感覚をめぐる比較文化論。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:11./ 380p
978-4-7917-7747-1
¥3,520〔税込〕



駅から徒歩 138 億年

岡田 悠 著
産業編集センター

古いカーナビの案内で歩いたり、17 年前に 2 秒見えた海を探したり、学生時代に住んでいた寮に泊まったり…。多摩川を河口から源流まで散歩した道程と思考の記録「川歩記」と、不思議でやさしい 10 編の日常旅エッセイを収録。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 361p
978-4-86311-461-6
¥1,980〔税込〕



AI ネイティブマーケティング～人、企業、AI の幸せな関係をつくる～

並河進 著
宣伝会議

AI は社会を、マーケティングをどう変えるのか。業務プロセスがダイナミックに再構築される AI ネイティブマーケティングを中心に、3 つの AI ネイティブについて、豊富な実例・架空ストーリーとともにわかりやすく解説する。

日本経済新聞 2025/12/13

2025:10./ 273p
978-4-88335-633-1
¥2,420〔税込〕



ブラッド・コバルト～コンゴ人の血がスマートフォンに変わるまで～

シッダルタ・カラ／夏目大 著
大和書房

児童労働、人身売買、生き埋めになる恐怖、電気も病院もない村で 1 日 12 時間掘り続ける生活…。コンゴ人の証言を通して、現代も続く苛烈な搾取、「植民地主義」の実態を描く。

日本経済新聞 2025/12/13、読売新聞 2025/12/21

2025:10./ 455p
978-4-479-39463-1
¥2,750〔税込〕



戸籍の日本史(インターナショナル新書 162)

遠藤 正敬 著
集英社インターナショナル

古代律令制時代に生まれた戸籍はなぜ、何のために明治に甦ったのか？夫婦別姓問題、同性婚、種々の国際化の「見えざる障壁」になっている、日本独自の国民管理制度を暴く。

日本経済新聞 2025/12/13、毎日新聞 2025/12/27

2025:10./ 315p
978-4-7976-8162-8
¥1,199〔税込〕



河明り〜他一篇〜(岩波文庫 緑 64-1)

岡本かの子 著

岩波書店

昔芸妓や妾をしてきた老女の普通の女と違う若やいだふんいきを描いた「老妓抄」をはじめ感性豊かなかの子の作品には、いずれも女のいのちの泉から咲き出た濃艶な花をみるような独特の世界がある。

日本経済新聞 2025/12/20

1956:1./ 146p
978-4-00-310641-9

¥528〔税込〕



セツと八雲(朝日新書 1019)

小泉凡 著

朝日新聞出版

孤独な幼少期を経て日本にやってきたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と、没落した武家の娘・小泉セツの出会いにより生まれた再話文学の世界。夫婦の歩みと、紡ぎ出された作品の豊かな世界、その現代性を、ひ孫が語り尽くす。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:9./ 215p
978-4-02-295337-7

¥957〔税込〕



ぼくには笑いがわからない

上村裕香 著

KADOKAWA

真面目で惚れっぽい京都の大学生・耕助は、百合子に好きなタイプは「おもしろい人」と言われて撃沈。彼女はお笑いサークルの注目株のコンビが好きだと知って、幼馴染とコンビを組み M-1 優勝を目指すことに...

日本経済新聞 2025/12/20

2025:12./ 228p
978-4-04-115383-3

¥1,870〔税込〕



プレイグラウンド

リチャード・パワーズ 著

新潮社

南太平洋に浮かぶ人口 100 人弱のマカテア島。外国企業による海洋都市建設の計画が持ち上がり、開発か環境保護かの決断を迫られることに...。シンギュラリティーを前に文学の可能性を映し出す、謎と驚異に満ちた物語。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:10./ 491p
978-4-10-505878-4

¥4,950〔税込〕



小泉八雲とセツその言葉と人生

四條 たか子 著

宝島社

「怪談」などの著作で知られる明治時代の作家・小泉八雲と、妻のセツ。夫婦のエピソードを 2 人の言葉・写真でたどるほか、小泉八雲の曾孫・小泉凡のインタビュー、「雪女」「ろくろ首」など怪談 4 編を収録する。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:9./ 158p
978-4-299-06320-5

¥1,679〔税込〕





なぜ存在しない感覚が感じられるのか〜共感覚の謎を解く〜(光文社新書 1388)

牧岡省吾 著
光文社

音の色が見える、数字に人格がある、言葉に味がある…。共感覚の持ち主は、なぜ実際に存在しないものを感じるのか。外界には存在しないものが感じられる共感覚を手がかりに、最先端の認知科学が「世界の見え方」の本質に迫る。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:11./ 251p
978-4-334-10810-6
¥1,100〔税込〕



サンタクロースの文化史〜古代ヨーロッパから現代日本へ〜

水口寿穂 著
人文書院

古来には民間信仰の神として褒美や罰を与えていた「サンタクロース」は、どのようにして現在の姿へと変貌を遂げ、クリスマスのシンボルとして日本に定着したのか。知られざる大衆文化の歴史を解き明かす。図版も多数掲載。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:11./ 263p
978-4-409-53053-5
¥2,970〔税込〕



日本政治、再建の条件〜失われた 30 年を超えて〜(筑摩選書 0317)

山口 二郎、中北 浩爾 著
筑摩書房

機能不全に陥った日本政治を立て直すには何が必要か。野党再編、政権構想、選挙制度改革、ジェンダー平等、2025 年参院選など複数の視点から検証し、来たるべき日本政治を展望する。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:11./ 237p
978-4-480-01836-6
¥1,980〔税込〕



人間の声で〜ジェンダー二元論を超えるケアの倫理〜

キャロル・ギリガン 著
風行社

ケアの倫理が発しているのは、ジェンダー二元論や家父長制の支配に抵抗し、全ての人びとの解放を志向する<人間の>声にはかならない。第 40 回京都賞 2025 を受賞、ケアの倫理の首領者である著者がたどり着いた新境地。

日本経済新聞 2025/12/20

2025:11./ 272p
978-4-86258-164-8
¥2,970〔税込〕



かたちと人類

松田行正 著
左右社

文明の背景には必ず「かたち」がある。概念から拡張、現象、運動、変更、無まで。世界を「かたち」によって捉え、あらゆるものをつくりあげてきた人類の 5 万年の歴史と未来を描く壮大な博物誌。本体は背表紙なし糸綴じ。

日本経済新聞 2025/12/20、朝日新聞 2025/12/27

2025:11./ 495p
978-4-86528-494-2
¥5,280〔税込〕





国際連合の誕生～戦後平和へのイギリスの構想と外交～(国際政治・日本外交叢書 22)

細谷 雄一 著

ミネルヴァ書房

国際連合はいかにして誕生したのか。一次史料を詳細に検討し、第二次世界大戦の裏側で行われていた、国際連合の誕生に至る一連の外交交渉の経緯と、関係者それぞれの思惑を描き出す。

日本経済新聞 2025/12/20、毎日新聞 2025/12/20

2025:10./ 376p
978-4-623-09933-7

¥4,400〔税込〕



自由<上>

アンゲラ・メルケル 著

KADOKAWA

16年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一されたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:5./ 416p
978-4-04-113632-4

¥2,750〔税込〕



自由<下>

アンゲラ・メルケル 著

KADOKAWA

日本経済新聞 2025/12/27

2025:5./ 408p
978-4-04-113633-1

¥2,750〔税込〕



空、はてしない青<上>

メリッサ・ダ・コスタ 著

講談社

余命2年と宣告されたエミルは、人生最後の旅の同行者を掲示板で募集する。返信をくれたジョアンヌと名乗る小柄な若い女性と2人で、とりあえずキャンピングカーでピレネー山脈へ向かう。それは驚くほど美しい旅の始まりで...

日本経済新聞 2025/12/27

2025:9./ 412p
978-4-06-535416-2

¥2,310〔税込〕



下垣内教授の江戸

青山 文平 著

講談社

幕末に生まれ、昭和初期にかけて日本美術の近代化に努めた男は、獲物を求め下野を旅した話を語り始めた。それは「江戸」という時代の身の上話でもあった。近代美術のすごみが横たわる時代小説。『小説現代』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/12/27

2024:12./ 247p
978-4-06-537729-1

¥2,090〔税込〕





空、はてしない青<下>

メリッサ・ダ・コスタ 著

講談社

どこまでも続く空と海。エミルとジョアンヌは、南フランスの陽光きらめく中をキャンピングカーで旅していた。子猫のポックと出会い、2人と1匹は静かに時を重ねる。しかし、進行する病が、エミルをゆっくりと蝕んでいき…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:9./ 412p
978-4-06-539587-5

¥2,310〔税込〕



はじめての圏論～ブングェン先生の現代数学入門～(ブルーバックス B-2313)

加藤文元 著

講談社

<モノとモノを矢印でつなぐ>圏論が、なぜ「現代数学の最重要理論」なのか。圏を組み立てるための基本ルールから、関手、自然変換などの用語の意味まで、圏論の本質をていねいにレクチャー。身近な例をベースにやさしく語る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 317p
978-4-06-541398-2

¥1,320〔税込〕



カグラバチ<01> すべきこと(ジャンプコミックス)

外園 健 著

集英社

刀匠を志す少年チヒロは、父の下で日々修行に励んでいた。おちゃらけた父と寡黙な息子。笑いの絶えない毎日がいつまでも続くと思っていたが…ある日悲劇が訪れる…。

日本経済新聞 2025/12/27

2024:2./ 216p
978-4-08-883819-9

¥550〔税込〕



梅の実るまで～茅野淳之介幕末日乗～

高瀬 乃一 著

新潮社

お役目がなく武芸はからっきしの茅野淳之介は、攘夷の渦中へと呑み込まれてゆく。近い人々の非業の死を乗り越えようやく見つけた、次代につながる道とは-。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:1./ 252p
978-4-10-356011-1

¥1,980〔税込〕



松本清張の女たち

酒井 順子 著

新潮社

お嬢さん探偵、黒と白のオールドミス、不倫の機会均等…。松本清張が女性誌で書いた小説群に着目。そこに登場する女性主人公たちを考察し、「昭和に生きた女」の変遷を映し出す。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:6./ 240p
978-4-10-398511-2

¥1,870〔税込〕





ひとりでこの世に

谷川俊太郎 著

新潮社

きょうであう ここでであう あすであう おもいがけない どこであう?(「であう」より) デビュー作「二十億光年の孤独」から 72 年、90 歳を超えてなお新境地に挑み続けた詩人・谷川俊太郎の遺作を含む詩集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:11./ 165p
978-4-10-401809-3

¥1,980〔税込〕



ブレイクショットの軌跡

逢坂 冬馬 著

早川書房

自動車期間工の本田昂は、2 年 11 カ月の寮生活を終えようとしていた。最終日、同僚が SUV ブレイクショットのボルトをひとつ車体の内部に落とすのを目撃する。見過ごせば明日からは自由の身だが…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:3./ 577p
978-4-15-210411-3

¥2,310〔税込〕



彼女を見守る

ジャン＝バティスト・アンドレア 著

早川書房

親元を離れ、石工の見習いになった少年ミモは、この地を治める公爵の令嬢で同じ生年月日のヴィオラに出会う。ミモが彫刻の才を発揮する一方、科学を愛し、空を飛ぶことを夢見る少女だったヴィオラは時代の制約に絡め取られ…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:3./ 508p
978-4-15-210412-0

¥3,630〔税込〕



烙印の名はヒト

人間 六度 著

早川書房

介護施設で働くロボットのラブは、入居者の老博士に頼まれ彼女を絞殺してしまう。だがラブは人を殺せない設計のはずだった。無実を証明し己が誇りを取り戻すため逃亡したラブの前に、ロボット排斥運動者が迫る…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:3./ 491p
978-4-15-210413-7

¥2,750〔税込〕



YABUNONAKA-ヤブノナカ-

金原 ひとみ 著

文藝春秋

ある女性が、かつて文芸誌元編集長の木戸から性的搾取をされていたとネットで告発した。出版界を舞台に性、権力、暴力、愛につき動かされる人間たちのドラマは予想もつかないクライマックスへ…。『文藝界』連載を加筆・修正。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:4./ 527p
978-4-16-391968-3

¥2,420〔税込〕





男女賃金格差の経済学

大湾秀雄 著

日経ＢＰ社

賃金における真の男女格差をいかに測り、改善するか。男女格差解消のために、理論的なフレームワーク、社会科学研究で明らかになったエビデンスの概要、データに基づく意思決定の方法論などを解説する。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:6./ 241p
978-4-296-11836-6

¥2,200〔税込〕



ファイナンスの世界史～金融技術と金融ビジネスの歩み～

大村 敬一 著

日経ＢＰ社

十字軍遠征からバブル崩壊、リーマン・ショックまで。経済発展の縁の下での力持ちとして成長・進化していった「ファイナンス」が、先進国を破滅の淵に追い詰めるまでを、様々なエピソードを交えて興味深く解説する。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:7./ 421p
978-4-296-12419-0

¥3,520〔税込〕



アトミック・ブレイバー

呉 勝浩 著

光文社

世界同時多発テロから 27 年。平凡なサラリーマン・堤下与太郎は、突如世界の命運を託される。与太郎だけがプレイできる格闘ゲームに、世界を揺るがすシステムに関わる鍵があるというが…。『ジャーロ』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 461p
978-4-334-10798-7

¥2,420〔税込〕



伊藤典夫評論集成

伊藤 典夫 著

国書刊行会

クラーク「2001 年宇宙の旅」などの名翻訳で知られる、海外 SF 翻訳・評論の第一人者、伊藤典夫の評論・エッセイ・書評・旅行記などを集成。鏡明と高橋良平による解説対談も収録。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 1412p
978-4-336-07484-3

¥22,000〔税込〕



世界経済の死角(幻冬舎新書 こ-30-1)

河野龍太郎、唐鎌大輔 著

幻冬舎

世界経済には、日本人が見落としがち「死角」がいくつも存在する。2 人のトップエコノミストが世界経済と金融の「盲点」について、あらゆる角度から徹底的に議論。先の見えない時代を生き抜くための最強の経済・金融論。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:7./ 414p
978-4-344-98780-7

¥1,320〔税込〕





世界の力関係がわかる本〜帝国・大戦・核抑止〜(ちくまプリマー新書 492)

千々和 泰明 著

筑摩書房

戦争をなくしたいけど、自分だけ先に武器を手放してしまったら、他の国に侵略されてしまうかもしれない…。そんなジレンマの中で戦争と平和を繰り返す、世界の国々の力関係を読み解く。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:5./ 207p
978-4-480-68521-6

¥990〔税込〕



バベル〜オックスフォード翻訳家革命秘史〜<上>(海外文学セレクション)

R・F・クアン 著

東京創元社

銀と、ふたつの言語における単語の意味のずれから生じる翻訳の魔法によって、大英帝国が覇権を握る 19 世紀。広東から連れてこられた中国人少年ロビンは、オックスフォード大学の王立翻訳研究所、通称バベルの新入生となり…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 467p
978-4-488-01691-3

¥3,300〔税込〕



バベル〜オックスフォード翻訳家革命秘史〜<下>(海外文学セレクション)

R・F・クアン 著

東京創元社

バベルが供給する、銀を用いた魔法で世界を支配する大英帝国。通訳として広東を訪れたロビンは、イギリスが阿片貿易を口実に清朝政府に戦争をしかけ、中国が持つ膨大な銀をわがものにしようとしていることを目の当たりにし…。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 326p
978-4-488-01692-0

¥2,750〔税込〕



スケープゴート(創元推理文庫 M テ 6-6)

ダフネ・デュ・モーリア 著

東京創元社

人生に絶望していた英国人ジョンは、フランスで出会った自分と瓜ふたつの男ジョンと入れ替わる。連れて行かれた相手の家では、経営する工場は経営が危うく、家族間はぎくしゃくして…。サスペンス。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:1./ 558p
978-4-488-20607-9

¥1,606〔税込〕



木村和司自伝〜永遠のサッカー小僧〜

木村 和司 著

東洋館出版社

華麗なフリーキックで日本中を魅了し日本代表の 10 番として活躍。プロ選手としての挫折と栄光、指導者としての苦悩と挑戦…。日本サッカー界のレジェンド・木村和司が、数々の伝説の裏にあった知られざるサッカー人生を語る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:7./ 488p
978-4-491-05916-7

¥2,761〔税込〕





ライフシフトの未来戦略～幸福な 100 年人生の作り方～

アンドリュー・スコット 著

東洋経済新報社

長寿化社会で個人や社会はどのように変わるべきか？ よりよい老い方、健康と寿命の価値、老化科学の新薬開発、高齢者にやさしい仕事、個人の資金管理、世代に関する課題などを論じる。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:5./ 500p
978-4-492-31563-7

¥3,080〔税込〕



見てわかる量子論入門ショートストーリー200

ジェマ ラベンダー 著

丸善出版

量子論/量子物理学の重要語を基礎から応用まで幅広くとりあげ、初学者でも直観的に理解できるように、精巧リアルな画像を中心とした図版と簡潔明瞭な文で解説する。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:4./ 226p
978-4-621-31127-1

¥2,860〔税込〕



GROWTH～「脱」でも「親」でもない新成長論～

ダニエル・サスキンド 著

みすず書房

繁栄をもたらす一方、自然環境の破壊、格差など莫大な代償を伴ってきた経済成長。その不可思議な過去、厄介な現在、不確かな未来に至るまでのストーリーを語る。バラク・オバマが選んだ 2024 年の必読書。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:8./ 408p
978-4-622-09801-0

¥4,180〔税込〕



不平等・所得格差の経済学～ケネー、アダム・スミスからピケティまで～

ブランコ・ミラノヴィッチ 著

明石書店

不平等研究の第一人者が、経済学の歴史を俯瞰し、ケネー、アダム・スミス、マルクスから、21 世紀のピケティまで、所得不平等に関する代表的な理論を概括。今後の格差是正について探る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 392p
978-4-7503-5874-1

¥4,950〔税込〕



荊棘～句集～

中村和弘 著

ふらんす堂

夕焼は鯨の骨の背後より 土佐犬の引綱太く夏祭 寒鰯に北方四島映りおり 海底に白き蟹群れ良夜かな 人間側の事情を意識して生きていない非人間、特に動植物を描いた第 4 句集。

日本経済新聞 2025/12/27

2024:11./ 162p
978-4-7814-1708-0

¥3,300〔税込〕





或～句集～

大塚凱 著

ふらんす堂

みんな見てゐる手花火の一本目 冷蔵庫ひらくあしたとおなじ貌 見晴らしに釈迦を寝かせて長い午後 寝たいだけ眠る聖樹のない部屋に どの木どんな笛になつてもいい涼しい 句集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:5./ 155p
978-4-7814-1750-9

¥2,970〔税込〕



伎須美野

時里二郎 著

思潮社

あめのやみにぬれていた鳥のやみを てのひらにつつみ 島のみやまで いきをしていたことを 言いおいて ぬけがらを あのひとに ゆだねてきた(「ふるいてのひら」より) 詩集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:3./ 107p
978-4-7837-4595-2

¥2,640〔税込〕



修理する権利～使いつづける自由へ～

アロン・パーザナウスキー 著

青土社

「壊れたら買い替え」へ消費者を駆り立てる資本主義社会には、修理を阻む巧妙なカラクリが隠されていた。米国やヨーロッパで巻き起こっている「修理する権利」運動の現状を、縦横無尽に分析する。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:4./ 464p
978-4-7917-7695-5

¥4,840〔税込〕



僕は何者～野口五郎自伝～

野口 五郎 著

リットーミュージック

歌手、俳優、マルチ演奏家、録音エンジニア、研究者…。僕は何者なのか？ 昭和 46 年に歌手としてデビューした野口五郎が、寄り道や回り道をしてきたことも含め、これまでの歩みを振り返る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 407p
978-4-8456-4210-6

¥3,300〔税込〕



あやとり～千種創一歌集～

千種創一 著

短歌研究社

硝子張りの通路のぼれば関東の夜雲は明るく迫る、僕らに 拷問室の壁には鈍い血の跡のあれが花なら枯れた花びら 2013 年から 2025 年までの作品 265 首を収めた歌集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:4./ 183p
978-4-86272-798-5

¥2,750〔税込〕





日本語ラップ～繰り返し首を縦に振ること～

中村 拓哉 著

書肆侃侃房

「韻踏み夫」が本名で世に問うヒップホップ批評。RHYMESTER の宇多丸を最も重要な日本語ラップ批評家としつつ、ヒップホップは“一人称”の文化というテーゼに注目。その本質を「反復=肯定」と概念化し、思想を展開。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:9./ 381p
978-4-86385-684-4

¥2,640〔税込〕



声影記

小原奈実 著

港の人

カーテンに鳥の影はやし速かりしのちつくづくと白きカーテン 水たぎち水の匂ひをたててをり匂ひとは在るものの断片 2008 年から 2021 年までの作品 304 首を収めた歌集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:2./ 190p
978-4-89629-451-4

¥2,420〔税込〕



ラストサムライ

大野将平 著

ミライカナイ

生きるか死ぬかの狭間だった講道学舎時代。初めての世界選手権で金メダルを獲得。天国から地獄を味わった天理大時代。そして…。オリンピック 2 大会連続金メダルの偉業を達成した柔道家・大野将平が半生を綴る。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:9./ 238p
978-4-907333-29-4

¥1,870〔税込〕



素秋～句集～

西村 和子 著

朔出版

遅桜なれど愛敬遅れなし 夏めくやニュース画面に交差点 子別れの鴉に山河晴れわたり 源流はかの秋雲の凝るあたり 果樹園の烟むらさきだちて冬 令和元年から 6 年までの作品を収めた第 9 句集。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 207p
978-4-911090-35-0

¥2,970〔税込〕



ベースボールと野球を繋いだ男～Dr.Imazato/今里純 知られざる戦後・日米野球交流の物語～

竹本 武志 著

ヘソノオ・パブリッシング

終戦間もない兵庫の田舎町。進駐軍向けの短波ラジオの大リーグ中継に熱中した歯科医師は、ゲームの詳細を各球団へエメールで問い合わせをするうちに…。戦後の日米野球界の架け橋となった、今里純の物語。

日本経済新聞 2025/12/27

2025:9./ 349p
978-4-9911225-2-1

¥2,640〔税込〕





妻が余分(徳間文庫 に 11-10)

新津 きよみ 著

徳間書店

小宮山元は定年退職を目前にして単身赴任生活から家族の住む家に帰るが、もはやそこに自分の居場所はなかった。半ば自棄で空き家になっていた実家の整理をはじめると…。表題作など、シニアに贈る 7 つの人生ミステリーを収録。

毎日新聞 2025/12/01

2025:11./ 333p
978-4-19-895069-9

¥935〔税込〕



中年に飽きた夜は

益田ミリ 著

ミシマ社

これは漫才か、人生の叫びか？ さあ、深夜のファミレスへ。50 歳たちのゆる笑い劇場が始まる！ 笑って納得、言えなかったモヤモヤもすっきりする、益田ミリ渾身の描き下ろし漫画。

毎日新聞 2025/12/01

2025:10./ 149p
978-4-911226-25-4

¥1,760〔税込〕



龍の守る町〜The Embers under the Water〜

砥上裕將 著

講談社

魚鷹が見守る街で、秋月龍朗は最高の消防士だった。5 年前のあの日、濁流が町と彼の心に、癒えない傷跡を刻むまでは。現場を追われ辿り着いた指令室。炎の中から命を救ってきたその手で、男は今、受話器を握る。

毎日新聞 2025/12/01、読売新聞 2025/12/07

2025:11./ 290p
978-4-06-540458-4

¥1,980〔税込〕



携帯遺産

鈴木結生 著

朝日新聞出版

知己の編集者から自伝小説の執筆を依頼された、ファンタジー作家の舟暮按。<飛行>と<蒐集>を手掛かりに、膨大な「人生の記録」を探索するなか、やがて彼女は生き別れた父を求め始め…。『小説トリッパー』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/06

2025:6./ 205p
978-4-02-252060-9

¥1,870〔税込〕



カウンセリングとは何か〜変化すること〜(講談社現代新書 2787)

東畑 開人 著

講談社

カウンセリングの果たしている社会的機能とは。いかなる苦悩を扱い、引き受け、人に何をもたらすのか。人が変わるとはどういうことか。カウンセリングの全体像を明らかにし、心がいかに変化するのかを明らかにする。

毎日新聞 2025/12/06

2025:9./ 441p
978-4-06-541195-7

¥1,540〔税込〕





石原家の兄弟

石原 伸晃／石原 良純／石原 宏高／石原 延啓 著

新潮社

父は昭和を代表する作家にして政治家。奔放な夫を支える母。伯父は昭和の大人気俳優。そこに生まれた兄弟の生き様は四者四様で…。石原家に生まれた自身の半生から両親の最期まで、11のテーマで四兄弟が綴る。

毎日新聞 2025/12/06

2025:10./ 285p
978-4-10-387503-1

¥1,980〔税込〕



拡張生態系～生命から照らす人類・地球・科学の未来～

船橋 真俊 著

祥伝社

地球環境の問題に直面する人類が根本的に取り組むべきこととは何か？従来の生物学を超え、20カ国で実装されて世界が注目する「拡張生態系」の全貌と考え方を、過去15年間にわたり取り組んできた研究成果とともに明かす。

毎日新聞 2025/12/06

2025:11./ 693p
978-4-396-61851-3

¥5,500〔税込〕



弁護士不足～日本を支える法的インフラの危機～(ちくま新書 1877)

内田 貴 著

筑摩書房

沈没寸前の「この国の基盤」をどうするか？社会・経済を法的に支える専門職の弁護士が足りない。ロースクール・司法試験という人材養成課程の失敗に着目し、そのマーケットや仕事の本質も含めて検証する。

毎日新聞 2025/12/06

2025:9./ 265p
978-4-480-07707-3

¥1,056〔税込〕



「面白い!」を見つける～物事の見え方が変わる発想法～(ちくまプリマー新書 509)

林雄司 著

筑摩書房

意外さを観察し、型をずらして、面白がる-。自由な発想の持ち主は世界をこう見ている! WEBメディア『デイリーポータルZ』編集長が、「だったらいいな」を現実にするやり方を伝える。

毎日新聞 2025/12/06

2025:11./ 215p
978-4-480-68542-1

¥990〔税込〕



ウは宇宙船のウ(創元 SF 文庫 ブラッドベリ自選傑作集 SF フ 1-3)

レイ・ブラッドベリ 著

東京創元社

SFの抒情詩人レイ・ブラッドベリが若い読者のために自ら選んだ傑作集。高名な表題短編を巻頭に、「霧笛」「太陽の金色のりんご」「霜と炎」など名作17編を収録。

毎日新聞 2025/12/06

2025:8./ 412p
978-4-488-61209-2

¥1,320〔税込〕





「美食の国」フランスの誕生～ガストロノミーが作ったおいしい歴史～

梶谷 彩子 著

慶應義塾大学出版会

革命から、レストラン誕生、技術革新、地方料理の再発見まで。19～20 世紀の文化をひもとき、フランスが「美食の国」として確立していく過程を描く。「1852 年のフランス美食地図」をダウンロードできる QR コード付き。

毎日新聞 2025/12/06

2025:10./ 256p
978-4-7664-3055-4

¥2,970〔税込〕



それウソかもよ?～うちゅうじんがやってきた!のまき～

CHICORA BOOKS／鎮目博道 著

三恵社

ある日、とつぜん、宇宙人がやってきた。人気のユーチューバーが現場に突撃することになったが…。テレビも SNS も鵜呑みにしない“思考する子”が育つ絵本。書き込み式のワークシートも収録する。

毎日新聞 2025/12/06

2025:7./ 31p
978-4-8244-0159-5

¥2,145〔税込〕



きみをわすれない～ぼく モグラ キツネ 馬 そして嵐～

チャーリー・マッケジー 著

飛鳥新社

男の子と、いつもそこにいてくれる馬、無口なキツネ、ケーキのことで頭の中がいっぱいなモグラ。彼らは、自分たちが何を探しているのかはわからないまま旅に出て…。「ぼく モグラ キツネ 馬」の続編。

毎日新聞 2025/12/06

2025:10./ 128p
978-4-86801-092-0

¥2,500〔税込〕



煌めくポリフォニー～わたしの母語たち～

温 又柔 著

岩波書店

日本語は日本人だけのもの? 台湾で生まれ、日本で育った作家が、「国の周縁」で創作してきた先人たちの言葉に導かれ、日本語と向き合い、自分の言葉を紡ぎ出すまでの軌跡をたどる。短篇小说「おてんきゆき」も収録。

毎日新聞 2025/12/06、朝日新聞 2025/12/27

2025:10./ 182p
978-4-00-061718-5

¥2,420〔税込〕



筒井康隆自伝

筒井 康隆 著

文藝春秋

生まれて最初の記憶、戦時中の幼年期、映画とジャズ漬けになった少年期、演劇に夢中だった青年期、作家デビュー、断筆宣言…。91 歳、最後の文豪・筒井康隆が、自らの人生を濃密な文体でつづる。『文藝界』掲載を書籍化。

毎日新聞 2025/12/06、読売新聞 2025/12/14、毎日新聞 2025/12/20

2025:10./ 183p
978-4-16-392032-0

¥2,090〔税込〕





チェロ湖

いしい しんじ 著

新潮社

弦楽器のかたちの湖で、小舟に揺られる若い男。釣り糸の先に、祖母が遺した蓄音器の針を括って湖水に垂らすと、そのまっすぐな針が、百年にわたる家族の「ものがたり」を釣りあげ…。『新潮』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/06、読売新聞 2025/12/21、読売新聞 2025/12/28

2025:10./ 908p
978-4-10-436305-6

¥5,500〔税込〕



世界のかなしみ〜『苦海浄土』全三部試解〜

高山 花子 著

月曜社

この世界は、かなしい世界なのだろうか。人間を問い、いのちを見つめた「苦海浄土」全三部を深く細やかに読み解き、その奥底に分け入りながら、「生へのまぼろし」へ至りつく、たましいの探究とその結晶を綴る。

毎日新聞 2025/12/06、毎日新聞 2025/12/13

2025:11./ 249p
978-4-86503-213-0

¥2,860〔税込〕



ポストヨーロッパ

ユク・ホイ 著

岩波書店

際限のない消費主義と、各地で激化する保守主義や他者の排除。変わりゆく世界のなか、アジアとヨーロッパのあいだに生きる哲学者が、日本思想との深い対話を経て、＜思考の固体化＞による哲学の新たな可能性を描き出す。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 244p
978-4-00-061723-9

¥2,860〔税込〕



チャーリーとの旅〜アメリカを探して〜(岩波文庫 赤 327-4)

ジョン・スタインベック 著

岩波書店

1960年。大統領選挙の直前、激動の10年の始まりの年。ロシナンテと名づけた改造トラックで、老プードルを相棒に全国をめぐる旅に出た作家は、アメリカのどんな真相を見たのか。路上を行く旅の記録。

毎日新聞 2025/12/13

2024:11./ 446p
978-4-00-323274-3

¥1,364〔税込〕



ゲートはすべてを言った

鈴木結生 著

朝日新聞出版

高名なゲート学者・博覧強記はある日、彼の知らないゲートの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて膨大な原典を読み漁り、長年の研究生の記憶を辿るが…。『小説トリッパー』掲載を書籍化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:1./ 188p
978-4-02-252039-5

¥1,760〔税込〕





ルポ大阪・関西万博の深層～迷走する維新政治～(朝日新書 988)

朝日新聞取材班 著

朝日新聞出版

大きく迷走し、その行く末を誰も見通せなくなっている大阪・関西万博。その開催で示せるのは「人類の英知」なのか、「維新の夢の跡」か。朝日新聞取材班が総力を結集し、万博の深層に迫る。

毎日新聞 2025/12/13

2025:2./ 271p
978-4-02-295300-1

¥924〔税込〕



韓国消滅の危機～人口激減社会のリアル～(角川新書 K-496)

菅野 朋子 著

KADOKAWA

激動の隣国は、未来のニッポンか？ このままでは国がもうもたない。未曾有の人口減少に直面しつつある韓国で進む地方の崩壊、揺れる移民政策、そして後がない中での子子化対策の行方を現地記者がレポートする。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 262p
978-4-04-082535-9

¥1,056〔税込〕



熟柿

佐藤 正午 著

KADOKAWA

轢き逃げの罪に問われ、裁判中に息子、拓を出産したかおり。出所後、息子の顔見たさに園児連れ去り事件を起こした彼女は、息子との接見を禁じられ、西へ西へと各地を流れていくが…。『小説野性時代』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 365p
978-4-04-114659-0

¥2,035〔税込〕



若山牧水全歌集

伊藤 一彦 編

KADOKAWA

若山牧水の全 15 歌集と新出歌を含む未収載歌を収録する。解題、解説、詳細年譜、初句索引、選りすぐりの牧水論 12 本を併載。牧水が魂を込めて詠み続けた歌の神髄、人生の深淵が伝わる決定版。

毎日新聞 2025/12/13

2025:7./ 720p
978-4-04-884652-3

¥5,500〔税込〕



内務省～近代日本に君臨した巨大官庁～(講談社現代新書 2772)

内務省研究会 編

講談社

人々の生活全般を所管し、他の省庁を圧倒した「省庁の中の省庁」は、いかに生まれ、いかに衰退していったのか。近代日本の政治と行政のあゆみを辿りながら、巨大すぎる官庁「内務省」の実像を描く。

毎日新聞 2025/12/13

2025:4./ 552p
978-4-06-539430-4

¥1,650〔税込〕





戦争と万博(講談社学術文庫 2877)

榎木 野衣 著

講談社

かつて爆心地を見た男の構想のうえに「未来への夢」が描かれた、1970年の大阪万博。資料と証言を積み重ね、日本で反復される万博の意味を鋭く問う。3度目の万博開催を踏まえた新規論考を加え文庫化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:8./ 296p
978-4-06-540407-2

¥1,540〔税込〕



<幕府>の発見～武家政権の常識を問う～(講談社選書メチエ 831)

関 幸彦 著

講談社

平氏や信長・秀吉の政権を「幕府」とは呼ばず、鎌倉・室町・江戸の政権のみを「幕府」というのはなぜだろうか。近世・近代の各史論書で「幕府」なるものの理解のされ方を提示し、史学史的文脈で「幕府」について考える。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 189p
978-4-06-541369-2

¥1,870〔税込〕



古墳時代の歴史(講談社現代新書 2792)

松木武彦 著

講談社

古墳はなぜ造られた？ 巨大化した理由は？ 考古学の最前線では既成概念がひっくり返っていた？ 3～7世紀、古墳時代の歴史を第一人者が編年体で叙述する。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 262p
978-4-06-541470-5

¥1,210〔税込〕



「日本文化論」はどう創られてきたか～戦時下のモンタージュ～(集英社新書 1278)

大塚 英志 著

集英社

戦時下のメディア理論と文化工作を長年研究し続けている批評家が、芸術理論がさまざまな文化と融合し、ファシズム的な表現に変容していくさまを分析。「創られた日本文化論」の正体を明らかにする。

毎日新聞 2025/12/13

2025:9./ 474p
978-4-08-721378-2

¥1,430〔税込〕



69 sixty nine(集英社文庫 む 2-20)

村上 龍 著

集英社

1969年、東京大学は入試を中止し、街にはビートルズが流れ、ヒッピーは愛と平和を叫んでいた。佐世保に住む高校三年生の僕は、何かデカイことをしたくてうずうずしていた……。青春小説の金字塔。

毎日新聞 2025/12/13

2013:6./ 235p
978-4-08-745081-1

¥660〔税込〕





墳墓記

高村 薫 著

新潮社

老いて死に瀕した一人の男が、長い長い仮死の夢を見る。そこに沸き立つのは高らかな万葉びとの声、源氏物語や伊勢物語の声、古今・新古今の歌の声。古代と現代文の自在な往還を試みた長編小説。『新潮』掲載に加筆・修正。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 179p
978-4-10-378411-1
¥2,090〔税込〕



論争大坂の陣(新潮選書)

笠谷 和比古 著

新潮社

関ヶ原合戦は、その結果として巨大な政治的矛盾を生み出していた。大坂の陣は、これら巨大な政治的矛盾の帰結として生じた。矛盾の要因を分析・検討するとともに、大坂の陣の意義をめぐる新たな見解を示す。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 238p
978-4-10-603937-9
¥1,815〔税込〕



文品～藤沢周平への旅～

後藤正治 著

中央公論新社

歳月が持つ哀しみ、人生への情熱、喪失感。時代(歴史)小説を舞台に、静謐な文体で人の世の「普遍」を描き続けた作家、藤沢周平。ノンフィクションの名手が、その人と作品の魅力に迫る。『中央公論』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 333p
978-4-12-005904-9
¥2,640〔税込〕



日本軍兵士<続> 帝国陸海軍の現実(中公新書 2838)

吉田 裕 著

中央公論新社

先の大戦で 230 万人の兵士を喪った日本。死者の 6 割は戦病死による。その背景には、「正面装備」以外の軽視、下位兵士に犠牲を強いる構造、兵士の生活・衣食住の無視があった…。兵士たちの体験を通して日本軍の本質を描く。

毎日新聞 2025/12/13

2025:1./ 264p
978-4-12-102838-9
¥990〔税込〕



Hiroshima Collection～広島平和記念資料館蔵～

土田 ヒロミ 著

N H K 出版

溶解したビン、中身が焼け焦げた弁当箱、破損した学生服…。原爆被害の苛烈さや暴力的に遮断された日常の断片を伝える被爆資料写真と、被爆直後の過酷な状況や遺された家族の悲しみを綴った文章を収録した写真記録集。

毎日新聞 2025/12/13

2025:7./ 607p
978-4-14-009362-7
¥7,700〔税込〕





『高慢と偏見』殺人事件(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 2012)

クローディア・グレイ 著

早川書房

「高慢と偏見」のエリザベスとダーシーはハウスパーティに参加する。嵐に閉ざされた2日目の晩、ウィッカムが何者かに殺され…。ジェイン・オースティン作品のカップルが総出演するバスティーシュ・ミステリ。

毎日新聞 2025/12/13

2025:2./ 462p
978-4-15-002012-5

¥2,970〔税込〕



ザ・ルーム・ネクスト・ドア

シーグリッド・ヌーネス 著

早川書房

重い病を患う友人を見舞った作家に、友人は「心の準備ができたなら薬を飲んで死を選ぶ」と告げ、その時まで隣にいてほしいと頼む。思いがけぬ日々作家が見たものは…。苦しい時を生きる人々を共感とユーモアをもって描き出す。

毎日新聞 2025/12/13

2025:1./ 237p
978-4-15-210410-6

¥2,420〔税込〕



「痛み」とは何か(ハヤカワ新書 041)

牛田 享宏 著

早川書房

気圧が下がると節々が痛い。休日になると片頭痛が出る…。その「痛み」は何を伝えるのか。痛みの背後には意外な要因が潜むケースもある。痛みの専門医が最新の治療法や研究成果を踏まえ、体と心に秘められた痛みの本質に迫る。

毎日新聞 2025/12/13

2025:4./ 236p
978-4-15-340041-2

¥1,320〔税込〕



潮音<第1巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

幕末の越中富山に生まれた川上弥一は、藩を挙げての産業・売薬業に身を投じる。やがて薩摩藩を担当する行商人となった弥一は、じょじょに薬売りと薩摩藩をつなぐ「秘密」に気づき始める…。『文藝界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:1./ 485p
978-4-16-391936-2

¥2,420〔税込〕



潮音<第2巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

薬売りとして一本立ちした川上弥一は、京に拠点を移す。寺田屋事件、池田屋事件と血なまぐさい騒動が続く京で、弥一は旧知の薩摩藩士・園田矢之助らと呼応しながら、戦乱の町を奔走し…。『文藝界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:2./ 419p
978-4-16-391947-8

¥2,420〔税込〕





潮音<第3巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

大政奉還により、幕府から新政府に権力は移ろうとしていた。医術の世界にも西洋の薬が流入。川上弥一は新時代に対応し、富山の薬売りを近代的な「カンパニー」に脱皮させようとして…。『文藝界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 453p
978-4-16-391960-7

¥2,420〔税込〕



潮音<第4巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

いよいよ時代は本格的に明治へ。文明開化で庶民の生活も大きく変化する。一方で、西南戦争では若き旧薩摩藩士たちが痛ましい死を遂げていく。そして川上弥一の身辺にも、大きな出来事が起き…。『文藝界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:4./ 405p
978-4-16-391972-0

¥2,420〔税込〕



金融市場の行動経済学〜行動とマーケットに見る非合理性の世界〜

池田新介／岡田克彦 著

日経ＢＰ社

マーケットはなぜ、どのように非効率、非合理的なのか。理論、行動データ・マーケットデータをもとに、一見不可思議な現象や変則的なファイナンス現象のメカニズムを解き明かす。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 614p
978-4-296-12150-2

¥5,500〔税込〕



サイレント・フォールアウト〜アメリカ核実験を止めた女性たちとその真実〜

伊東 英朗 著

河出書房新社

1950年代から60年代にかけてアメリカ本土でさかんに行われた核実験。女性たちの力で大統領を動かし、それを止めた事実と、その後の爪痕を独自取材で映画化した著者のドキュメンタリー。

毎日新聞 2025/12/13

2025:4./ 229p
978-4-309-03956-5

¥2,200〔税込〕



最初の星は最後の家のように

太田愛 著

光文社

どこともわからない場所に生きる双子の姉弟の物語「十月の子供たち」、半自伝的小説「給水塔」など短編小説5編とエッセイ1編を収録する、鮮烈で胸に迫る作品集。『読楽』ほか掲載に書下ろしを加え単行本化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:6./ 254p
978-4-334-10675-1

¥1,980〔税込〕





ベオグラード日誌 増補版(ちくま文庫 や 60-2)

山崎 佳代子 著

筑摩書房

こわされたもの、深い闇に沈むもの、幽かな光となって現れ生まれてくるもの…。ベオグラード在住の詩人が、2001 年から 12 年間の暮らしを点描する。2019 年 1 月～2025 年 2 月の日誌を増補。

毎日新聞 2025/12/13

2025:4./ 283p
978-4-480-44019-8

¥1,056〔税込〕



伸子(ちくま文庫 み 41-1)

宮本 百合子 著

筑摩書房

1918 年、自由で対等な夫婦を夢見て、研究者の佃と結婚した伸子。しかし、佃の嫉妬や不機嫌での支配、あてつけの如き自己犠牲もさることながら、伸子も実家から自立ができず…。著者の実体験に基づく女の立身の物語。

毎日新聞 2025/12/13

2025:8./ 526p
978-4-480-44049-5

¥1,430〔税込〕



古典の継承者たち～ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史～(ちくま学芸文庫 レ 8-1)

L.D.レノルズ、N.G.ウィルソン 著

筑摩書房

ギリシア語とラテン語の文献が保存されてきた過程の全体像を描き、写本が使われていた時代にテキストはどのような危険にさらされていたのか、古典のテキストはどのように保存されていたのかについて述べる。

毎日新聞 2025/12/13

2025:6./ 624p
978-4-480-51183-6

¥1,980〔税込〕



テオドラ～女優からビザンツ皇后、聖人へ～

デイヴィッド・ポッター 著

白水社

6 世紀、娯楽産業界とキリスト教界の人脈を持って夫ユスティニアヌスを支えたビザンツ皇后テオドラ。多くの障害を乗り越えて頂点に立ち、女性や子供のための画期的な法律を制定した女性政治家の実像を探る。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 348p
978-4-560-09159-3

¥4,400〔税込〕



第七問

リチャード・フラナガン 著

白水社

終末的未来の危機を描いた小説家 H・G・ウェルズ。原爆開発に端緒を開いた物理学者レオ・シラード。泰緬鉄道から生還した父とその家族。流刑地だった母国とそこに住む人々の歴史を描くメモワール。

毎日新聞 2025/12/13

2025:8./ 269p
978-4-560-09186-9

¥3,300〔税込〕





面倒だけど、幸せになってみようか〜日本文学翻訳家の日常〜

クォン ナミ、藤田 麗子 著

平凡社

村上春樹さんに人生相談、異業種の人々の襲撃、同窓会に行かない理由、21年ぶりに解凍された縁…。村上春樹、小川糸、群ようこ作品などの韓国語訳を手がける人気翻訳家が、ささやかで中毒性のある文章でつづる愉快的な生活。

毎日新聞 2025/12/13

2025:11./ 219p
978-4-582-83993-7

¥2,640〔税込〕



無数の言語、無数の世界〜言葉に織り込まれた世界像を読み解く〜

ケイレブ・エヴェレット 著

みすず書房

空を指して時刻を語り、「右」や「左」がなく、匂いを抽象的に精密に語る。世界の見方がどれほど異なりうるかが世界中の言語を通して見えてくる。言語と認知の可能性についての書。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 328p
978-4-622-09777-8

¥3,630〔税込〕



亀たちの時間

フランチェスカ・スコッティ 著

現代書館

夫婦、恋人、親友、家族…。ふとした出来事をきっかけにかけがえのない関係が崩れ、終わっていくシーンを静かに描きだすショートストーリーズ。全15篇を収録。テキストデータ請求券付き。

毎日新聞 2025/12/13

2025:9./ 157p
978-4-7684-5981-2

¥2,200〔税込〕



可視化される差別〜統計分析が解明する移民・エスニックマイノリティに対する差別と排外主義〜

五十嵐 彰 著

新泉社

差別とは何か？どのように捉えればいいのか？差別を「可視化」し、その実態を明らかにするための研究をもとに、差別の正体とその原因、そして差別が当事者に何をもたらしのかを明らかにする。

毎日新聞 2025/12/13

2025:2./ 432p
978-4-7877-2418-2

¥3,850〔税込〕



21世紀の擬制資本論〜変容する資本主義〜

鎌倉 孝夫 著

時潮社

低迷するマルクス学は現代に通用するのだろうか。宇野弘藏学派の継承者で、「資本論」研究70年の著者が、現代社会の何が問題で、何が核心なのかを問いかける。

毎日新聞 2025/12/13

2025:10./ 323p
978-4-7888-0780-8

¥3,850〔税込〕





ひまわりと羊～反骨の弁護士が見た戦後～

内河恵一／吉光慶太 著

中日新聞社

弁護士への道、バブルの積弊、果たせぬ恩返し…。行政を相手取った裁判を中心に弁護士活動が続ける内河恵一が、自身の生い立ちと、これまで関わってきた裁判事件などを振り返る。『中日新聞』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:6./ 202p
978-4-8062-0829-7

¥1,320〔税込〕



フクシマ、能登、そしてこれから～震災後を生きる 13 人の物語～

藍原 寛子 著

婦人之友社

被災した人々が困難な中でもよりよい社会を目指し、そして未来世代へどう引き継ごうとしているのか、何を考え、どう行動しているのか。フクシマと能登の 13 人を取材する。『婦人之友』連載に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2025/12/13

2025:3./ 237p
978-4-8292-1074-1

¥1,650〔税込〕



世界の多様性～家族構造と近代性～ 普及版

エマニュエル・トッド／荻野 文隆 著

藤原書店

意識的なイデオロギー以上に、無意識に働く家族をめぐる規制とタブー。宗教・無意識と近代性の連関を見るウェーバーやフロイトの慧眼を、非西洋中心主義的に捉え直し、家族構造から各地の多様性に迫る。

毎日新聞 2025/12/13

2025:5./ 567p
978-4-86578-463-3

¥3,630〔税込〕



光るリム

千石 英世 著

七月堂

無風の日 この地では 駅につどう人たちは 空を見上げて 瞑目する 駅で生きいそいでいったやさしい人たちの やさしいにおいが 低い空に 降りてきて やさしくにおうというのだ(「ガザ承前」より) 第 3 詩集。

毎日新聞 2025/12/13

2025:5./ 117p
978-4-87944-609-1

¥1,980〔税込〕



未完の万博(ゲンロンセレクト 008)

浅子 佳英、藤村 龍至、本田 晃子、上田 洋子 著

ゲンロン

世界最大の木造建築といわれる大屋根リング、若手建築家による 2 億円トイレ、未完に終わったロシア館…。2 つの座談会と登壇後記、論考から、大阪・関西万博の建築を検討するとともに、現代における万博の役割を問い直す。

毎日新聞 2025/12/13

2025:9./ 176p
978-4-907188-63-4

¥2,200〔税込〕





世界 99<下>

村田 沙耶香 著

集英社

14 年前、「リセット」を経験した人類。49 歳になった空子は生まれ育った「クリーン・タウン」の実家に戻る。やっと訪れた穏やかな社会の中心には、さらに変貌したピョコルンがいて…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2025/12/13、読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 428p
978-4-08-770001-5

¥2,420〔税込〕



世界 99<上>

村田 沙耶香 著

集英社

性格のない人間・空子は、コミュニティごとにふさわしい人格を作り、キャラクターを使い分けて生き延びてきた。だが、ペットのかわいい生き物・ピョコルンが、とある能力を備えると…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2025/12/13、読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 429p
978-4-08-771879-9

¥2,420〔税込〕



ゴースト・フォレスト

ピク・シュエン・フォン 著

左右社

中国本土返還に伴い、香港にひとり残ることを決意した父と、3 歳半のとき家族とともに異国カナダに渡り、いまでは NY に暮らす私。ふたりの間には微妙な距離があって…。いまを生きる中国系移民の姿を淡いタッチで描く。

毎日新聞 2025/12/13、読売新聞 2025/12/28

2025:3./ 313p
978-4-86528-461-4

¥3,080〔税込〕



see you again

小林 篤 著

講談社

1994 年 11 月、13 歳で命を絶った中学生が遺書に綴った、凄惨ないじめ。日本中が涙した遺書に、ルポライター小林は違和感を覚えた。それが 30 年に及ぶ謎解きの旅の始まりだった…。

毎日新聞 2025/12/13、日本経済新聞 2025/12/27

2025:6./ 924p
978-4-06-537728-4

¥4,950〔税込〕



コロナ対策の政策評価～日本は合理的に対応したのか～

岩本 康志 著

慶應義塾大学出版会

コロナ禍における日本の政策対応を、EBPM(合理的根拠に基づく政策形成)の視点と経済学の視点から検証。数理モデルの誤用や費用対効果の検証の軽視といった問題を鋭く指摘し、次なる危機に備えるための知見を提示する。

毎日新聞 2025/12/13、日本経済新聞 2025/12/27

2025:6./ 280p
978-4-7664-3038-7

¥3,300〔税込〕





プラムディヤ・アナンタ・トゥールとその時代<上>

押川典昭 著

めこん

3度におよぶ牢獄と流刑生活のなかで様々な物語を紡ぎ、世界的な名声を獲得したインドネシアの作家プラムディヤ・アナンタ・トゥール。豊富な資料をもとに、その生涯を描きだす。上は、1925年から1950年代までを収録。

毎日新聞 2025/12/13、毎日新聞 2025/12/20

2025:7./ 551p
978-4-8396-0343-4

¥4,950〔税込〕



プラムディヤ・アナンタ・トゥールとその時代<下>

押川典昭 著

めこん

3度におよぶ牢獄と流刑生活のなかで様々な物語を紡ぎ、世界的な名声を獲得したインドネシアの作家プラムディヤ・アナンタ・トゥール。豊富な資料をもとに、その生涯を描きだす。下は、1960年から2006年までを収録。

毎日新聞 2025/12/13、毎日新聞 2025/12/20

2025:7./ 620p
978-4-8396-0344-1

¥4,950〔税込〕



帰れない探偵

柴崎 友香 著

講談社

「世界探偵委員会連盟」に所属する「わたし」は、ある日突然、探偵事務所兼自宅の部屋に帰れなくなった。“帰れない探偵”が激動する世界を駆け巡る、全く新しい探偵小説。『群像』など掲載を加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2025/12/13、毎日新聞 2025/12/20、日本経済新聞 2025/12/27

2025:6./ 299p
978-4-06-539710-7

¥2,035〔税込〕



このとき、夜のはずれで、サイレンが鳴った

原 広司、吉見 俊哉 著

岩波書店

稀有な建築家は作品、実践、人生を通じ、いかなる時間、空間と対話してきたのか？建築家・原広司が、かつて自身の研究室に在籍した社会学者・吉見俊哉を聞き役に、全力で取り組み、遺したオーラルヒストリー。

毎日新聞 2025/12/20

2025:3./ 246p
978-4-00-022984-5

¥3,630〔税込〕



装いの翼～おしゃれと表現と～

行司 千絵 著

岩波書店

日々の装いを大切に、暮らしの中でも美を愛おしんだ、3人の表現者-絵本画家・いわさきちひろ、詩人・茨木のり子、美術作家・岡上淑子。丹念な取材から、それぞれの服と人生の物語を浮かび上がらせる。

毎日新聞 2025/12/20

2025:9./ 278p
978-4-00-025477-9

¥2,640〔税込〕





文化が違えば、心も違う?〜文化心理学の冒険〜(岩波新書 新赤版 2078)

北山 忍 著

岩波書店

日本人は協動的でアメリカ人は個人主義? このような違いはどこから生まれ、文化と心にはどのような関係があるのか。多様な知見を駆使して人間の心のメカニズムを解明する、文化心理学の最先端の試みを紹介。

2025:8./ 232p
978-4-00-432078-4

¥1,034〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



後宮〜殷から唐・五代十国まで〜(角川新書 K-494)

加藤 徹 著

KADOKAWA

小都市なみの規模を持つ巨大な密室、後宮。3000年以上も存続に成功した、公的な外廷政治と密室的な内廷政治の二本立てという中国系国家システムから、中国史をひもとく。

2025:9./ 403p
978-4-04-082533-5

¥1,430〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



マンガの原理

大場 渉／森 薫／入江 亜季 著

KADOKAWA

職業漫画家としてずっと食べていくために最も大事なものは技術。コマ割りと視線誘導、絵、フキダシとセリフ、キャラ・ネタ・ストーリーの原理など、これまで口伝で受け継がれがちだった漫画技術の数々を事例を交えて徹底解説。

2025:2./ 143p
978-4-04-606810-1

¥2,420〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



睡眠の起源(講談社現代新書 2760)

金谷 啓之 著

講談社

人類は睡眠について何を考えてきたのか。なぜ寝だめは無意味なのか。眠らない生き物は存在するのか。眠らなければいけない理由とは…。気鋭の研究者が、睡眠と意識の謎に迫る。

2024:12./ 188p
978-4-06-537796-3

¥990〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



土と生命の46億年史〜土と進化の謎に迫る〜(ブルーバックス B-2278)

藤井 一至 著

講談社

現代の科学技術をもってしても作れない「生命」と「土」。生命の誕生から動植物の進化と絶滅、人類の繁栄、文明の栄枯盛衰にまで大きく関わってきた土の進化を、46億年の地球史と生物進化の壮大なストーリーとともに描く。

2024:12./ 265p
978-4-06-537838-0

¥1,320〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



無意味なんかじゃない自分〜ハンセン病作家・北條民雄を読む〜

荒井 裕樹 著

講談社

川端康成にその才能を認められながら、ハンセン病によって 23 歳でこの世を去った作家・北條民雄。名作「いのちの初夜」を生み出した若き小説家は、なぜ病を抱えてなお書き続けたのか。気鋭の文筆家が、彼の人生を辿る。

毎日新聞 2025/12/20

2025:5./ 265p
978-4-06-539571-4

¥2,200〔税込〕



となりの陰謀論(講談社現代新書 2778)

烏谷 昌幸 著

講談社

トランプは「闇の政府」と戦っている？ オバマもバイデンもすでに処刑された？ 陰謀論はどこで生まれるのか。なぜ信じてしまうのか。現代世界を蝕む「病」の正体を、気鋭のメディア研究者が明かす。

毎日新聞 2025/12/20

2025:6./ 206p
978-4-06-540135-4

¥990〔税込〕



市村弘正著作集<上巻>

市村 弘正 著

集英社

丸山眞男と藤田省三の水脈に立つ思想史家・市村弘正の全仕事を集成。上巻は、「「名づけ」の精神史」「標識としての記録」「小さなものの諸形態 精神史覚え書」の3冊を収録。

毎日新聞 2025/12/20

2025:3./ 432p
978-4-08-789019-8

¥3,960〔税込〕



市村弘正著作集<下巻>

市村 弘正 著

集英社

丸山眞男と藤田省三の水脈に立つ思想史家・市村弘正の全仕事を集成。下巻は、「敗北の二十世紀」「読むという生き方」のほか、単著未収録の論考などを収録。

毎日新聞 2025/12/20

2025:4./ 504p
978-4-08-789020-4

¥4,180〔税込〕



荷風の昭和<前篇> 関東大震災から日米開戦まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。前篇は、関東大震災から日米開戦までを収録する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:5./ 567p
978-4-10-603927-0

¥2,860〔税込〕





荷風の昭和<後篇> 偏奇館焼亡から最期の日まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。後篇は、偏奇館焼亡から最期の日までを収録する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:5./ 590p
978-4-10-603928-7

¥2,860〔税込〕



二十四史〜『史記』に始まる中国の正史〜(中公新書 2852)

岡本 隆司 著

中央公論新社

中国において、前王朝の歴史を次の王朝が編纂した「正史」。その起源から現代まで、各書の特徴や意義、歴史を追い、日本の史書との差異、中華民国と中華人民共和国の編纂方針の対立など、時の政治の影響を受けた問題を記す。

毎日新聞 2025/12/20

2025:4./ 272p
978-4-12-102852-5

¥990〔税込〕



関係人口の時代〜「観光以上、定住未満」で地域とつながる〜(中公新書 2868)

田中 輝美 著

中央公論新社

関係人口の増加で都市と地方はどのように変わり、個人のライフスタイルにどんな影響があるのか。関係人口研究の第一人者が、全国の事例をもとに、現状と具体的な課題、実践に向けたヒントを示す。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 256p
978-4-12-102868-6

¥1,056〔税込〕



学校では教えてくれないシェイクスピア〜「名作」と友達になる〜

北村紗衣 著

朝日出版社

批評家と男子高校生が、人種、ジェンダー、批評理論などさまざまな現代の問題からシェイクスピアに迫る。2023年7〜9月に行った講義を再構成し、大幅に加筆。電子版特典コラム等を読めるQRコード(図書館利用可)付き。

毎日新聞 2025/12/20

2025:9./ 406p
978-4-255-01372-5

¥2,090〔税込〕



ジェイムズ

パーシヴァル・エヴェレット 著

河出書房新社

逃亡する黒人奴隷ジェイムズを待ち受ける、地獄の旅路とは-。マーク・トウェイン「ハックルベリー・フィンの冒険」で脇役だったジェイムズを主人公に、彼の目から見た出来事や、その複雑な内面を描く。

毎日新聞 2025/12/20

2025:6./ 411p
978-4-309-20928-9

¥2,750〔税込〕





俺の文章修行

町田 康 著

幻冬舎

千回読んだ「ちからたろう」がつくった文章の原型と世界観。ゴミ捨て場から持ち去った「ことわざ故事金言小事典」の活躍…。町田康の文体に宿るその精神と技巧。『小説幻冬』連載を加筆・修正、改題。

毎日新聞 2025/12/20

2025:1./ 260p
978-4-344-04395-4

¥1,870〔税込〕



ミニマル料理「和」〜最小限の材料で最大のおいしさを手に入れる和食のニュースタンダード〜

稲田 俊輔 著

柴田書店

「ミニマル親子丼」「ゆで魚」「三品鍋」…。少ない食材とシンプルな調理法の「ミニマル料理」を、和食をテーマに紹介する。プロセス写真付きの基本形と、味付けや付け合わせを変えた展開形に分けて掲載。

毎日新聞 2025/12/20

2024:12./ 135p
978-4-388-06389-5

¥1,980〔税込〕



棕鳩十童話集〜大造じいさんとガン・マヤの一生など〜(100年読み継がれる名作)

棕 鳩十 著

世界文化社

長年読み継がれている、棕鳩十の名作。「大造じいさんとガン」「月の輪グマ」「マヤの一生」など、人と動物の命のきらめきを伝える動物文学 6 話を収録する。「棕鳩十」文学の世界・解説つき。

毎日新聞 2025/12/20

2023:12./ 175p
978-4-418-23852-1

¥1,650〔税込〕



日本経済の死角〜収奪的システムを解き明かす〜(ちくま新書 1840)

河野 龍太郎 著

筑摩書房

「失われた 30 年」で日本の生産性は上がっているのに、実質賃金が上がらないのはなぜか。日本経済の長期停滞をよみとく際の死角や誤算を白日のもとに晒し、社会が陥りかけている「収奪的システム」から抜け出す方途を示す。

毎日新聞 2025/12/20

2025:2./ 288p
978-4-480-07671-7

¥1,034〔税込〕



ハイエク入門(ちくま新書 1859)

太子堂 正称 著

筑摩書房

20 世紀に屹立する偉大な思想家 F・ハイエクの多岐にわたる業績の全体像を整理し、現代思想の水脈に配置。その独創性に肉薄して、思想の輪郭を大きくえがく。

毎日新聞 2025/12/20

2025:5./ 480p
978-4-480-07689-2

¥1,430〔税込〕





活断層のリアル～京大元総長が語る入門講義～(PHP 新書 1442)

尾池 和夫 著

PHP 研究所

過去に繰り返し大地震を引き起こした断層面が地表に現れた「活断層」。阪神・淡路大震災などを事前に警告していた著者が、活断層の現状と基本知識を平易に解説。活断層の見つけ方、地震の予報、地震の備えについても語る。

2025:9./ 285p
978-4-569-86001-5

¥1,430〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



エッシャー完全解説～なぜ不可能が可能に見えるのか～

近藤 滋 著

みすず書房

ありえない形にリアリティをもたせるエッシャーのだまし絵。彼はそのトリックの存在を生涯隠し通し、決して語らなかった。エッシャー・マジックを徹底的に掘り下げ、その秘密を解き明かす。

2024:12./ 208p
978-4-622-09731-0

¥2,970〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



グレン・グールド作品集

ティム・ページ 編

グレン・グールド 著

みすず書房

奇才ピアニストとして知られたカナダの知識人、グレン・グールド。彼が残した主な論考、随想、録音解説、書評等を「音楽」「パフォーマンス」「メディア」などに分けて収録する。

2025:4./ 712p
978-4-622-09770-9

¥7,920〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



歴史学者と天皇・戦争～直木孝次郎の遺稿から～

直木 孝次郎 著

吉川弘文館

激動の昭和・平成を生き抜いた古代史の泰斗による未発表を含む遺稿を精選。歴史学者としての視点から、天皇や戦争についての思い、故郷神戸や知己たちとの思い出を、戦争体験者として次世代に語り継ぐ。

2025:8./ 288p
978-4-642-08483-3

¥2,750〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



シンになる。～遠野異界探訪記～

富川 岳 著

亜紀書房

遠野には、見えないものたちの世界がある。その扉をひらいたのが“シン踊り”だった。東京の広告代理店を辞め、遠野に移住した著者が、郷土芸能の現場で伝統と創造の狭間で揺れながら、文化振興に取り組む日々を綴る。

2025:6./ 334p
978-4-7505-1877-0

¥2,530〔税込〕



毎日新聞 2025/12/20



深海の地図をつくる～五大洋の底をめぐる命がけの競争～

ローラ トレザウェイ 著

柏書房

五大洋の最深部を目指す探検家、北極圏の空白を埋めるイヌイットの猟師、メキシコ湾で潜水する考古学者、地形の命名と領土問題、情報を秘匿する国家…。欲望渦巻く海底にジャーナリストが迫る、海洋ノンフィクション。

毎日新聞 2025/12/20

2025:9./ 439p
978-4-7601-5646-7

¥2,970〔税込〕



凸凹で読みとくパリ～水に翻弄されてきた街の舞台裏～

佐川美加 著

学芸出版社

フランス・パリを「地面の凸凹と水」で読み解く土木史ガイド。古代から現代までの史実を交え、自然地形や人工構造物がセーヌ川などの水とどのように影響し合い街が変化してきたかを解明する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:9./ 244p
978-4-7661-2950-5

¥2,200〔税込〕



韓国グラフィックデザイナーの仕事と環境～K-GRAPHIC IN-DEPTH～

後藤 哲也 著

グラフィック社

変革と継承、情熱と知性、独立と連帯のあいだから立ち上がる新世代韓国デザインカルチャー。その最前線を、ポップカルチャー、出版、社会をテーマに徹底取材する。「K-GRAPHIC INDEX」の姉妹編。

毎日新聞 2025/12/20

2025:3./ 247p
978-4-7661-3959-4

¥3,300〔税込〕



中国と台湾～危機と均衡の政治学～

松田 康博 著

慶應義塾大学出版会

「台湾有事」は起こるのか？中国・台湾の外交と安全保障の第一人者が、两岸関係の過去から説き起こし、台湾海峡に今後起こりうる事態のシナリオ・プランニングをもとに、日本を含めた東アジアの来るべき未来を探る。

毎日新聞 2025/12/20

2025:7./ 448p
978-4-7664-3037-0

¥3,960〔税込〕



ヒッチコックをさがせ!～超近接的映画鑑賞のすすめ～

D.A. ミラー 著

慶應義塾大学出版会

“サスペンスの帝王”アルフレッド・ヒッチコックの古典的名作たちをコマ単位で徹底分析。超近接的映画鑑賞で巨匠のスタイルを明らかにする。「ダイヤル M を廻せ!」についての書き下ろし論考も収録。

毎日新聞 2025/12/20

2025:10./ 288p
978-4-7664-3066-0

¥3,520〔税込〕





「なむ」の来歴

斎藤 真理子 著

イースト・プレス

日本、韓国、沖縄、どこへ行っても本は木(なむ)でできていた。翻訳者である著者がこれまで生きてきた地で感じたこと、言葉にしたこと、詩で表現したことなど、三点測量するように書いてきたエッセイを集大成。

毎日新聞 2025/12/20

2025:11./ 274p
978-4-7816-2508-9

¥1,980〔税込〕



学問は信頼されていないのか～統計でみる日本における科学の政治化～

太郎丸 博 編

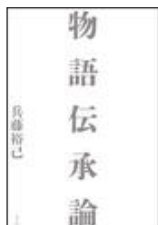
新曜社

自公連立政権と学問=科学との対立が意識されるようになって久しい。では、一般市民は科学に対してどのような視線を向けているのか。果たして、学問への信頼は凋落しているのか。計量的データをもとに分析する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 168p
978-4-7885-1890-2

¥2,750〔税込〕



物語伝承論

兵藤 裕己 著

青土社

「平家物語」の演奏、盲僧琵琶の伝承、言文一致体の起源など、従来の文学史からはこぼれ落ちる「声」の「ものがたり」をひろいあげ、いままで見えなかった豊饒な文学世界について論じる。第一人者による壮大な文学論。

毎日新聞 2025/12/20

2025:6./ 600p
978-4-7917-7722-8

¥5,720〔税込〕



社会自由主義の思想家福田徳三～生存権・国家・国際社会の思想～(シリーズ福田徳三の世界 1)

山内 進 著

信山社出版

「社会自由主義」の開拓者、福田徳三の目指したものとは何か。個人の自己決定と創造の衝動に起因した生存権の思想と国家の思想を分析し、歴史的・現代的意義を追究する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 248p
978-4-7972-0031-7
¥3,300〔税込〕



フロレンスキイ論

細川瑠璃 著

水声社

西欧絵画の遠近法と異なる中世イコンの「逆遠近法」を解き明かし、多彩な業績を残すもスターリン体制下で銃殺されたロシア正教の司祭フロレンスキイ。20世紀ロシアの謎めいた思想家の全体像に光を当てる。

毎日新聞 2025/12/20

2025:3./ 310p
978-4-8010-0862-5
¥5,500〔税込〕





汚された水道水～「発がん性物質」PFAS と米軍基地を追う～

松島京太 著
東京新聞出版部

水道水が、発がんなどの危険性を指摘されている有機フッ素化合物「PFAS」に汚染されていた! 地道な調査報道で、米軍横田基地が汚染源であることを明かし、日米安保体制の不平等、都や基地周辺自治体の姿勢を追及する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:7./ 275p
978-4-8083-1115-5
¥1,760〔税込〕



フランス中世史<1> カペー朝の革新

佐藤 彰一 著
名古屋大学出版会

フランクからフランスへ。グローバルな視座で政治・社会・経済を一望する本格的通史。1 は、弱小な王権が西欧最強の君主へと飛躍する過程を、都市・領邦からスラヴ・地中海・中東まで広がるネットワークの中で描く。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 544p
978-4-8158-1203-4
¥8,800〔税込〕



三島由紀夫を見つめて

四方田 犬彦 著
ホーム社

三島由紀夫の文学、思想、行動を包括的に論じる。1985 年以来書き継がれた批評・エッセイに加え、中上健次との対談、書き下ろし哲学小説「三島由紀夫、パゾリーニに逢う」を収録。

毎日新聞 2025/12/20

2025:10./ 491p
978-4-8342-5410-5
¥3,520〔税込〕



ぼろんじ〜奥田亡羊全歌集〜

奥田亡羊 著
書肆侃侃房

霞立つ春に浮かべて漕ぐ舟の櫂を浸せば水の素直さ 宛先も差出人もわからない叫びをひとつ預っている 生と死を見つめた 30 年の、1113 首を集めた全歌集。解説、歌集解題なども収録。

毎日新聞 2025/12/20

2025:11./ 255p
978-4-86385-708-7
¥2,310〔税込〕



とてもしずかな心臓ふたつ

村上きわみ 著
左右社

月見坂ゆるゆる下りこのまんま海になだれていこうかふたり 短歌ブーム前夜の 2000 年代初頭、インターネット上に彗星のように現れた歌人・村上きわみ。その歌集未収録作品と絶版歌集をまとめる。

毎日新聞 2025/12/20

2025:6./ 261p
978-4-86528-478-2
¥2,530〔税込〕





大いなるナショナリスト福澤諭吉

渡辺 利夫 著

藤原書店

「立国の公道」はナショナリズムである。福澤自身が書き残した文献に当たり、「欧化主義者」「文明開化論者」「啓蒙思想家」に偏った福澤諭吉像を刷新し、現代日本に求められるその思想の核心に迫る。

毎日新聞 2025/12/20

2025:1./ 257p
978-4-86578-449-7

¥2,640〔税込〕



大学の使命を問う

石井 洋二郎 著

藤原書店

日本の大学が、今、担うべき役割とは何か？ 40 年以上にわたり大学教育と管理運営の現場に携わった著者が、「教養」のあり方の再定義、文系軽視への警鐘、学長選考と大学・学問の自治といったさまざまな切り口から考察する。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 238p
978-4-86578-468-8

¥2,420〔税込〕



宇宙・時間・生命はどのように始まったのか？～ホーキング「最終理論」の先にある世界～

トマス・ハートツホ 著

ユーザベース

なぜこの宇宙は「生命を育める」のか？ 宇宙物理学者スティーヴン・ホーキングの愛弟子であり、「ホーキング最終論文」の共著者でもある天才物理学者が、未完の研究を継ぎ、最大の難問を解く。

毎日新聞 2025/12/20

2025:8./ 485p
978-4-910063-43-0

¥2,970〔税込〕



あさみどりの引っ越し日～アン・ドヒョン詩選集～(セレクション韓・詩 06)

五十嵐真希 編

アン・ドヒョン (安度眩 안도현) 著

クオン

風が吹くわけは 一本のポプラのためだ ポプラの葉の数千、数万枚が 自分のからだをのけぞらせたり ひっくりかえしたりするためだ(「風が吹くわけ」より) 韓国語で紡がれた作品を翻訳した詩集。

毎日新聞 2025/12/20

2025:6./ 194p
978-4-910214-72-6

¥2,420〔税込〕



石垣りんの手帳～1957 から 1998 年の日記～ 影印

石垣 りん 著

katsura books

詩人・石垣りんの 1957～1998 年の日記を抜粋し、手帳ページの複写を掲載。直筆の日常の記録から、「社会詩」「生活詩」と謳われた詩作が生まれた背景を探る。愛用品、自作年賀状なども紹介。

毎日新聞 2025/12/20

2025:2./ 419p
978-4-9913259-2-2

¥3,960〔税込〕





僕には鳥の言葉がわかる

鈴木 俊貴 著

小学館

「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者が、鳥の言葉を科学的に解明するための実験方法などを、軽快に綴る。シジュウカラの鳴き声が聞けるQRコード付き。

毎日新聞 2025/12/20、読売新聞 2025/12/28

2025:1./ 263p
978-4-09-389184-4

¥1,870〔税込〕



百年の短歌(新潮選書)

三枝 昂之 著

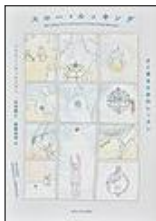
新潮社

森鷗外、樋口一葉、与謝野晶子、石川啄木、宮沢賢治、塚本邦雄、寺山修司、美智子さま…。105首の名歌を懇切に鑑賞することにより、作歌へのヒントが学べるユニークな短歌入門書。『新潮45』『波』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/12/20、読売新聞 2025/12/28

2025:10./ 239p
978-4-10-603936-2

¥1,815〔税込〕



スロー・ルッキング～よく見るためのレッスン～

シャリー ティシュマン 著

東京大学出版会

ゆっくり見れば世界が変わる。ハーバード大学プロジェクト・ゼロ主任研究員の著者が、ゆっくり見ることの効用を様々な角度から論じ、少しの工夫で誰でもできる実践的な提案を行う。

毎日新聞 2025/12/20、読売新聞 2025/12/28

2025:4./ 236p
978-4-13-051367-8

¥4,620〔税込〕



向谷地さん、幻覚妄想ってどうやって聞いたらいいんですか?(シリーズケアをひらく)

向谷地 生良 著

医学書院

精神医療の常識を溶かし、対人支援の枠組みを更新し続ける「べてるの家」創設者・向谷地生良のインタビューと、彼に言語論から迫る社会学者・大澤真幸の特別寄稿を収録。テキストデータ引換券付き。

毎日新聞 2025/12/20、読売新聞 2025/12/28

2025:2./ 281p
978-4-260-06153-7

¥2,200〔税込〕



をとめよ素晴らしき人生を得よ～女人短歌のレジスタンス～

瀬戸 夏子 著

柏書房

1949年に結成された女性だけの超結社「女人短歌会」と歌誌『女人短歌』。その周辺で歌を詠み続けた女性歌人たちの戦いとシスターフッドを描く。精選120首を収めたアンソロジー付き。柏書房公式note連載を加筆修正。

毎日新聞 2025/12/20、読売新聞 2025/12/28

2025:7./ 254p
978-4-7601-5636-8

¥2,090〔税込〕





修羅場の王〜企業の死と再生を司る「倒産弁護士」142日の記録〜

大西 康之 著

ダイヤモンド社

稲盛和夫と並ぶ JAL 再生のもう一人の立役者、瀬戸英雄。法的整理の鬼と呼ばれた彼は、政・官・業・労のしがらみを断ち切ってわずか 142 日で JAL を倒産させ、復活への道を拓いた。法と度胸を武器に戦う倒産弁護士の秘録。

毎日新聞 2025/12/20、日本経済新聞 2025/12/27

2025:10./ 421p
978-4-478-11576-3

¥2,200〔税込〕



散歩依存症〜究極 Q 太郎詩集〜

究極 Q 太郎 著

現代書館

まじないから解かれてみると 世界はきっと美しい だろう。ひつじ雲の眩しさ。競い飛ぶ鳥。家のまわりの雑草。(「童話」より) 39 篇を収録した詩集。テキストデータ請求券付き。

毎日新聞 2025/12/20、日本経済新聞 2025/12/27

2024:12./ 263p
978-4-7684-5970-6

¥3,080〔税込〕



ドッペルゲンガー〜鏡の世界への旅〜

ナオミ・クライン 著

岩波書店

危険な分身との出会いから旅は始まった-。極右の陰謀論者と間違われたことをきっかけに、思想も歴史認識も真逆の「敵地」に飛び込んで見えてきたものは? リアルとフェイク、社会の分断の奥底に目を凝らす、著者の新境地。

毎日新聞 2025/12/27

2025:12./ 510p
978-4-00-061734-5

¥4,180〔税込〕



共感の論理〜日本から始まる教育革命〜(岩波新書 新赤版 2079)

渡邊 雅子 著

岩波書店

西洋近代の矛盾が何によってもたらされ、その矛盾を解決する新たなパラダイムがどのような形で現れているのかを俯瞰。利他主義を基盤としながら、多元的に思考し判断する力を育む教育のあり方を提案する。

毎日新聞 2025/12/27

2025:9./ 206p
978-4-00-432079-1
¥990〔税込〕



逃げ続けたら世界一周してました(岩波ジュニア新書 1004)

白石 あづさ 著

岩波書店

つらくなったら、旅に逃げよう。幼い頃から生きづらさを抱え、逃げるために 3 年間の世界一周に旅立った著者が、旅先で出会った奇想天外な価値観と、人生の「避難訓練」についてユーモアあふれる文体でつづる。

毎日新聞 2025/12/27

2025:9./ 214p
978-4-00-501004-2
¥1,034〔税込〕





ジートコヴァーの最後の女神たち(CREST BOOKS)

カテジナ・トゥチコヴァー 著

新潮社

チェコに生まれ民族学の研究をしていたドラ。自分を育てた伯母スルメナの名前が、共産主義時代の秘密警察の記録に載っていることを知る。ドラの生まれ故郷では、彼女は薬草や占いを使い、不思議な力を操る「女神」の一人で...

毎日新聞 2025/12/27

2025:9./ 443p
978-4-10-590203-2

¥3,080〔税込〕



テロルの決算(文春文庫)

沢木 耕太郎 著

文芸春秋

17歳のテロリストは舞台へ駆け上がり、その冷たい刃を青ざめた顔の老政治家にむけた。とぎすまされたノンフィクションの最高傑作!

毎日新聞 2025/12/27

2008:11./ 384p
978-4-16-720914-8

¥781〔税込〕



典雅な調べに色は娘

鈴木 涼美 著

河出書房新社

コネ入社で会社で広報の仕事をして、美しく自由な「生(性)」の日々を過ごしているOLカスミ。ある日、40歳手前の男・小宮に出会い、何かが始まりそうな予感があるのだが...。『スピン』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/12/27

2025:11./ 181p
978-4-309-03238-2

¥1,980〔税込〕



地下鉄駅

何致和 著

河出書房新社

会社の金を横領した中年男性、いじめに悩む中学生、持病を苦しめた老人...。ホームで自死を選ぶ人々の人生を縦軸に、自殺防止プロジェクトを任された地下鉄職員の日々を横軸に編み上げた、現代台湾文学の旗手による社会派小説。

毎日新聞 2025/12/27

2025:10./ 441p
978-4-309-20934-0
¥3,080〔税込〕



壁の向こう側～東ドイツ知られざる生活 1949-1990～

カティア・ホイヤー 著

河出書房新社

政治、経済、社会、文化のすべてに独自性を持つ東ドイツは、単なる閉鎖された「シュタージ国」などではない。東ドイツ生まれの著者が、そこで暮らした人々の数多くの証言や記録をもとに抑圧と監視下の「日常」を描く。

毎日新聞 2025/12/27

2025:9./ 432p
978-4-309-22972-0
¥4,840〔税込〕





これからの社会のために哲学ができること〜新道徳実在論と WE ターン〜 (光文社新書 1385)

マルクス・ガブリエル、出口康夫 著

光文社

古今東西の哲学に精通する二人が対談。「わたし」一人のできる行為は何一つないと主張し、「われわれ」として生きることを提案する出口の「WE ターン」を、「道徳」は実在とするガブリエルの「新道徳実在論」が補完する。

毎日新聞 2025/12/27

2025:11./ 293p
978-4-334-10752-9

¥1,320〔税込〕



性的であるとはどのようなことか(光文社新書 1390)

難波 優輝 著

光文社

自治体のポスター、食品の CM、公園の裸婦像、医学書…。なぜ人は「何が性的か」ですれ違うのか。炎上を繰り返す広告から、美術史に残る絵画、日常生活まで、新世代の美学者が、前代未聞の「性/生」の哲学を論じる。

毎日新聞 2025/12/27

2025:12./ 213p
978-4-334-10819-9

¥990〔税込〕



統一後のドイツ〜なぜ東は異なり続けるのか〜

シュテッフェン・マウ 著

白水社

統一から 35 年、東西ドイツの差は依然として様々な分野で残り続けている。社会構造、人口動態、民主主義等の問題を実証的に分析し、右翼ポピュリズム政党「AfD」台頭の深層を探り、民主主義再生への道を示す。

毎日新聞 2025/12/27

2025:10./ 230p
978-4-560-09196-8

¥2,530〔税込〕



渦巻の芸術人類学〜死と再生のスパイラル〜

鶴岡 真弓 著

青土社

人類が死からの再生と吉祥を願い、土偶・聖書写本・アニメ等に刻み続けてきた「渦巻」。「生命循環」の象徴として、西洋・東洋の文明に見られる渦巻の造形・表象に秘められた、祈りと創造力の根源を探求する画期的考察。

毎日新聞 2025/12/27

2025:9./ 464p
978-4-7917-7597-2

¥4,840〔税込〕



心の浮力

李承雨／平原奈央子 著

書肆侃侃房

夢を追い不器用に生きた、もうこの世にいない兄と、堅実に歩む僕。兄弟と老いた母の愛の形を描いた表題作をはじめ、家族や介護、格差など同時代の社会問題を通して現代人の生をうつしだす全 8 編の短編を収録する。

毎日新聞 2025/12/27

2025:11./ 203p
978-4-86385-704-9

¥2,310〔税込〕





世界の子育てくらべてみたら、心がふわっとラクになった

織田 博子 著

WAVE 出版

離乳食、お風呂、寝かしつけ、トイレトレーニング…。子育てって超ハード！世界の多様な子育て文化をマンガで紹介。お母さんの心がラクになり、楽しく子育てができるよう、世界の人々の考え方や工夫を伝えます。

毎日新聞 2025/12/27

2025:6./ 124p
978-4-86621-525-9

¥1,650〔税込〕



鴉は硝子のフリルで踊る

梅崎 実奈 編

河出書房新社

幻想的な作風の短歌を一つの世界に収めたい。詩歌棚を 10 年以上担当してきた書店員の「好き」を目一杯詰め込んだ宝箱のような短歌アンソロジー。偏愛の 147 首を収録。

毎日新聞 2025/12/29

2025:10./ 145p
978-4-309-03233-7

¥2,530〔税込〕



雨の器～益岡茱萸句集～

益岡 茱萸 著

ふらんす堂

打水の最後はなんとなく捨てて おにぎりをしみじみ食べて野分後 お菜には足らぬ数なりふきのたう ちゃんちゃんこ猫にとられてしまひけり 今日もいつか古代となるや 天の川 第 2 句集。

毎日新聞 2025/12/29

2025:11./ 198p
978-4-7814-1779-0

¥3,190〔税込〕

